2F-54

支那革命外史

北一輝 著

聖紀書房

222.07
Ki277s
00448051

トエ-2P-54

北一輝著

支那革命外史

聖紀書房

222.07
Ki277R
II

448051

序

日本の東方には今ワシントン會議なる名に於てヴエルサイユ條約が寸裂燒却されんとする國際的大舞臺の廻轉が轟き始めた。而して西の方支那の革命的進行が十年間の下燃えから噴出して將に冲天の焰を擧げんとして居る。時を同じうして起れる東西兩大陸の驚異の間に、六年間埋もれて居た此書を公けにする。

今秋の十月十日で清朝三百年の君主政治を顚覆した武漢の烽火から滿十年目になる。隔世の感の如く又昨今の想もする。支那は民國元年となり、同時に日本亦大正元年となつた。日露戰爭の勝利と、日露戰爭に打勝つた日本の思想とに啓蒙されて起きたものが十年前の清末革命である。徒らに民主國の名を冠して而も何等の建設、何等の破壞を爲し得なんだ爾後十年間の支那は、支那自身の爲めにも恥づべき限りであつた。支那が日本の輕侮を招いたのは必ずし

も不當でない。日本亦徒らに大正義の改元を宣して而も其の支那に加へた言動は悉く不義の累積であつた。支那の革命を啓發した戰爭の國家的大道念其者を喪失してウロ〳〵して居たのが爾後十年間の日本であつた。日本自身の恥辱に於て支那の百千倍である。日本が支那より排侮され列國より脅威さるゝのに少しも不當はない。

民國及び大正の三年、支那及び日本の爲めに、參加すべからざる世界大戰に先頭第一の輕燥を以て日本は引摺り込まれて居た。此書は翌四年故袁世凱が帝政計畫を遂行し日本の施策再び三たび謬妄を重ねんとしつゝあるを見て、其年の十月執筆の傍より印刷しつゝ時の權力執行の地位に在る人々に示した者である。第八章『南京政府崩壞の眞相』迄が其れである。然るに暗合の如く一致して同月故蔡鍔が雲南から通稱第三革命といふ討袁の兵を擧げたので、革命黨の諸友悉く動き、故譚人鳳の上京して時の大隈內閣との交渉を試むる等のことあり、爲めに筆を中止した。後半の執筆は翌五年四五月の間で、革命も酣はならんとするかに見えたので眞に寸閑を窺んで筆を走らせる後から〳〵と印刷を

急がせた。元來文筆の士に非ざる者の文字更に拙惡蕪雜を加へた所以である。當時老眼鏡の人々に見易きため大きな活字の者であつたのを、此冊子に組み改める機會に於て章句段落等を整へて見たが、文章としては誠に申譯ないものである。而して最後の印刷が配布されつゝある時、實に六月六日討袁軍の目標として居た袁世凱が急死した。革命は又々頓挫した。不肖は別個滿腹の決意を抱いて一人再び支那に渡つた。

而しながら後半の配布に論述して在る凡ての題目、則ち支那の革命が如何に徹底し而して如何に其れが日本及び其他の國際政局に決定的方向を與へるかの洞察は、當時に於て不退轉の大信念なりし如く今日に及んで不可抗の大現實として日本の東西に出現して來た。大兵亂を捲き起さんとしつゝある革命支那とワシントン會議とは、此書を道念と聰明を以て讀み得る者の當り得るところである。故に此の書は支那の革命史を目的としたものでないことは論ない。清末革命の前後に亘る理論的解說と革命支那の今後に對する指導的論議である。同時に支那の革命と並行して日本の對支策及び對世界策の革命的一變を

討論力說してある。則ち『革命支那』と『革命的對外策』といふ二個の論題を一個不可分的に論述したものである。

書中、二十一ケ條の對支交渉を遺憾限りなしとし又、對支政策及對外策の全局に於て日本は日英同盟に據るべからず日米の協調的握手にあることを指示した所が多い。今にして明かに見るのは當時の執權者全部よりも不肖の正當であつたことだ。英國に引摺られて鼻糞大の三五個の島嶼と山東の一角の爲めにヴェルサイユの暗礁に乘り上げたのは誰だ。此等を仕出來した加藤外務卿が首縊りをするだけの良心もなくて、今更日英同盟の無用を陳述するから凄まじい。已に日露戰爭の大事實によりて決定されて居る滿洲の主權を、九十九ケ年に猿まねをして二十一ケ條に盛り込んだ汚らはしき小細工。反對に九十九年にして支那に返附さるゝことなき青島を、『支那に還附する目的を以て』と自ら全世界に公約したベラボー至極の顚倒事。――大戰參加の發足より地獄の港に向けた船である。爲る事爲す事悉く國家を殘害するものであつたのは勿論の事だ。

實に『日米經濟同盟』は大戰中に於て固より決行すべき者であつた。たとへ大戰參加の途を誤れりとも支那に對して日米の同盟的利害を確定してあつたならば、尠くもヴェルサイユに於て支那と米國とから一整に排日の泥を投げつけられることはなかつたのである。この點に於て彼等の最惡に亞いだ寺內政府の對支策が亦最惡の者であつたのは論ない。此書は、米國と、及び米國に盲從して支那が大戰に參加せなかつた以前に書かれた。而も今日に至て權威を持てる者の如く日本の進むべき一道を指示して居る。――ワシントン會議の議題の一とさるゝ支那が大革命の火を擧げんとしつゝある時、ワシントン政府と革命支那との間にこの一事、――日米經濟同盟の一事を決行することは政府及び國民の國家的大義務となつた。是れ日英同盟より日米同盟に轉向する杆槓である。當時日英經濟同盟の如きを放言して居た大隈侯が、此書を熟讀せしめられたことによりて、爾來米國資本團の來朝者等に向つて日米經濟同盟の說法を試みつゝあつたのは悅ばしい。勿論、鐵道の大々的統一の爲めの日米合同借款と云ふ大眼目を把握し得ず單なる口頭的反響であつたが、彼等としては上出來

の部である。書中、如何に此翁をさへ正道に導かんとして期待激勵に努めたるかを憫れめ。只經國の大業に仕ふるを以ての故に、辭を厚ふし禮を卑ふするの文章がある。

書中、『革命支那』の爲めには支那の武斷的大統一を力說し、日本の『革命的對外策』の爲めには南北滿洲と西比利亞の領有を力說した。ロマノフの露西亞がレニンの露西亞に代はれりとも日本の大亞細亞政策に一分の退轉はない筈だ。國家內に於て國民生活の分配的正義が主張さるゝ根據に立ちて、國際間に於ける國家生活の分配的正義を劍に依りて主張するのだ。――これ不肖の民主社會主義が日本群島に行はるゝ時革命的大帝國主義たる所以の一である。故寺內元帥が朝鮮に鎭坐ます時『此の書物に讀まれた』ことは感謝する。而も大隈內閣に代るや直ちに日獨同盟の失言事件を生じたり、袁世凱の更に無價値なる者に過ぎざる段祺瑞に一億五千萬圓の軍資軍器を貢いだり、西比利亞に――チエツク、スロバツクと申すものゝ爲めに――御覽の如き出兵をしたりした。何たる迷惑な讀まれ方であるぞ。虎を描いて狗に類するとは眞實この事である。

本書を讀まるゝ方は文調の舊式であり態度の諫諍的であるのを怪むであらう。不肖は六年後の今日之れを校正しつゝ、符節を合する如き古今の一致に眉を顰めた。日蓮と雖も元寇襲來を警告せる立正安國論は彼自身の文調でなく又時の權力者に對する諫諍的態度であつた。不肖は此書を時の權力階級の人々に配布して支那に去る時、是れ『大正安國論』なり、正義を大成して國家を安んずるの道を論叙せる者なりとして書いた。而も之を受取つた彼等は殆ど悉く書中の作爲名詞、支那の『亡國階級』其者ではなかつたか。不肖は日蓮に非ず又日蓮の奴隸に非ず。切に讀者諸公の間より膽甕の如き相模太郎の出現を待望止まざる者である。

不肖は此書が極めて限られた範圍の配布なりしに係らず、これに依りて滿川龜太郎君を得た。大川周明君を得た。五年に來訪を受けたゞけの滿川君に『ヴエルサイユ會議の最高判決』を書き送り得る信賴の大節義を見た。一面識だにない六尺豐かな大川君が、日本が革命になる、支那よりも日本が危いから歸國し

ろとワザ〳〵上海にまで迎へに來た大道念に刎頸の契を結んだ。此書が大隈寺内氏等に誤り讀まれても、斯く炎々焰の如き魂を以て此書が何を欲し何を目的とするかを看破したものがある。若し此書にして更に幾十人かの大川公滿川伯を得ば、日本の事、大亞細亞の事、手に唾して成すべしである。

相抱いて淵に投じた二人の中、一人は眠から覺めなんだ。一人は蘇生した。蘇生した一人が倒幕革命の一幕を終つて空しく墓前に哭した時、頭を回らせば已に十有餘年の夢である。不肖亦支那の革命に與みして十有餘年、眞に一夢の如し。碌々何事をも成す能はざりし遺憾は盟友等の墓石に對するも快くない。清朝顚覆の一幕、盟友等にとりて何程のことであらう。非命に仆れた宋教仁范鴻仙君等の悽慘な屍を卷頭に弔らひ揭げて、獨り暗涙を呑みつゝ筆を執つて居た六年前の不肖自身の心中が悲まれる。

當時世に在り、功罪を論ずるには餘りに中心的人物であつたので筆法に大なる制限を用ひた譚人鳳も昨九年四月――共に或は生きて相見ざるべきかの袂別をして僅か四ヶ月の後――老楠の摧くる如く上海に客死した。翁の遺像を提げて、三世を契れる知己を弔つて置く。實に彼は清末革命の大根柱であつた。彼の雄略斗膽は豐太閤を現代支那に再生せしめたかとも見えた。宋范二友の遺志を一人生き殘りて負へるかの如き于右任君の大德と共に天の囑望した双璧であつた。今日彼の愛孫を撫育しつゝあるにつけても思出の種のみである。翁の二子故譚二式君が七年夏湖南の獄を逃れんとして背後より銃殺されたゝめに、生後已に十日にして母を失つて居た彼の愛孫――父と祖父との恨を負へる孤兒は今隣國革命家の手に養はれて外國人なる我を父と呼んで居る。悲憤其者を搖籃にして睦み戯むるゝ兒よ。不幸若し汝が今父と呼べる者の世に無き運命に會した時、汝の眞の父と祖父と而して汝の故國とを此書によりて學べ。汝を抱くことによりて隣國の父は產れた許りな汝の革命支那を抱いて居るのだ。何たる不可思議なる一致ぞ。母を弑して產れた汝を懷ろにして祖父の老英雄が亡命の地に斷腸の想をして居た時、――四年の十一月、――時を同じうして此書が汝の故國を隣國に訴へんが爲めに書かれ始めたのである。朝々暮々の禱は汝の健かに長じて汝の父と祖父の遺志を汝の故國に繼ぐとであるぞよ。

此書は汝一人の爲めにも世に留むべきものである。――三更經前に默坐する時の如き、綿々の恨を引く此等盟友の魂が迷ふ、支那の山河があり〳〵と眼底に現ずる。あゝ歴史とは斯る魂より滴り落つる血の聯續であるのか。

此書の當時は露西亞皇室の顚覆せる革命も起らず、獨逸墺太利の君臣萬々歳に見えたこと、恰も今日大英帝國と其の皇室とが然か見ゆる如くであつた。佛蘭西革命以後百年にして始めて、露西亞の革命がガボンの火花に一躍して以來亦始めて、而かも意外なる亞細亞民族に突發した君主政顚覆の革命であつたのである。固より深刻なる理解者に取りて古今凡ての革命とは君主政對民主政と云ふが如きものでない。從て清末革命亦一民族の一體的復活の爲めに其の命を革めんとする躍動、則ち民族主義の革命であつたことは書中に說ける通りである。而しながら今日と全然時代の風潮が異つて居た爲に全世界、特に日本の驚異であつた。實に大戰の始と終とに於て世界の革命風潮は眞實一世紀を隔つる急變をした。從て此書は一世紀前の舊文字とも言ひ得る。而しながら支那の革命的進行を推斷してある部分、――例へば破産せる財政革命の基本として掠奪沒收徵發等の前提的過程を要することを指示したり、列强の分割を豫劃せる財政的侵略則ち外債全部の沒收を避くべからざる道程なりとして論叙せる部分の如き、――當時日本及び支那の識者の首肯に危ぶんだところの者も今は却て露西亞の人々によりて實證されたのを見よ。革命の鮮血舞臺に演舞すべく天より遣はさるゝほどの者の思想行動には、國境と時代を一貫して枉ぐべからざる或者がある。大西鄕のしたことはレニン君の爲す所であり、大奈翁の行つたところは明治大皇帝の踏める道である。彼此相學ぶに非ず、先聖後聖其軌一なるが故である。有田ドラツグの梅毒廣告と皇室中心主義者流によりて維新革命の君臣二英雄が理解されると思ふか。小田原のラスプーチンの前に最敬禮を表する軍閥者輩によりて、佛蘭西革命の產んだマホメツトが知悉されると思ふか。然らばレニン和尙ほどのもの亦凡骨でない限り、センチメンタルな飜譯蚊士共によりて窺知されやう道理がない。レニン君が革命支那から何等の指導を受けない如くに、來るべき日本の英雄――諸公はレニンと沒交渉の後聖であると信ずる。然り。來るべき支那が此書以後露西亞の革命により

て立證された如く、革命の支那は東洋革命の露西亞である。(日本は支那から火のつく東洋の獨逸ではない)。官僚と飜譯蚊士とはレニンの宣傳によりて支那の赤化するかに考へて恐怖し又は待望して居る。其の低能さ加減に於て兩々相下らざる野呂間共である。革命は維新の日本を赤化した。然らば支那が自ら燃ゆる時其の火の赤きに何の愕くことがある。

諸公。此書が革命の支那を解說せんとして筆を佛蘭西革命と維新革命とに横溢せしめた所以は是の爲めである。今の元老(一世紀前の此書なるが故に禮を厚ふして指名した人々)及び死去せる元老なる者等が維新革命の心的體現者大西鄕を群がり殺して以來、則ち明治十年以後の日本は聊かも革命の建設ではなく、復辟の背進的逆轉である。現代日本の何處に維新革命の魂と制度とを見ることが出來るか。押されたる者の押し返へさんとする物理的原則、――封建時代への反動的要求を挾んで、是亦反動時代であつた英佛獨露の制度を輸入せる――朽根に腐木を接いだ東西混淆の中世的國家が現代日本である。屍骸には蛆が湧く。維新革命の屍骸から湧いてムク〳〵と肥つた蛆が所謂元老なる者と然り而して現代日本の制度である。維新革命の奈翁皇帝の內容に大西鄕と其の他の二三子の魂が躍々充塞して居た時代と、伊藤山縣等の成金大名權助ペク內から成り上つた)の輩が光輝を蔽つてしまつた時代との差別さへつかない現代日本だ。我自ら中世的國家の泥の中に住んで居る鮒の如き人々に、支那の革命を理解せしめんとした此の書は恥づべき努力であつた。大西鄕が何故に第二革命の叛旗を擧げたか。而して其の失敗が如何に爾後四十年間の日本を反動的大洪水の泥土に洗ひ流して、眼前見る如き黃金大名の聯邦制度と其れを維持する德川其儘の御役人政治とを築き上げたか。是等日本自身の一大事を心得て居るならば、淸末革命の後に第二第三の革命あり更に革命目的を徹底せんとする現下支那の戰雲に一々の註釋を要しない筈である。革命とは順逆不二の法門であり、其の理論は不立文字である。湊川の楠公は二百年間逆賊であつた。其墓碑さへも外國人の一亡命客に指示されて建つた。是れ英國人自身のカーライルによりてクロムエルの泥が洗はれたよりも恥かしき逆賊である。大西鄕亦足利尊氏でよろしい。彼の銅像は圖々しくも彼れを亂刺したブ

ルタス共によりて築かれた。而して今や忠臣藏のお化けの如く上野の森に迷つて居る。――あゝ『支那革命外史』に萬言を列ねて而して求むる所の者は何ぞ。不肖は歴史を書く爲めに生れては來ない。彼等と共に書かるべき運命の波に投げ込まれて居る。恰も賴山陽の日本外史が日本の歴史的記錄に非ざるが如し。

『ヴエルサイユ會議に對する最高判決』の全部的適中によりて不肖を賣卜者の如く取扱ふことに不可なし。而も是れを以て過去の者と看じ去るならば此の憐むべき賣卜者を遇する所以ではない。三年の前に、道理を卦とし事實を筮竹として下した斷案が今日に至て世界的現實として表はれたならば、未だ現實に現はれて來ない部分の斷案は更に三年の今後を指示する者でないか。――英米の割裂。延ひて英米相屠るべき第二世界大戰の運命。其渦中に處して印度の獨立と支那の自立とを負へる日本國自身の革命的大帝國の破壞及び建設。日の本の神々は若き『明治三世』の御見學の爲めに、日英同盟の屍骸を土左衛門の如くテームス河に浮き上げて指し示した、而してワシントン會議がヴエルサイユ條約を葬むる會葬式である默示を、亦米國々務省に藏せる條約正文の盜失によりて全世界に揭げ示した。神々の照覽の下に敢て此言をなさん。――啻に此の一書簡のみでなく、此書全部が今や我が日本國の進むべき唯一の對支策及び全部の對外策となつたのである。若し此書の指示する所と反對に日本國を導く者あらば、是れ三千年の歴史を亡ぼすロマノフの廷臣でありカイゼルの臣僕である。

支那公使山座圓次郎氏と同參事官水野幸吉氏の遺影を書中に挾んで置いた理由につきては不肖自身の語るべき限りの者でない。歴史は沈默のまゝに流れて居ればよろしい。或は天選ばれた者の手を借りて歴史の唇を引裂く日もあらう。あゝ黑い血潮を吐いて前後任地に仆れた公等の道義的對支策を繼承すべき第二の公等は今何處にあるのだ。凡ての聰明の源泉である道念の人々こそ、公等の盡くるなき恨を嚙み殺しつゝ洩し訟へて居る此の書の謎を解き得るであらう。――さうだ。今日終に時機到來した日英間の袂別は公等の死を以て購ひ得たのであるか。支那と、印度と、而して日本國自身の爲めに、日英戰爭の

運命を憤叫して置いた此書こそ、今は公等の恨の爲にも公等の國家に捧ぐべきものとなつた。

經文に大地震裂して地湧の菩薩の出現することを云ふ。大地震裂とは過ぐる世界大戰の如き、來りつゝある世界革命の如き是れである。地湧菩薩とは地下層に埋るゝ救主の群といふこと、則ち草澤の英雄下層階級の義傑偉人の義である。――支那は十年前の十月十日、清末革命の本義を徹底せんが爲めに禹域四百州の大地今將に震裂せんとして居る。露西亞の大地震裂に際して地湧の菩薩等は不動尊の劍を揮ひ不動尊の火を放つた。露西亞と同じき中世的制度と中世的墮落を持てる支那は、露西亞の救はれつゝある途を踏むことに依りてのみ救はるゝ。書中、革命過程に於ける議會の法理的不合理と事實的有害とを論究し、哲人的皇帝の意味に於ける終身大總統制を革命の支那に見んことを提示した。是れ亦內外に對する財政的沒收の主張と共に皮相的デモクラシーの徒の愕き否んだ所の者であつた。而も不肖の革命哲學は支那の立證を待たずして先づ露西亞の不動尊共に裏書人を得た。レニン君の現はれざる以前、奈翁皇帝と明治大帝とに學ぶべしとて示して置いた支那の大統一は、支那の何處より湧出する菩薩摩訶薩によりて爲さるゝであらうか。泥人形の如き大總統が三頭交々迭立し、烏の雌雄を辨ぜざる議會が南北に正閏を爭ふ。佛蘭西革命に恥ぢ、維新革命に恥ぢ、而して後れたる露西亞革命に恥ぢよ。

明かに告ぐ。隣國の革命的諸友と後進とは亦此の書に學ぶべき者である。此書は公等の先進犧牲の魂を埋めた聖なる墓標である。何ぞ著者に抱かるゝ一孤兒のみならんや。書中革命支那の大統一者を『オゴタイ汗』と名けた。是れ革命的統一の潮頭に立つ程の大器は、必ず其の馬首を中央亞細亞に進むべき必然を密かに暗示したのである。人口過剩の支那に缺くべからざる土地、則ち『第二支那本部』は中央亞細亞の沃野であらねばならぬ。是れ中央亞細亞に國を建てゝ、歐亞兩大陸を支配した古英雄の名を借りた所以である。ピーター大帝は東に來た。革命支那の大道は坦々として西に通じて居る。日英戰爭が日本の運命なる如く、書中に論述せる露支戰爭は、露國が如何に變化し支那が如何に變化すとも露支兩國の避くべからざる運命である。

あゝ支那は清末革命の十月十日に歸へらんとする。而も日本は何處に歸へれば宜いのであるか。隣國の生殘者によりて『支那革命外史』が書かるゝ如きことは、日本の想ひも寄らざる所である。

北一輝

支那革命外史目次摘要

一　緒言……一

政府も國民も支那革命につきて一の合理的理解なし。――在支吏僚と派遣軍人と所謂支那通とは眞の説明者にあらず。――無理解的代辨者として大隈伯の日英經濟同盟論。――佛蘭西革命家自身維新革命家自身が各其の革命を理解せざりし如く、支那革命黨其人より革命の合理的説明を要むる能はず。――エドマンド・バークが對岸の革命を理解せざりし如く日本の朝野亦然り。――根據ある説明者たり得べき不肖の特殊なる地位。

二　孫逸仙の米國的理想は革命黨の理想に非ず……九

一般に孫逸仙を以て革命の理想的代辨者となす前提的誤謬。――グッドノーの共和政不可行論。――板桓伯の言論によつて日本憲法を解釋せんとする如し。――米國と支那の建國精神よりの相異。――米國的自由政治は支那

に於て他の自由を認めざる一黨專制政治となる。――米國的飜譯の聯邦論。――米合衆國の建國は十三獨立國の對英攻守同盟を永久にしたる者、其の膨脹亦獨立國を購買し征服したる者。――支那は建國より歴史を通じて統一國家なり。――維新革命の時の獨立國的各藩は各省的感情の比にあらざりき。――ラフアエットの聯邦國的飜譯が封建的區劃を存せし佛蘭西にさへ行はれざりし理由。――米國的飜譯に捉はるゝ外國援助運動。――外國に援助せられたる舊權力と戰へる佛國革命と、外國の兵力援助によりてのみ獨立を爲したる米國獨立戰爭とは全くの別物なり。――ワシントンは北米の永久中立を宣言したるモンローのみ。――日本が革命を援助せず又防害せざりし所以は別個の倫理的理由に存す。――革命は國士の事業。――孫は革命運動の代表者にも非ず。――日本浪人の援助運動と革命黨との矛盾阻隔。――個々人の褒貶に非ず革命の因果的研究なり。

三　革命を啓發せる日本思想……二八

支那革命の理想は日本思想に啓發せらる。――維新革命の理想を啓發したる支那思想。――佛國革命に於ける英國思想の輸入と等しき日本飜譯の『百科全書』。――奴隷的佛國が理想したる英國的自由と亡國的支那の理想する日本的國家民族主義。――日本の國家民族主義は直ちに清朝を否定する革命哲學となれり。――東西を通じて革命とは少數なる年少書生の事業。――維新革命佛國革命及び露國革命に於ける例證。――支那民族の雷同性に非ず革命的理解の普及なり。――一孫の追放に係はりなき日本留學生の革命化。――支那革命の理解者は官吏登用試驗の及第者に非ず。――佛蘭西革命に與へたる理想的指導に英國自身が自覺せざりし如くなるべからず。

四　革命黨の覺醒時代……三九

排滿の民族的革命を成功せる今日に於て而も何故に革命を要するか。――排滿革命の元勳等が去就を誤れる所以。――排滿革命は興漢革命の前提的運動なり。――今後革命亂の免かれざる支那に對して日本は徹底的理解を要す。――佛國日本と等しく革命は兵火の勝敗に非ずして思想戰爭なり。――暗殺によりて成れる維新革命。――秘密結社時代の各思想系。――章大炎と孫逸仙の爭。――日本政府よりの迫害時代。――故宋教仁等の國家主義的統一及び秘密聯絡時代。――孫と袂別したる革命系統の軍隊運動。――青年土耳古黨の實物教訓。――支那浪人等の滑稽劇。

五　革命運動の概觀……五四
六　革命渦中の批評……七五

愛國革命は凡て其の始めに於て排外黨なり。――革命黨が日本思想系なりと云ふを以て親日主義なりと云ふ笑ふべき沒論理。――革命黨が或る場合に於て最も强列なる排日運動の中堅なる所以。――故宋は愛國革命の一指導者たるを以て孫系浪人に排斥さる。――故宋に對する不肖の立場。――間島問題に於て日本を挫きし宋の苦衷。――革命黨の借款拒斥運動。――新統治的心意を支配せる形なき中央政府『民立報』。――廣東の失敗と故趙聲の大器。――『中部同盟會』の大運動と譚人鳳の人物評。――軍隊運動の手段。――黎元洪は元勳首唱にあらず革黨に捕虜となりて强迫せられたる者。――革黨の輿論運動と粵漢鐵道國有の導火線。――チュレリー宮殿と等しき北京城內の寶國王。――四川より武昌長沙の烽火。

革命爆發に於て孫黃譚宋等悉く計畫者にあらず。――四川の動搖と長江各省の爆發すべき氣運動く。――爆彈破裂より起れる武昌の擧兵。――一日本人と雖も革命に關係なき論證。――其の證明として上海奪取の實見談。――日本人の倫理的共鳴を以て革命援助と誇る勿れ。――東京公使館の占領に東京市民の無關係なりし如し。――革命黨自ら號令者たるべき規定。――武昌に於て老譚が自ら指揮者たらざりしよりの根本的失策。――宋の軍政府組織に隨はざりし黃興の失策。――黃の敗走は明の嗜きに出づ。――宋の南京占據方針。――敵城出入中に於て實見せる彼等の興國的冒險的氣魄。――支那悲觀論者は德川時代の日本觀を以て亡國を類推せる外人の如し。

七　南京政府設立の眞相……一〇一

封建的奴隷心を脫せざる現代日本人。――支那浪人の神輿となれる黃興の禍因。――最後の南京占領も亦日本人に一の負ふ所なし。――故宋の大局的眼光と一貫の行動。――中央政府設立に於ける彼の苦心。――章大炎の黃興否認の宣言。――大元帥の文字的暗示より生ぜる形勢の逆轉。――孫の歸來と浪人團の擁立。――張繼の孫宋調和。――寸功なくて大總統を辭せざりし孫の心理は如何。――孫の歷史的勳功は建國の際に於て共和政を宣布せる一事に在り。――革命期に於て一般國民が新政體を理解せざる日本佛蘭西の前例。――ルソーの無理解。――『中華民國臨時政府組織大綱』は全然歐米の飜譯より獨立したる東洋的共和政なり。――孫と握手せる宋が憲法に於て

まで譲歩せる大失策。――中央政府設立者は其の設立と同時に排陷せらる。

八　南京政府崩壞の經過……一二八

統一的共和政の憲法編纂に當れる宋。――日本元老等の妥協勸告の風說と宋の遣日全權代表。――孫黨日本人の宋排斥運動と孫自身の迷惑。――盛宣懷を再びせる孫の漢冶萍借款交渉。――革命生起の根本精神に反逆せる孫の四面楚歌。――孫政府の動搖に對する張宋等の苦心。――孫の始めより革命政府に首長たるべからざる說明。――袁に投げ出せしは孫唯一の活路なりき。――日本人の或者は革命を援助せりと云ふ虛妄よりも甚しく妨害したり。――佛國の北米獨立援助後兩國々交の阻隔を戒とせよ。――南北妥協の大局的行動を是認して日本朝野の相扞格せる妄動を反省せよ。

九　投降將軍袁世凱……一一〇

天未だ支那に英雄を與へず。――理論を沒したる超人的說明を以て孫を說き袁を考ふるは一種の支那人崇拜論者なり。――袁は獵官運動者として偶々起用を得たるのみ。――袁は簒奪の奸雄に非ず平凡なる忠臣なり。――彼は起用後直ちに武昌に降伏密使を送れり。――全支那の連日的呼應蜂起に包まれたる袁內閣の降伏方針。――彼は事大主義者として革命風潮に恐怖隨從したるのみ。――彼が端方の如く殺されざりし所以は一に京漢鐵道に近かりしのみ。――勝海舟の役割を演ぜるモリソン。――『革命』は統治者として講和使に臨めり。――革軍の勸降使に一變せる事大主義の唐紹儀。――革命を中挫せしめたる英國、及び其附庸國日本。――革命を決したる北・最後の爆裂彈。――良弼の爆殺と袁の爆殺未遂は日英の妨害を突破して淸帝退位を決せり。――官革兩軍を翻弄せし奸雄とは何の謂ひぞ。――革命終了後に來れる孫は殘されたる唯一の任務たる對袁交渉に於ても到底凡骨なりき。

十　英公使の買辨袁世凱……一八四

日英同盟と支那保全主義とは兩立せず。――日英同盟は露西亞の恐怖なき今日に於ては本來の意義なし。――正義に根據せる日本の支那保全主義と、英國の資本的侵略の爲めの共れ。――日本を南滿に占據せしめたる天の配劑。――揚子江各省に對して英國は勢力範圍を主張する何等の根據なし。――北支那の爲めの日露戰爭は南支那の爲めに日英開戰となる。――英國の資本侵略を飜譯する日本對支策。――日本はカルセーヂよりも羅馬たるべ

し。――日本の對支策は分割か保全かを分つ能はず。――英國の資本的侵略を打破したる後に日支提携を云ひ得べし。――保全主義の本來の面目より墮落せる日本に對して支那の憤恨するは論なし。――南京政府は日本に對する國民的反感の爲めに倒されたる者。――自己の買辨を擁立しつゝ日本を譏誣したる英國。――日支交渉とは英國の指導權下に在る支那に向つて、等しく英國の指導權下に在る日本が指導權を要請したる被保護國同志の攜合ひのみ。――英人の活躍と醉眼朦朧の孔明諸君。――同族相食ましめて巧みに擒縱する英國の下等人種統御策。――日本の墮落外交の犧牲たりし革命黨の悲慘なる末路。

十一　對日警戒の爲めの北京中心……二〇五

黎袁の人物批判の無用なるは朽木と糞土との比較論の如し。――統一的要求の波濤中に浮沈せる孫袁。――孫が革命を起さゞりし如く袁は南北を統一したる者に非らず。――日支同盟の必要條件として北京を首都たらしむべからず。――北京の兵變は袁の謀略にあらず。――東洋の獨墺同盟たるべきを理解せざる日支兩國。――南滿洲は日本の領土にして支那の主權を認むる何等の理由なし。――支那浪人支那學者等の國權的無自覺。――南滿は支那保全の萬里長城なりき。――南滿占有の意義を忘れたる日本の外交的墮落。――各省獨立に應じたる蒙古獨立の名に陰れて露西亞の蒙古侵略あり。――日露の野心の爲めに北京を中心とし終に關中に在りし袁を王たらしめしのみ。――憤々として歸國せる愚人島興行團。――故國の誤策を戒むる一義人を見ず。――親日主義を取れる故宋等の大打擊。――故友との激論を顧みて遺友今却て斷腸の涙あり。――北京の兵變に兵を進めたる日本の大愚呆。――支那の革命に並行して日本對外策の根本的革命を要す。

十二　亡國借款の執達吏……二二三

南北の統一者は『北京』なりき。――四國借款に反對して起れる革命が日露を加へたる六國借款に反對せずと考ふるか。――財政監督。――六國借款は日本の對米勝利にあらず英國投資の執達吏なり。――清を亡ぼして更に六强清を迎へんとするか。――譚人鳳の第一獅子吼。――宋黃の反對各省の呼應。――亡國的官僚唐紹儀の天津逃亡。――盛宣懷の運命を再びすべかりし袁世凱。――一年有半の抗爭終に第二革命に至る。――日本は何故に米國の脱退に學ばざりしか。――日本の歴代內閣を支配せる『愚呆』と『驕慢』――今後再び借款を以て革命精神を屠る勿れ。――支那に對して財政監督の外なしと

する者は、日本自身が英國と財政監督の借款交渉ありし昔時を回顧せよ。―維新前の賄賂公行、歐洲列國會議の公然たる賄賂取引を回顧せよ。――革黨の借款拒斥論を侮る日本現代の墮落。――革命期の佛國財政と亡清の財政狀態を比較して示す。――三族會議よりバスチールへ、諮政院より武漢へ。――一國内に於ける亡國階級と興國階級との天地的相異ある思想行爲。―佛國革命黨と等しく支那革命黨は破産せる財産を整理せんとする者なり。――幕府は薩長に仆されたるに非ず財政破産の爲めの自滅なり。――革命亂の爲めに財政破産せんと云ふは因果律の顚倒なり。――日支兩國は當年の英佛の如き宿怨仇讐の關係に非ず。――東西文明旋轉の歷史的意義に於て日本は東洋の希臘なり。

十三　財政革命と中世的代官政治……二四三

革命的指導者の財政革命に對する主張の一二。――借款は財政策と名づく可らず。――黃興の國民捐とネツケルの捐金法案。――掠奪とは組織的に徵集せざる租稅にして租稅とは掠奪の法律化せる者。――ルキより奈翁までの十年間は掠奪政府なりし事實。――ネツケルと黃興の相異は財政革命に對する根本精神の相異なり。――佛蘭西に合理的なりし掠奪は今後の支那に於て是認せらるべし。――維新革命の財産權否認たる所以。――譚人鳳の官僚財産沒收論。――支那の官僚階級は一切の政治的罪惡財政破産の根源なり。――日本佛蘭西の如き封建制を見ざりしは割據を許さゞる支那の地理に在り。――封建諸侯の代りに支那は中世的代官政治を以て中世及び現代に一貫せり。――代朝革命とは代官政治に對する國民運動の英雄化せる者。――土地沒收によりて小地主國となりて富强の根基を築きし日本及び佛蘭西。――官僚に奪はざれば支那は財政整理の基礎なし。――支那の官職は純然たる營業權なり。――革命本來の要求は中世的代官政治の打破なり。――今日までの支那の革命は未だ序幕のみ。――掠奪沒收は財政整理に先だつ基礎工事なり。――借款は財政整理に何等の效なし。――徵稅法の整理に非ずして徵稅者其者の顚覆。――徵稅者其者が財政紊亂者なりし佛國の事例。――日本の五國財團に入りしは正義としても野心としても何等の意義なし。――完きを譚黃等に要むる能はざるは尙其れをルソー西鄕に求むべからざる如し。――盜賊の計算書によりて收支を考へんとする吏僚學者等の迂愚。

十四　支那の危機と天人許さゞる第二革命……二六六

革命亂を傍觀し得べきやの問題。――干渉の權利は革命を援助し得べき權利。――永遠の利益及び日本自身の存亡的必要の爲めに數十ケ月間の貿易を犧牲とせよ。――英國の財政的優越權は支那に許すべからず。――佛國革命が歐洲の恐怖たりしを以て日本に何等の恐怖たらざる支那革命を彈壓する理由なし。――恐怖時代とは國家の發狂にして革命の常態に非らず。――單なる財政革命の爲めの寺領沒收も四隣の政敎一致的寺院に對する挑戰となれる佛國革命の不幸。――維新革命に恐怖時代なくして佛國革命に是れありし所以は一に外國干渉の有無に存す。――支那を佛國革命たらしむるか維新革命たらしむるかは一に日本の態度如何に歸す。――貿易的打算と幣政整理を云々する今の低級外交策に取りても干渉は不利。――第一革命の四國借款を恐れずして第二革命の五國借款を怖れし所以を考へよ。――『團匪亂』を捲きし支那が『九十三年』の狂亂を內外に加へざる理なし。――亡國階級に率ゐられたる王朝佛蘭西と興國階級に率ゐられたる革命佛蘭西とが分割同盟軍をして攻守處を倒まにせし如くなるべし。――愛國革命黨の對日抗爭決意。――支那討伐の時は日本の亡國たる時。――第二革命に加へたる軍資貸付による干渉。――對支外交の無智墮落は終に神靈の刑手を出さしむ。――幕府を討ずるの名に包まれたる三百貴族及び武士階級の顚覆に天の戰略を見よ。――今の時段馮岑唐黎の如き亡國階級を選ばんとするは維新後に將軍位の繼承を水戸仙臺に尋ぬる如し。――革命の實質は『興漢』の二字。――『尊王』とは中世的階級を一掃して一天子を國民的大首領としたる大統一の義。――『排滿』中に滿人に仕へたる漢人官僚の排斥を包含するは尙『倒幕』中に幕府を盟主とせる一切の諸侯武士の倒壞を意味せる如し。――現代日本人は明治皇帝が大奈翁たりし民主的統一的革命の理解すら無し。――維新革命に於ける南朝の悲劇と排滿革命に於ける明末義人の其れの感情的動力。――倒幕に努めし諸侯武士が煮らるゝの走狗たりし如く、排滿に提携せし漢人官僚亦其の功終はりて屠らるべきのみ。――革命を二段に分割して興漢の本義を數年後に保留せし天意。――第二革命を破りし孫文と阿邊局長。――宋敎仁暗殺の主犯は陳其美にして袁も〇〇〇とは從犯なり。――袁孫を排して黎を正式總統たらしめんとせる宋の秘策。――干右任君への遺言。――陳其美は下手人等を獄中に毒殺し又逃亡せしむ。――第二革命とは宋を殺せる兩犯が宋の死を弔ふの名に藉りて兵を擧げし者。――宋の亡靈と三年の退去命令。

十五　君主政と共和政の本義……二九四

袁と孫の私心を以て對抗する第二革命以後。――袁氏皇帝の『籌安會』と孫家神聖の『中華革命黨』。――袁に依らざる君主政と孫に依らざる共和政とは共に支那に思考し得べし。――維新革命と佛蘭西革命とは自由と統一を要求する歴史的進行に於て全く同一なり。――革命前の政治的解體の意味に於ける自由。――ルソーの天賦の自由とは動物の生れながらにして有する本能的自由の義なり。――專制統一の理論なくして本質に於て其れを要めたる『革命政府』。――維新革命亦本能的自由を得たるが爲めに起り、而も明治大帝二十三年間の專制統一によりて斯る自由を壓伏したり。――佛蘭西革命亦始めより自由の爲めに統一的中心の國王を否定したるにあらず、國王に代へて『革命政府』『公安委員會』『奈翁』を統一的中心として終はれり。――革命の始めより大奈翁を有せし維新革命は革命の直接目的、新たなる專制新たなる統一を得たり。――故に支那は日佛革命の意味に於ける君主政體たり得べしと云ふ。――近代的統一とは自由の基礎の上に立てられたる專制にして又自由を保護すべき爲めの統一なり。――白人の歴史を自由政治となし黄人の其れを專制政治となす迷妄極る俗見。――日本及佛蘭西の革命論に復古的調子ありしとも近代的自由政治の建設なるは論なし。――進化律は古今を流るゝ時間的の者にして東西を分つ地理的の義に非ず。――革命の三年は三世紀を飛躍す。――支那は武漢のバスチールより一貫的に共和主義を掲げて動かず。――革命的理想を動搖せしめざりし點に於て佛蘭西より優れる日本及び支那。――支那革命の理想は五族統一の國旗に掲ぐる如く統一的大共和主義なり。――純然たる奴隷の佛人が自由政治を建設せし意味に於て今の支那は自由政治を得べし。――今の支那と所謂天賦の自由すら無かりし人類物格時代の佛蘭西及び日本。――今の支那に中等階級なきが故に自由政治の基礎なしと云ふは因果律の顚倒なり。――革命前の日本佛蘭西に中等階級ありしか。――米國は中世的掠奪者を本國に見捨てたる近代的人格の集合にして始めより自由政治の基礎たる中產社會なりき。――米國の獨立と革命とを混同する一般の俗見。――古來支那に自由ありといふ孫君の論理的錯亂――海外貿易より生ぜる中等階級の萠芽の支那に存することは尙日本佛蘭西に其等の然りし如きのみ。――支那の自由政治と中等階級は官僚討伐後に來るべき者。――自由民の支那は恐怖すべき大富强を推想せしむ。――自由と統一を君主政に求めたる日本と其等を共和政に求めつゝある支那。

十六　東洋的共和政とは何ぞや……三八

暗殺されたる故范鴻仙君の至言。――支那は將に大殺戮時代を見んとす。――ロベスピール奈翁明治大帝の觀音的夜叉王。――今の支那は一に英雄の出現を待望す。――投票神聖論は共和政治の根本義に反す。――奈翁と明治帝の自由彈壓なかりせば佛蘭西は貴族政治に復古し日本は封建制度を維持せしなり。――佛蘭西の反動的大擧兵は支那革命成立の時同一なる反動的大暴動を推想せしむ。――人を食むの自由を虎に許すべしと云ふ共和政治の誤譯。――官僚の國外亡命を許さば終に恐く支那分割軍を導くこと佛蘭西の如くならん。――明治大帝の大折伏を學ぶべし。――義和團匪をウオーステリツツの野に指揮する英雄の出現を推想せよ。――支那の大總統は讒譯的議會より選擧さるべからず。――『東洋的君主政』とは何ぞや。――君主なき佛蘭西と同一なる支那の不安。――シーザーの古代共和政よりも遙かに優秀なる理想として東洋には蒙古の中世的共和政あり。――白人は共和政の專有者に非ず。――何人が終身大總統として支那を統一すべきの問ひ。――議會の饒舌は英雄を沈默せしめ民意を代表すと稱する者の投票は革命の時特に天意に反す。――戸籍法なき佛蘭西の革命議會が自己選擧に依る革命指導者の集會なりし事實。――奈翁法典の完成まで數十年間合理的選擧なかりし如く、代官階級を一掃し終はるまで支那に投票選擧は法理的不合理なり。――蒙古の終身大總統を皇帝と諡名せるは歴史に反す。――東洋的共和政は大總統と上院にて足る。――日支興亡の分かれし根本原因は中世史に於ける武士制度と文士制度との相異に在り。――民族といふが如き生理的現象にあらず興亡を分つ者悉く國民の心的傾向に歸す。――支那の文弱的亡運は孔教に出づ。――支那に魂を失ひて日本の賢君名將に守持せられたる大乘佛。――文士制度の最惡なる科擧の法、及び科擧の法と大差なき言論文章の大總統議員の撰出。――支那は心的革命に於て佛國革命が基督教に加へたる如くなるべし。――孔教と共和政の絶對的不兩立。――凡て革命とは國民信念の革命なり。――孔教の害毒實に今の墮弱怯詐の支那人を作る。――今の官僚階級は孔教的文士制度の遺類。――秦始皇を再びすべき四千年未曾有の革命を決意せよ。――支那に滅亡しつゝある孔教。――蒙古共和軍は鬼面せる我が神の使徒。――蒙古共和國と大日本帝國と何ぞ言論文章によりて其の大を爲さんや。――米國制の自由と孔教の統一とは支那の要むる自由統一にあらず。

十七　武斷的統一と日英戰爭……三四五

各省の武斷的統一。――行政的區劃に過ぎざる各省を統一することは、日本佛蘭西の獨立國的候國を統一せるに比して實に易々。――墨其古の動亂止まざる所以は米制に禍されたる各洲の獨立的權力に在るを鑑みよ。――馬上を以て取らざる天下は孫文の如く、馬上を以つて治めざる天下は尙衰世凱の如し。――支那はビスマークの鐵血的統一を要す。――支那の革命は今の生ける日本人より何等指導さるゝ所なし。――革命支那は軍國主義に築かれたる一大陸軍國たるべし。――制度に對する自己破壞は國民信念に對する自己否定なり。――佛國革命以後の基督敎は基督も亦多神中の一神として許容さるゝ者。――支那が孔敎の文士制度文弱文明を棄てゝ、一躍中世史蒙古の一大軍國に急轉し得べき可能的推論。――凡ての國家民族の興亡は國民信念の盛衰に根源す。――支那軍隊よりも怯懦なりし佛國陸軍が自由的覺醒の市民農民の馬合を以て同盟侵入軍に對抗せし理論を革命支那の陸軍に推論せよ。――自由的覺醒なかりし時代の獨逸陸軍の怯懦。――自由的覺醒なかりし幕府亦支那の如かりき。――今の支那を以て革命支那の陸軍を推想する重大なる論理的錯誤。――支那の危機と統一及び自由に對

する覺醒とはカルノーを出現せしめん。――瑞西庸兵の如き支那浪人等の思議し得る所に非ず。――今の支那の軍隊は訓練すべき者にあらずして解散か屠殺あるのみ。――自由的國家的覺醒は近代國家の凡てを作りたる者。近代革命がカルノーを生み山縣公を生みしならば、四億萬民皆兵制度の革命は支那の黃禍を信ぜしむ。――革命支那の軍國的組織は英露との衝突を意味す。――財政革命に於て支那は先づ英國の財政的保護權と兩立せず。――英國の長髮賊討伐なかりせば支那革命は日本より五十年を後れざりしなり。――佛領安南の介在によりて揚子江流域は印度の接壤的英領たることを免かれし天佑を解せよ。――印度より安南緬甸に通じ揚子江流域に至る英國の南亞細亞併呑策。――香港は支那本部經略の築源地なり。――第一革命の天意は支那が英國の印度たる能はずと云ふ深奥なる根柢より出づ。前後の虎狼たる英露に對する日本の以夷制夷策時代。――革命支那が英國の債權を蹂躪せる時を如何する。――香港は英人のみならず凡ての白人の東洋經略の足溜なり。――獨逸は支那保全の爲めの唯一の同盟國たるべき者なりき。――山座公使の遺策を追想す。――今の日本に一の相模太郎を見ず。

十八　露支戰爭と日本の領土擴張……三七〇

英國と日本とはスエズ以東の覇權に於て兩立せず。――支那と露西亞とは兩國歴史ありて以來の相互的恐怖なり。――第一革命終局と同時に擧かれる對露一戰の聲に興國的風潮を察せよ。――日露協約を以て支那に臨むの謂ひに非らず。――國際間に於ける親善又は同盟とは存立的必要の一致を云ふ。――同文同種にして相爭ふ歐洲各國を見て何ぞ日支の同文同種を云ふや。――支那の排日とは日英同盟と日露協約の日本を排するのみ。――アンウエルスの佛蘭西分割會議。――蒙古一角の喪失は全支那の割亡を結果す。――滿蒙西藏を放棄して十八省の統一を策せよと云ふは、尙琉球をベルリに北海道を露西亞に割きて維新後の統一を得べしと云ふと一般なり。――日本は日支親善を云ふの面皮なし。――支那は今已を分割すべき列强の相殺戮しつゝある大戰によりて日本と等しき天佑を受けんとす。――革命佛蘭西が天佑に救はれしと同じき支那の天佑。――英露に苦しめる支那が英露と戰へる獨逸に對して親獨主義なるは論なし。――日本自身が英露の分割より免かれしは明治四年に勃興せる獨逸が英露に後顧の憂たりしが故に非ずや。――大隈首相に山座氏の志を成さんことを切望す。――太平洋の英國は大西洋の英國の遺産相續人たるべし。――日本が支那を喰はずして支那の敵を喰ふに至りて日支の同盟を云ふべし。――維新革命中の日本が歐米の紛爭の爲めに割亡を免かれし事實の列擧。――露西亞が三國干涉の外交的全盛時代に於て朝鮮に進出せば日露大戰の敗なし。――北露南英に奪ふは只今の時を然りとす。――宗社黨を利用せんとする武辨政客の誤謬。――今の露西亞は支那新興の一擊にて足る。

十九　日支同盟と日米經濟同盟……三八八

國内の革命的諸問題は只對外一戰の機を以て解決し得べし。――五族統一族に表れたる革命的理想は其の二族を割取せんとする英露との衝突を意味す。――日本分割に代りて人身御供となりし支那。――日本存亡の危機は擧國一致を要求して三百諸侯の否定となる。――革命佛蘭西の如き對外軍資の必要によりてのみ革命支那は官僚階級より沒收するを得べし。――千百のカルノーよりも首都四十哩前の敵騎。――中世的軍匪に代はれる覺醒的農民の支那護國軍。――支那護國軍の弊衣破帽と奈翁の伊太利遠征軍。――武器供給による日本の援助。――支那に統一の大器なしと云ふよりも日本に一ビスマークなきを歎息す。――今の四面楚歌に至らしめたる日本自

身の驕慢を怖る。――何んぞ日支交渉を要せん。――山座公使の遺策として
の日支官民の一大軍器製造會社。――蒙古共和軍の歐洲征服を再びするを
得ん。――革命されたる日本の對支策によりて援助さるべき支那統一者の
幸福。――米國の排日熱は日本の對支誤策と對獨誤策に原因す。――米國を
英國の分家視する俗見を破して寧ろ獨逸系の米國と考へよ。――日本移民
を米國の拒絶し得るは尙支那苦力を日本の拒絶し得るが如し。――移民拒
絶が日米開戰の理由たり得るならば、何故に日英開戰を同しき理由に叫ば
ざるか。――米國の支那投資が日本の武力的保證なくしては安全なる能は
ざる兩國對支利害の一致。――亡國階級の支那に借款亡國論なりし者革命
後の支那に於ては借款興國策となるべし。――墨銀三百萬弗を送りて馬關
砲擊を依賴せる竹本淡路守。――伍廷芳唐紹儀等の所謂親米主義とは銅臭
主義にして興國精神の借款策に非ず。――怖るべき露國の南下を導かんと
せる唐寰孫等の白耳義借款に亡國的腐腸を見よ。――日本の五國財團加入
は自家防衞上臨機の應策として是認さるべし。――支那を割亡せんとせし
六國協調は歐洲大戰にして破了したり。――橫溢せる米國の資本を支那に
導くべき支那及び日本の急務。――北滿を得て日露戰爭の完全なる解決と
なる。――支那は英佛白等の鐵道を無償にして沒收すべし。――支那を鐵道

分割によりて亡ぶとなす支那論者の錯亂せる推論。――鐵道統一は分割的
原因を根本より一掃す。――英佛露と戰ふ事によりて得べき日本及び支那
の一致的利益。――老譚の團匪的傲語は支那の愛國革命黨を代辯せる者。――
――鐵道切賣政策をボーリング會社に試みし孫文は政策に於ても新支那を
代表せず。――『鐵道院』の獨立會計は敗政監督に非ず。――六國財團の財政投
資を鐵道統一の投資に奪取するを得べかりし孫文の鐵道總辨。――英人の
結べる袁孫の握手によりて東亞の大局を破られたり。――佛蘭西革命に示
されたる審判の手を今や陳其美の暗殺によつて革命の支那に見んとす。――
――米國の投資を以てする支那の鐵道網。――軍隊輸送本位の敷設。――革命
期の富民策として鐵道急設は奈翁の運河開鑿の如し。――鐵道なき支那の
小國なることは尙露西亞の獨逸より小國なるが如し。――支那の統一者は
『鐵道』なり。――陸海軍將校の增加に苦しむ日本は天極東露領と南洋英領
の占有を指示する者。――米國は加奈太の領有の爲めに比利賓を讓渡すべ
し。――日米の離間は英國の秘策なるを警告す。――天道に反せば日本自身
と雖も天の罰を受けん。――天四夫一輝をして言はしむるのみ。

支那革命外史

敢て序す……岩田富美夫・四二
編輯後記……四六

支那革命外史

一　緒言

政府も國民も支那革命につきて一の合理的理解なし——在支吏僚と派遣軍人と所謂支那通とは眞の説明者に非ず——無理解的代辯者として大隈伯の日英經濟同盟論——佛蘭西革命家自身、維新革命家自身が各其の革命を理解せざりし如く、支那革命黨其人より革命の合理的説明を要むる能はず——パークが對岸の革命を理解せざりし如く日本の朝野亦然り——根據ある説明者たり得べき不肖の特殊なる地位。

支那革命黨及び革命の支那に關する眞の理解は日本の政府と國民に取りて

誠に切迫せる必要となれるが如し。不肖は時に政府の或者より是等の說明を求めらるゝ時、又は國論の指導者より是等を聽聞せしめらるゝ時、常に感ずる所の遺憾は諸公の聰明を以てして實に根本より革命黨の實體と革命を要求する支那の激變とにつきて明確なる概念を持たざることに在り。支那革命黨の抱負する各種の理想。其の結合及び覺醒。輿論と軍隊の間に行はれたる運動の經過。革命勃發の眞相と各勢力の離合。人物觀及び其れと事件との交涉。日本人の援助なるものゝ價値。日本及び列國の態度の影響せる程度。今後の革命遂行中の驚くべき恐怖。物質的社會的原因の探究。東洋的共和政の將來。破產せる財政に對する彼等の覺悟。堅確なる有機的大統一の能否。經濟的分割力を抹除すべき大策。其れと日本の對支外交策の契合。日本國權の擴張と支那の覺醒との兩輪的一致策如何。將來幾多の動亂に會して日本の取り得べき又取らざるべからざる責務。支那の經濟的覺醒と政治的道德的覺醒の關係。歐米の資本的侵略と將來の葛藤。日本及び佛蘭西と同樣なる愛國的統一的要求の考察。日支兩國の將來に對する合理的了解。——是等に關して正當なる解釋を渴望しながら、未だ一の價値ある論究に接せざることは、東洋の盟主を自任し支那の指導者を以て居らんとする日本人の誇と矛盾する甚だしきものに非ずや。少くも當面の必要として、隣國の治亂が日本に及ぼす政治的經濟的影響の深甚なるを考ふれば、永久に此の朝野の無理解を傍觀することは、一國民たる憂に於て不肖の堪ふる能はざる所なり。

固より諸公の机上には幾多の調査報告の堆きものあるべく、又日夕多くの所謂支那通諸子より劇的色彩を加へたる功名談を聽取して、已に各人各樣の形成せる見解を持する者あるべし。而しながら其の調査又は報告を爲す在支吏僚と派遣軍人と、而して所謂支那通の言說とが、果して能く諸公の見解を正當に導くものなりや否やが寧ろ問題とすべきものに非ずや。皮相なる卓上觀察は吏僚の常にして、特に捕捉すべからざる革命渦中の事相を領事館の長袖者流によりて了解せんとするは、殆ど火山の爆發に際して哲學教授を派遣して報告を待つものゝ如し。軍人の調査なるもの亦當然に其專門的知識に局限せられ、從て思想的覺醒又は物質的原因の如き革命の主眼たるものを思考だもせざらんと

するは止むなきことなり。而して所謂支那通なるものゝ多くは、其の交遊せる領袖等の爲めに臣事的吹聽を努むるものに非ずんば、十年前の亡國的觀察を革命されつゝある支那に、推論せんとする論理的錯誤をさへ、反省せざる程の疎雜なる舊思想家なり。諸公の見解を誘導し組織し結論せしむる所の三者已に悉く斯くの如しとせば、諸公の聰明が獨り支那革命黨と革命の支那に對してのみ暗きは勿論の事と云ふべし。支那問題が日本の對外策の凡てに非ずと雖も、日本の對外策の殆ど凡てが支那問題を機軸とするかの如き今日、彼の地に一動亂の起り彼の政府と一交渉の生ずる毎に朝野交々內に鬩ぎて日本の眞意奈邊に存するかを解するに苦しましむる者、歸する所革命の支那が未だ全然日本の當局と國論とに了解されざるが爲めならずんばあらず。所謂第二革命失敗後大隈伯が日本の支那に對する知識と英國の資本とを以て、日英經濟同盟とすべしと公言して在支英人の哄笑を買ひし如きは、國民の代表的地位に立ちて遺憾なく國民の無理解を代辯せるものに非ずや。不肖は數年間斯くの如き現狀を視て終に沈默の謙遜を守る能はざることを痛感したり。

而して又革命の理由と革命さるべき原因とは、其れに立働ける革命黨と其れを要求する國民とより說明を求むべからざるものなり。維新革命に於て高輪の英國公使館を燒打せる伊藤、井上等の元勳が回顧談中凡て無我無中なりしと告白したるは革命の實働者其人より革命の意義を理解せざりし者なり。後藤象次郎が五萬石封侯の御墨付を懷にしたるは、當時の形式を倒幕に求めたる廢藩置縣の統一的理想を理解せざりし者なり。又佛蘭西革命に於てミラボー其人がブールボン王家に代ふるにオルレアン公を以てせんとしたるは、二家共に革命さるべき貴族階級を代表せる大貴族なることを理解せざりし者なり。ダントンとロベスピールと、空論的系統の自由主義者を處刑するに矛盾にも却て自由の名を以てしたるは、自由の蹂躪を國家存立の爲めに要めたる愛國的要求を理解せざりし者なり。――實に革命渦中の彼等に革命の說明を期待する能はざるは、火中の人に向つて出火の原因を尋ねゝ消火夫に就きて新建築の圖案を畫くことを求むべからざるが如し。卽ち支那の革命が孫逸仙の根據なき空想、譚人鳳の頑固なる國粹主義、黃興の混沌たる思想、故宋敎仁の偏局せる立法的頭腦

に聽きて眞の了解を望むべからざることは寧ろ古今通じての革命期中の原則なり。特に佛蘭西革命が百年を經たる今日、漸く眞理に近き論究を得、維新革命が五十年後の今日未だ一研究を得ざるに考ふれば、辛うじて革命の第一歩を踏みしばかりなる支那の共れを今の時に於て議論せんとするは超人的偉人と雖も企つべからざる早計事なりとす。從つて不肖の言が後年の卓越せる研究者に點檢さるゝ時、亦等しく無理解なる渦中の人の云爲として取扱はるべきことを豫想し慚愧する者なり。

而しながら不肖は當面の切迫せる必要の爲めに敢て後世の笑を顧慮せざらんと欲す。革命に何の理解なき日本政府は列强を聯ねて、袁氏皇帝たらば動亂起らざるやの警告を爲したり。而も袁氏皇帝たらざれば動亂起らざるべしとする反對證明を所持せず。國論の傾向は或は孫黃を代らしめて日支の親善を策すべしとす。而も其親善なるべき所以につきて未だ合理的說明を與へず。彼のエドマンドバークすら近代歐洲の源泉たりといふ佛蘭西革命を對岸に見て暴徒の暴動のみと放言したり。日本の多くの識者は同樣なる對岸の共れを視るに輕侮と憎惡の眼を以てして、未だ近代亞細亞史が將に如何に編纂されんとしつゝあるかに想到せず。是れ早計なる不肖の言說と共に等しく後世の笑を招くものに非ざるなきか。後年の批判は恐懼する所なりと雖も、斯る日本の現狀に鑒みて、隣國革命黨の概略と革命を要求する隣國の眞相とを說明するは今の時必ずしも僭越ならざるに似たり。言は則ち微少なる不肖が自ら有する概念を諸公に頒たんとするに過ぎず。而も該黨の祕密結社時代より其の指導的實行的首腦等に密接して奔勞する實に十年。他の數名の日人同志が多く豪傑の士なりしが爲に、其の交はる所視る所行ふ所を異にし、從つて自ら別樣の見解に傾ける者あり。十年の歲月は敢て長からずと雖も、彼等の自覺的結合より現今に至るまでの時日の凡てにして、特に不肖の據る所は書齋の智見に非ず、街頭の說話に非ずして、悉く身親ら實際に視、實際に聽き、實際に關はり、屢々刑辟に觸れんとし、或は鋒鏑の間を出入して得たる實知識實議論なりとす。是れ少くも諸公に取りて、支那革命黨及び革命の支那に關する根據ある說明を爲し得べき資格ある者として多少の傾聽に値すべし。固より是を以て一論究にだに接

せざる朝野の渇望に應ぜんとするに非ず。只此の冒險を試むるに於て、不肖の特殊なる立場は大過なき批判を下し得べきを信ずるが故に、自ら量らず敢て此の撰に當らんとするものなり。而して更に若し此の小著によりて革命黨の眞相と革命されつゝある支那とが、殆ど全く日本の朝野に理解されざる憾を一掃し、無告の彼等に代はりて諸公の了解を得同感を搏さば、實に望外の懽喜にして丈夫十年の血盟に孤負せざるものと言ふべし。昔者文章は經國の大業なりき。今は一文廟議を動かし國論を旋轉せしめし事を聞かず。言の當否は採捨只諸公に在り。希ふ所は忡々の赤心諸公が憂國の情弦を搖かし、一は以て國家存亡の岐路に仆るゝ隣邦國士の屍に、一滴の俠涙を垂るゝに至らんことをのみ。敢て日本の爲めと言はず又支那の爲めと言はず。

二　孫逸仙の米國的理想は革命黨の理想にあらず

一般に孫逸仙を以て革命の理想的代辯者となす前提的誤謬――グッドノーの共和政不可行論――板桓伯の言論によりて日本憲法を解釋せんとする如し――米國と支那の建國精神よりの相異――米國的自由政治は支那に於て他の自由を認めざる一黨專制政治となる――米國的飜譯の聯邦論――米合衆國の建國は十三獨立國の對英攻守同盟を永久にしたる者其の膨脹亦獨立國を購買し征服したる者――支那は建國より歷史を通じて統一國家なり――維新革命の時の獨立國的各藩は各省的感情の比にあらざりき――ラフアエットの聯邦國的飜譯が封建的區劃を存せし佛蘭西にさへ行はれざりし理由――米國的飜譯に捉

はるゝ外國援助運動――外國に援助せられたる舊權力と戰へる佛國革命と、外國の兵力援助によりてのみ獨立を得たる米國獨立戰爭とは全くの別物なり――ワシントンは北米の永久中立を宣言したるモンローなり――日本が革命を援助せず又妨害せざりし所以は別個の倫理的理由に在り――革命は國士の事業――孫は革命運動の代表者にもあらず――日本浪人の援助運動と革命黨との矛盾阻隔――個々人の褒貶に非ず革命の因果的研究なり。

孫逸仙君の名は祕密結社時代よりの中國同盟會總理たり南京臨時政府の第一大總統たりしより、世人は彼を以て支那革命黨の理想を代表し彼の言說する所は新支那の要求なりと推定し、從て彼を解釋することによりて支那革命黨の眞相を觀革命の支那を想察し得べしと感ずるに似たり。是れ一見正當なる見方にして、凡て支那を論ずるもの袁世凱に對して孫逸仙と云ひ『北袁南孫』の語は支那自身に於ても新舊兩黨の代名辭として用ひらる。彼の支那の革命に同情するものが彼を通じて同情し、革命黨の理想を考察せんとするものが亦彼の思想を批判して可否せんとするは當然なる置措と言ふべし。少くも彼の人格的價値を重視せざるものと雖も、孫逸仙は理想家に過ぎずとして暗默の間に彼が支那革命の理想的代辯者たることを肯定するものゝ如し。而しながら是れ實に甚だ輕率なる假定より出發せんとする者に非ずや。不肖は祕密結社時代の中國同盟會に干與せし時、彼の邸に於て彼に對して誓盟せし關係上、常に彼を理解するに深き同情を以てしたるものなり。而しながら長き歲月と嚴正なる事實は終に斯く斷言せざるを得ざらしむ。孫君の理想は傾向の最初より錯誤し、支那の要求する所は孫君の與へんとする所と全く別種の者なるを見たりと。若し此の斷定にして正しからば、彼によりて革命運動を察し革命されつゝある支那を考へんとする努力は徒勞なるべきなり。即ち一般の世人が爲す袁と孫の人格的重量の考較によりて兩者の對立的勢力の消長を察せんとする如き、又は兩者の代表せるかに見ゆる君主々義と共和主義との、孰れが支那の國情に適當せる政體なるやを判定せんとする如き、實は甚だ枝葉なる皮相なる觀察方法なりと云はざるを得ず。根本の問題は斯る袁孫等の泡沫を浮消せしむる支那

の革命的潮流の本體に存す。袁が誠に脆薄なる一泡沫に過ぎざることは後章に論ずべし。只孫逸仙の名が支那革命の權化なるかの如く觀察者の明を蔽ふ陰影となれるが故に革命黨の眞の理想と革命的支那の眞の要求を點檢せんとするに當り、先づ彼の米國的理想(彼の親米主義と判別すべし)が、彼等の理想にも彼國の要求にも非ざる殆ど沒交渉に近き者なることを明白ならしめざるべからず。

常識を以て考ふるも、袁世凱の野蠻なる國體變更の計劃に對し、又は君主政にあらずんば支那を統治すべからずとするグツドノー等の學究的批評に對して、孫君の米國的共和制を以て對抗せんとするは餘りに根據なき主張にあらずや。則ち革命黨の有する東洋的共和主義と彼の米國的共れと同一なるものならば、共和政治は支那の統一を失ふべしと云ふ袁の口實も、革命黨の計畫は凡て空想なりといふ外人の嘲笑も、悉く道理あることにして不肖亦袁とグツドノーに從はざるを得ざるなり。米國人たるグツドノーは其の故國の共和政と共れを飜譯輸入せる孫君のものとを比較して支那には此の意味の共和政は不可行なりと斷ずる者、此の範圍に於ける彼の見解は正當なりとすべし。何となれば日本自身が有する東洋的君主立憲政が數十年を經たる今日尙英國に解せられざる如く、支那自身が要求する東洋的共和政は短時日の政府顧問たりし米人の身を以ては考ふる可らざるものなればなり。即ち彼も亦一般の輕率なる假定に從ひて孫逸仙の思想は則ち革命黨の理想なりと觀ずるものなるが故に、板垣伯の言論に基きて日本憲法を解釋せんとする如き笑ふべき結論に走りたるに過ぎず。孫君の支那とグツドノーの米國とは全然建國の精神より別個のものなり。北米の建國は君國を捨つるも自由に背く能はずとなし、信仰の自由のために君國に容れられずして移住せる者の子孫。自由の鄕は米人の國民的誇にして淸教徒の血液は移住者の多きに從ひて濁れりとも自由は彼の歷史を一貫せる國民精神なり。支那は之に反して全く自由と正反對なる服從の道德、即ち親に服し君に從ふ忠孝を以て家を齊へ國を治め來れる者、被治的道念のみ著しく發達せる歷史の下に生活する國民なり。彼れの建國は一粒選の自由移住民にして此れの歷史は數千年間鞭打の奴隷なり。斯く建國の精神より異にし歷史的進

行の方向を同ふせざる兩國民の上に、其の一の翻譯を以て他を包被せんとする孫君の空想は、敢て米人の論辯を待たずとも自覺せる革命黨の疾に知悉せる所なり。世界の共和國中獨り米合衆國に於てのみ反動と革命の反覆なきは其の建國が單なる分離にして革命に依りたるものにあらず、從て大統領が親ら責任を負ひて反對黨の監督の下に政治を爲すは反對の自由監督の自由を尊重する國民精神の自由あるが故なり。自由の覺醒せざる、又は覺醒せんとして尙ほ專制の歷史的墮力に捉はるゝ國に於ては、決して米國の如き制度に據りて自由を擁護し得べきものにあらず。則ち米國の如き兩黨對立政治が斯る國に採用さるゝ場合は、反對の自由、監督の自由、批評攻擊の自由、交迭して自ら代はるべき自由、則ち反對黨の存立し得べき凡ての自由を蹂躙せずんば止まざる一政黨の專制政治となりて、在野黨は『叛徒』を意味すべし。支那の建國にも歷史にも在野黨の自由を擁護すべき國民精神の自由を發見し得べからずとせば、孫君の米國的大統領政治の翻譯は却つて其の理想とする民主的自由を裏切りて專制に顯現すべきは論理上推想し得べき所にあらずや。而して此の推想を彼自身の身を以て立證せんとするかの如く、袁の反對黨たる彼は故國に居住するの自由をも奪はれて亡命せるにあらずや。實に自由の建國精神あるが故に獨立後嘗て自由を犯すものなかりし米國の事實と、服從の歷史的約束あるを以て革命後忽ち袁の專制を見るに至れる支那の事實とを見よ。明かに兩國の共和政が同樣なる形式を取る能はざることを指示するものなり。孫君の米國的夢想を革命黨の共れなりとする不注意なる假定は、博士グツドノーをして支那は君主制ならざるべからずといふ結論に急がしめて、終に支那の取らんとする共和政如何の前提を考察する眼目を閑却せしめたり。亞細亞各邦の衰ふる久しと雖も國體の決定を米人輩の批判に仰ぐ程の哀れなる革命黨にあらず。孫逸仙を視て革命黨を解すべしとする日本人の多くは研究的用意を缺ける彼の失態に鑑みて相警むべきことなるが如し。

孫君の米國的夢想と革命黨の東洋的共和主義とを混同するよりして否定的結論を爲すグツドノーに反して、肯定的議論をなすものに我國の支那學者內藤博士あり。則ち孫君の米國的翻譯より來れる各省聯邦論を容れて支那の將來

は聯邦共和制を可とすべしと論著せる如き是れなり。而しながら是れ單に肯定に行くと否定に來るとだけの相異にして、孫逸仙の陰影に研究眼の聰明を蔽はるゝ遺憾に於て相選ぶ所なし。斯くの如き夢想が覺醒せる革命黨の理想にもあらず革命されつゝある支那に行はるべき要求にも非ざる事は支那の歴史が明白に擧證すべきに非ずや。米合衆國は其の名の示す如く十三國の集合せる歴史に始まりて聊かも支那の共れと似たる所なし。彼れの聯邦制は獨立せる意志を以て集まれる移住民の獨立的小邦國が、他の征服又は併合に依らず、英國に對する攻守同盟の爲めに聯合せる國際的提携を永久にしたるものなり。其小邦國の獨立的意志たる、實に清教徒、羅馬教徒、王黨員等各宗派が地域を限りて植民し信仰の爲めに土地の交換を要せし程に相犯すべからざる者なりき。而して膨脹したる今日の四十八州と雖も、佛蘭西より購入せるルイジアナ、西班牙より購入せるフロリダの如く、墨西哥より離反して加入せるテキサス、カリフオルニア、ニリゾナの如く、歐洲の各本國の支配を要せざりし程に已に十分に國家的發達を遂げたる邦國の聯合なり。建國當時の十三州に五倍せる今日の米合衆國は實に十五回に亘りて斯る獨立的邦國が聯合し集合したる者なり。則ち米國は國家學上『集合國家』と名けられて『單一國家』に分類さるゝ支那と全然歴史的發達を異にせるものなり。支那は歴史ありて以來統一せらる。假令古へ群雄の割據し兩朝の抗爭せしことあるも、是れ日本に元龜天正の分立時代ありし南朝北朝の爭覇時代ありしと同樣なり。若し此中世あるが故に日本の帝國憲法に米國の翻譯を輸入して各藩聯邦制を採るべしと言はゞ笑ふべき歴史觀に非ずや。春秋の時と雖も天下一に定まるの日を待望し、孔明の鼎立策と雖も統一の爲の準備に過ぎず。治者と民衆の理想が常に統一に存して其の分立し抗爭せる時代は統一的覺醒が未だ擴汎せざりし歴史的過程に過ぎざることは多言を要せざる所なり。支那の表皮を觀察するものは此の歴史的過程を考へず。各省の頑强なる團結力が、其實却て國家的統一の第一歩なることを反對に解釋して、其の土音の相違を示し排他の慣習を擧げて恰も飜譯的聯邦論に裏書きせんとするが如きは遺憾なることなり。維新革命が統一的覺醒より來れるを見たる日本人は、尊王の大目的に於てすら薩長互に妨害せる如き獰猛なる藩的感

情も過渡時代として輕視するにあらずや。支那の省的感情は維新前の獨立國的統治によりて養はれたる各藩の共れに比すべからざる稀薄なるもの。斯かる微細なる障害に逡巡して統一的要求を放棄せんとする如き脆弱なる革命黨は不肖の支那に視ざるところなり。由來中世的組織を脱して近代的新組織に移らんとする時、即ち革命の過程に於て新統一の爲めに舊き地方區劃を排除する努力は、維新革命に於ける如く、佛蘭西革命に於ける如く、支那の將に今後に踏破せんとする荊棘たるを失はざるは論なし。而しながら四境より響く分割の聲に恐怖する彼等は、省的感情に從ひて各省分割的立法に禍さるゝよりも統一の大勢を鞭韃するの遙かに困難少なきを洞見する者なり。佛蘭西分割の同盟軍が潮の如く侵入せし時、封建的區劃に從へる聯邦共和制は國家の存立を危ふからしむとして、米國獨立戰爭より歸れる赫々たるラファエットの主張を以てするも一顧だにされざりしを見よ。同樣なる支那の危機は孫君が大總統の權力を握りし其日に於て實に臨時憲法より全く飜譯的痕跡を拭ひ去られたるにあらずや。共和政治は支那の統一に不可なりとする袁世凱の口實は只孫君の聯邦論が與へたる者に過ぎず。然るを共和政共者を考ふるに或る一人の空想を一切の前提として、各省自恣分割を速かならしめんと論斷する如きを見るに至ては甚だ愼重を缺けりと言ふべし。事情に通ぜざる外人は孫君と革命黨との混同によりて結論を妄りにするも、革命の支那が與へられたる『中華民國臨時憲法』なる者は中央集權的統一を根本義とする者にして聊かも米國の如き分權的惡臭に毒せられざる者なり。實に各々異れる論斷に行ける有力なる二學者にしてすら全く革命黨の理想と革命的支那の要求に觸れざること、斯くの如しとせば、孫君を觀察する事によりて革命過渡の隣國を理解せんとする者の悉く錯誤に陷るは止むを得ずとすべし。否彼一人の過去の主張に過ぎざる米國的大統領責任制と、統一的要求に逆行せる各省分割的聯邦論とによりて支那共和政の根本理想を誤解せしむるは尙忍ぶべし。彼の革命運動が亦米國的飜譯に捉へらるゝより、世人をして終に幾多憂國の士の意氣精神を輕侮せしむるに至るものあり。何ぞや。

即ち彼が支那の革命を遂行せんとするに當りて、恰も米國の獨立運動の如く

外國の援助を願望することなり。彼は植民地の經濟的政治的興隆によりて舊き本國の支配を要せずとして分離せんとする別個の一新國家の創建と、經濟的政治的頽廢より將に亡びんとする舊國家共者が存亡の暗中に復活の飛躍を試みんとする革命と、寧ろ兩極に立つべき反對的意義のものなることを考へず。爲めに外國――例へば日本の援助を哀求することを恥辱とも恐怖とも感ぜざるかの如し。創建されんとする一新國家が舊本國との開戰に於て、本國の敵國たる者に援助せらるゝことは恥辱にあらずして堂々たる國際間の攻守同盟なり。經濟的獨立による植民地にあらずと雖も、假令ば印度が其政治的興奮によりて一國家を創建せんとする時、英國の敵たる獨逸と提契することは賢明なる國際的同盟にして、所謂獨探の恥辱にあらず又第二の征服者を迎ふる恐怖にもあらず。革命とは疑ひなき一國内に於ける内亂にして、正邪孰れが援けらるゝにせよ、内亂に對して外國の援助とは則ち明白なる干渉なり。一國の革命に於て外國の援助を求めたる恐怖は佛蘭西の亡命貴族に見ざりしか。佛蘭西革命黨の新興階級より驅逐せられたる彼等亡國階級の人々は、國家の恥辱も恐怖も感ぜずして隣強の侵入軍のために故國分割の嚮導を努めたるに非ずや。同一なる亡國階級の貴族肅親王等が今日、日本に向つて言ふ所を見よ。宛然たる佛蘭西王統の口吻を以て曰く、支那は腐敗紊亂して一國として立つ能はず、寧ろ日本の保護の下に塗炭の苦を免かれんと。孫逸仙を指して亡國階級の人なりとするは以ての外なり。而も支那の存立其者が日本の疑問となれる今日、援助を求めらるゝものゝ立場より考へて愛國的注意の缺乏、興國的氣魄の薄弱を侮蔑し、以て亡國親王と判別せざるは當然の取扱ひにあらずや。孫君は決して斯る意味に於て侮蔑さるべきものにあらずして、罪は彼の米國的迷想に在り。佛蘭西、和蘭、西班牙の三國が植民地十三州の分離を援けて英國に宣戰せしは、三國の北米に有する殖民勢圏が英國に打勝たれたる報復と、及び其の未開植民地を英國の占領より永久中立國たらしめんとする歐洲列强間の植民政策の衝突に原因す。特に佛國の海軍が反亂植民地に陸兵を輸送する能はざる程に英國の海上權を打破せしに見よ。兩國の傳來的爭覇戰が單に理由を植民政策に求めたるに過ぎずして、後日奈翁退治の名に於てトラファルガルに擊滅せられたるが如

し。實に米國の獨立は支那革命と全然比較すべからざるものにして、單に英佛の國際戰爭の副產物として永久中立を承認されたることに過ぎず。ワシントンは革命家にあらず。未だ國力が南米に及ばざる時代なりしが爲めに、歐洲の分割より先づ北米の永久に中立すべきことを宣言せるモンローに過ぎざるなり。卽ちモンローが南北に擴充したる主義を彼は先づ北米に於て樹立したる者なり。支那は或る一國に領有せらるゝ屬邦にあらず。千百のフランクリン來るとも日本が佛蘭西を學び得べからざる事說明を要せず。

此の迷想は彼れの國體問題の其れに比す可らざる害毒を日支兩國の將來に流すものなり。米國と全く異れる國體は最初より彼の米國的大統領制をも米國的聯邦をも一嚮して顧みざりしが故に支那の禍を爲す少なかりき。支那の革命に對する日本の態度といふ問題に至りては、殆ど彼に於ては革命の成否を決し、日本に取りては將來永遠の國運に關するものにあらずや。日本が支那革命の成敗に當面の利害を感ずること米國の獨立に於ける佛蘭西の如くならざるは固よりなり。寧ろ對支貿易の上に蒙る經濟的損失に至りては賠償を要求し得ざる莫大なるものあり。此不利を忘れて日本の朝野が一種の精神的聲援を吝まざりしは、日本人自身の有する愛國心より彼等の愛國的奮鬪に共鳴し、對岸の大陸が歐米の分割より免かれて復興せんとするを同人種的情操によつて慶賀する者。佛蘭西革命に際して對岸の英國が爲し隣境の墺普が爲せし如く國家的野心を露はすべき好機を放棄して任俠的國風を發揮したるは、實に天啓の指導を享けしかの如き蕩々たる王道なりしなり。卽ち當面の利害を超越せる斯る日本の同情は革命指導者の頸血を以て購ふべし。斷じて米國獨立軍の如き利己的目的の下に逃亡、脫走、裏切、內應を恣にして得べきに非ず。本國より分離せんとする獨立戰爭は獨立せる地域に據りて戰ふ一種の國際戰爭なり。故に他動的に運命的に平凡なる戰時犧牲者として死せば可なり。革命は國士の事業。隻手國運を飜へすべき意氣、一人萬夫に當るの精神、凡て犧牲の自動的なるものを要す。米國獨立戰爭に殆ど記すべき程の悲慘事なくして革命の支那に慘烈なる物語の漸く多からんとするを視よ。革命は腐敗墮落を極めたる亡國の骸より產れんとする新興の聲なり。產れんとする彼兒の健かなると否

とは一に只此の意氣精神の有無に存す。單なる中立的承認を他力本願により て成就したる北米移住民の易きに學びて只管外援を哀求する孫逸仙君は、道理より推し又事實に照して革命運動の代表者に非ず。二箇の事實を見よ。――一擊清朝を推倒せる排滿革命に於て、米國的夢想家は米國に在りて一點の關係だに無かりしに非ずや。――各省凡ての中心勢力等は全く日本に援助せられずして勃發し呼應し遂行したるに非ずや。孫君を視て革命黨を解すべしとする者が五年後の今日に至りて未だ排滿革命の眞相を知らざるは止むを得ず。而も或る一人の思想的缺陷が日本人の因襲的對支輕侮觀を喚起せしめて終に革命黨全部の壯烈雄毅なる意氣精神を蔑視せしむるに至るは洪歎に堪へざる所なり。革命を爲すべき意氣精神なくして革命を爲したりといふが如きは已に言語上の矛盾なりとす。

彼によりて此の誤解を與へられたる日本人は、其の高貴なる任俠的援助が革命の支那に如何樣に了解されたるかを省察せざるべからず。孫君の後援に集まりし「支那浪人」なる者の數十百人は任俠以外の動機を有せざりき。而も謠言一たび起りて日本機に乘ぜんの聲あるや、南北忽ち戈を收めて感恩手を翻へす如く惡聲となれるにあらずや。所謂第二革命の起伏するや支那の上下擧りて日本の野心を流言されしが爲に、袁に對する人格的憎惡を忍びて有力眞率なる憂國者の多くが去就を誤れるに非ずや。內亂の或る一方に對する外國の援助は干涉の恐怖と實に紙一重の間隔なり。日本に於ては隣國の分割を保護するを外交方針の基本とす。而も彼國の民衆に普汎せる愛國的覺醒は實に積弱の今日、及び動亂の生ずべき今後、果して能く日本の侵略を免かれ得べきやの一事――只此一事を憂懼しつゝある時、孫逸仙の背後に日本在りの謠言は、革命を援助するものにあらずして革命黨を賣國奴の亂矢に屠ることゝなる。支那の革命は民主共和の空論より起りたるものにあらずして、割亡を救はんとする國民的自衛の本能的發奮なり。彼等が武昌に於て、長沙に於て、上海南京に於て、日本の援助を約せずして起り、日本の干涉を期待せずして進みたる獨立獨行の憂國者なりし眼前の事實を見よ。國民の自衛的本能の直覺は多く明敏なるものなり。日本の援助によりて起たんとする孫君の米國的運動が則ち干涉の誘致な

りと直覺せるを以て、犬養氏の南北統一を非議するや日探何をか爲すとして一の聽く所なかりしのみ。頭山氏等の歸國に際して孫君の代理見送人すらなかりしは實に此の國民の愛國的直覺に憚かりしが爲めにして、再び亡命して氏の翼下に身を寄せしは亡恩民族なるに非ずして彼の米國的迷想より出づる依頼心の故のみ。彼等は動亂中豺狼の爪牙を露はさずして王者の如き善意なる傍觀を持續せし日本の態度に誠心感謝したり。而も同時に他意なき日本の一擧手が國民の恐怖を煽起して同天の大業を中挫せられたる憾をも有するものなり。一米國的夢想家の他力本願主義によりて誤解せられたる革命援助の聲が今日終に日本の庇護の下に革命せしむべしとする積極的干渉に近きものに變化せざるや。不肖は此の侮蔑と恐怖と、革命後の兩國々交に却て重大なる禍因たるべきを憂惧して止まざる者なり。

以上の概説によりて、孫逸仙君の日本に於て知らるゝ理想及び日本の朝野に試みつゝある運動が、支那革命黨の理想にも革命的支那の要求にも非ざることを了解せられたるべし。是れ固より多く必要ならざる談義なりと雖も、孫逸仙の名が世界の觀察眼を暗黑ならしめつゝある今日に於ては説明の明瞭の爲めに玉石の判別より出發せざるべからず。茲に於て疑問は當然に起らん。曰く、然らば如何にして支那は共和政體を採りしか。曰く如何にして孫逸仙は民國の第一總統に推擧せられしかと。不肖は是等に答ふるに先ち革命の思想的原因より序を追ひて考察せんと欲す。孫黄譚宋等の個々人の成敗を褒貶するは、別に其人あるべく論述の目的は冷頭なる革命の因果的研究に在り。

三　革命を啓發せる日本思想

革命の理想は日本思想に啓發せらる――維新革命の理想を啓發したる支那思想――佛國革命に於ける英國思想の輸入と等しき日本飜譯の『百科全書』――奴隷的佛國が理想したる英國的自由と亡國的支那の理想する日本的國家民族主義――日本の國家民族主義は直に清朝を否定する革命哲學となれり――古今革命とは少數なる年少書生の事業――維新革命佛國革命露國革命に於ける例證――支那民族の雷同性に非ず革命的理解の普及なり――一孫の追放に係はりなき日本留學生の革命化――支那革命の理解者は官吏登用試驗の及第者に非ず――佛蘭西革命に與へたる思想的指導に英國自身が自覺せざりし如くなるべからず。

問題は別個に提起せらるべし。曰く、果して孫逸仙の米國的理想に影響せられずとせば支那の革命は如何なる思想に原因するかと。不肖は少くも此の一點に於ては十分の信念を以て答ふ。曰く、支那の革命は太平洋の遙なる雲間より來らずして對岸の島國、實に我が日本の思想が其の十中の八九までの原因を爲せるなりと。隣國を革命黨の策源地と視、革命の煽動者なりと猜するは固より當らずと雖も、日本は爾が與へたる思想に對して責任と榮譽とを感ずべし。

不肖は、此の重大なる事實が未だ殆ど全く日本其者に自覺されざるを視て、佛蘭西革命に與へたる英國の思想を對岸の島國自身が終に自覺せざりし歷史の反覆に驚かざるを得ず。實に史上屢々散見する如く思想の國際的交渉は一國一朝の興亡に原因を爲す程に重大なるものなり。近く我が日本の維新革命を見よ。其の革命の物質的原因は各種に考へらるゝにせよ、又其の思想的原因も有力なる他の系統のものゝ存するにせよ、實に德川氏の治安上奬勵し普及せしめたる漢學が却て大なる原因たりしことは世人の知る所の如し。德川氏は治者の利益の爲に忠孝を信條とする其れが馬上によりて得たる天下を維持する

教義なりと期待したり。而も馬上の威力衰へて其の覆沒を來すべき各種の政治的經濟的原因の醱酵するに至るや漢學は戈を倒まにして王覇之辯となり、王たるべき皇室の爲に覇府に叛逆すべき理論を供給したり。當時の年少革命黨伊藤公の洋行の笈中にも携帶せし日本政記は、實に漢學の革命的理論によりて日本歴史を批判せしもの。義時、尊氏の傳統政策を苛辣に徹底せる大逆不臣の德川氏を反語的に尊王忠君なりと稱揚し、其の初を爲せる歴代覇府の亂賊を筆誅することによりて倒幕革命を諷刺せる日本外史は、亦誠に支那の漢學が影響せる革命文學なりき。現支那の革命に於て師弟を一變せる日本の雄渾なる思想は果して王覇之辯にだも及ばざりしか。

否、日本の政法文武凡ての思想の莫大なる漢譯は宛として英國の飜譯が佛蘭西を啓發せしと同樣なりといふべし。歐米を崇拜し自身等の東洋を侮蔑して恥とせざる日本人は、支那革命黨を見るに彼等淺薄皮相なる譯讀書生何爲る者ぞと嘲笑し去る。而も佛蘭西革命は英國の思想を淺薄皮相に輸入して覺醒せられたるを知らざるか。ボールテールの研究も英國法にして、モンテスキュー

が二十年苦心の憲法論も英國法の祖述に過ぎざるは、恰も故宋教仁が比較財政學を譯し、他の凡ての指導者等が日書の飜譯に汲々たりしが如し。日本外史の暗示の如き兢々たる態度、柔和なる調子、攻擊的筆法の缺乏は佛蘭西の革命文學にして、論議の堂々たる支那の革命論に比すべからず。ルソーに獨創的思想なくして論旨の支離滅裂なるは章大炎の徒らに絢爛にして組織的論理なきに等し。佛蘭西革命の思想が英國の佛譯『百科全書』の如きに喚起せられしといふ歴史家の見解に從へば、汗牛充棟の漢譯を與へたる東洋の英國は支那革命の思想的原因たらずと見る能はず。

實に、革命の支那は其の覺醒に於て恰も日本の其れに國學の復興ありしが如く、固より其れ自身の國粹文學に依る東洋精神の復活に在り。而も其の復活を促進し、鞭韃し、東洋魂の潑溂たる光輝を示しつゝ鼓勵したる者は日本及び日本の思想なりとす。强露を破つて旭日冲天の勢ある日本を仰望したる彼等は、豚の如く活き蠅の如く死せし奴隷時代の佛蘭西人が大憲章の自由を有する對岸の英國を眺むる如くなりき。從て自由なき佛蘭西人が己の乏しきを英國の思

想に需めたる如く、將に亡國に瀕せる彼等は日本に就きて興國の精神を研めざるべからず。佛譯の自由論と漢譯の國家主義とは誠に奴隷と亡國とが渇望の泉を各々對岸の近きに求めたるもの。特に支那は其の危急の迫れるが爲めに譯書の間接的交渉を足らずとして留學生の派遣となれり。而して日本の興國的思想は遺憾なく彼等自身の東洋魂を覺醒せしめ、彼等は其覺醒によりて日本の興國學を直ちに革命哲學として受取りたりき。

斯くの如きは固より滿清皇室の夢想だもせざりし所ならん。彼は日本の國民精神が國家民族主義に在るを見て、留學生等は其の學ぶ所を以て克く我が滿室に忠に克く我が皇家の急に赴くべしと期待せしならん。而しながら天は人智の量るべからざる翻弄を樂しむ。德川氏の覇府を萬世に傳へんとせし漢學が王覇之辯に變じて、維新の革命運動に理論を供給すべしとは人智の量る能はざる所なりき。天の翻弄を知らざる滿清皇室は己が人の君を亡ぼし人の國を奪へる征服者にして被征服者の覺醒と共に顚覆さるべき說明を日本の國家民族主義に求めしめんが爲に留學生を派遣したるに似たり。覇者が王を族滅して兩者の辯を爲すを要せざる支那に於て治者の利益たる漢學は、王覇竝立の日本に來りては革命の道德的說明たらざるを得ざりき。異民族の支配を蒙らざる日本に於て治安維持の國家民族主義は、滿人に征服せられつゝある支那に渡りて革命の科學的理解とならざるを得ず。卽ち日本の國家民族主義によりて解釋せられたる忠孝道德は己の君を亡ぼし國を奪へる者と共に天を戴かざる事を敎へ、他の民族の支配を受くるよりも死を勝れりと說く者。卽ち滿清皇室に對して日本のあらゆる敎科書は革命哲學たり凡ての學校は革命倶樂部なりしなり。況んや萬千種を以て數ふべき漢譯の『百科全書』は禹域四百州涉らざりし所なかりしに於てをや。世人は『排滿興漢』の革命旗が武昌城頭に飜へりしを見て其の不可解に驚異す。而も滿人の統治を排滅し漢族の復興に努めよといふ國家民族主義は、十數年來兩國政府の奬勵の下に東京の講堂に於て堂々として鼓吹されつゝありしなり。世人は一月ならずして二十二行省の半が呼應し三月にして排滿の終局せるを見て無智の漫罵を民族の雷同性に加ふ。而も革命のダイナマイトは漢譯の包裝に陰れて三百九十一萬方哩の全土に埋沒

せられたりしなり。

或は曰はん、少數なる黄吻の書生輩何をか爲さんと。是れ恐るべき勢力を有して而も一の根據なき非難なり。古來何れの國と雖も革命的大變革が白髮衰顔によつて成されたる一事例だにありしか。維新の革命が成就したる時、西鄕の四十一歳を年長者として大久保木戸等之に亞ぎ、板垣、山縣、大隈、後藤の諸公亦實に三十歳前後、伊藤、井上、松方等は遙かに年少なりしとせば、彼等が革命に奔勞せる頃の口吻の黄なるは想見すべし。少數の非難を以てせば佛蘭西革命の中堅たりし者巴里の書生總數七八萬中の只數千名が、苦力窮民を煽起せしに比較せよ。彼等は日本留學生のみを數ふるも十萬に餘り、各省各縣に於ける中等階級の覺醒せる年少書生數十萬を有す。何ぞ革命の物質的原因たる財政破産の支那に於て雲霞の如き苦力窮民を煽起すること能はずと云ふか。日露戰後西比利亞の牢獄を脫せる露國革命黨員ゲルショニー氏が日本を通過せる時、其の全露を震撼せる革命を語りつゝ曰く、我同志二百八十名が一網打盡されたるを以つて再起する能はざるを歎くと。數百の露人が爲し數千の佛人が遂げたる事を獨り數萬人の東洋民族に於てのみ企つべからずとは不肖等の自尊心が許さゞる所なり。數十名の薩長革命黨と京都に苦窮せる失職武士の數百人の團集とによつて維新革命の中堅が作られたるを見よ。櫻田門外の雪を染めたる少數なる水戸の脫走浪士によりて倒幕の大勢が滔天の波を擧げしを見よ。支那に影響せられたる少數の日本人が爲し得たることを、日本に啓發されたる多數の支那人に於てのみ遂ぐべからずとは鎖國的感情にして不肖等の理性が服せざる所なり。若し彼等數十萬の書生によつて支那の全土に同一なる民族的覺醒、同一なる愛國的情操、同一なる革命的理解が普汎せられしことを否むか。武昌の一叛賊に呼應したる理由を如何なる解釋に求めんとする。支那輕侮觀者は自己の歐米人に盲從する其れを反省せずして、此の解釋を支那民族の雷同性に歸す。而も問題は寧ろ雷同し得たるほどに同一なる革命的情意が彼の廣漠たる支那の領域に普汎せし根本に在り。實に古今東西革命の凡ては書生の事業にして、又實に滿清皇室を顚覆せる支那の革命は我日本に啓發せられたる年少書生の鼓吹し計畫し遂行したるものなり。維新の革命に於ける漢學の如

き間接的交渉にあらず。大西洋の島國が對岸の共れに影響せるよりも遙かに深刻なりしなり。

實に天の爲せる飜弄は解すべからず。彼等を送りし清帝も彼等を受取りし日本政府も天の一笑を搏さんが爲めに孜々切々として排滿興漢學を授受しつつありき。彼等は固より內地に普及せる漢譯の爆彈を發見し得るものに非ず。只日本に在る留學生が悉く革命的傾向を發表するを見るや、彼等を送りし慶親王は孫逸仙の在りて煽起誘惑するに基くとなし、密に伊藤公に向つて共の追放を求めたりき。公亦隣國の幸慶の爲めに受けたる彼等が亂賊に與みするは以つての外なりとして孫君を追放したり。明治三十九年星寒き冬の夜不肖等は天才的空想家の寂しき影を見送りて涙ありしと雖も、顧みて燎原の火の如き革命風潮の蔓延に些の防げなかりしを見て微笑を禁ぜざりき。逐はれたる者は一民主的革命家のみ。支那の渴望せる者は愛國的革命に在りしが故に、東京全部の學堂を毀たずしては留學生の革命黨たるを防ぐべき途なかりしなり。彼等は焚くべかりし日書の漢譯を以て却て變法自强を夢み、幣を厚うして日人の儒を各省各縣に迎へて其の坑にせざるべからざる所以を發見せざりき。何たる飜弄ぞ。斯くの如くにして兩國の治者の以て安んずべしとする數年間に、數萬の子弟は留學生として來り革命黨と化して歸り、漢譯の革命哲學に覺醒せられたる全國數十萬の年少書生と相結び、終に排滿興漢の暗流禹域の山河に漲るに及んで武昌の一炬憐むべし清朝焦土たり。

誠に日本は家鴨の卵を抱ける雞なりしか。武漢義を唱ふの飛報至るや朝野騷然として贊歎し同情したりと雖も、彼等の眞要求を指示せる一說明にだも接せざりしにあらずや。壯士の劍を提げて赴き援くる者また數十百人。而も歸來誰か彼等の眞精神を傳へたるものぞ。不肖當時彼等に與みするの故を以て常に官憲の監視下に在り。佞偸の間固より天下に訴ふる暇のあるべくもなく、革命に同情し聲援せる諸友中特に內田良平君が山縣桂等の長州元老系に力說しつゝあるに望を囑して去れり。是れ彼等が明治末政界の中心權力たりしが故のみにあらず。革命が書生の事業なるを心解し共鳴し得るもの、官吏登庸試驗の及第者にあらずして日本に於ては殘存せる維新の經驗者に外ならずと期

待せるを以てなり。堂々たる大帝國、何爲れぞ雛鴨の水に入るを見て狂亂する雞の如くなるか。日本は覇者の如く支那を指導すべき第五項案を待たず。王道蕩々として日本の雄渾なる思想は新支那を建設せんが爲めの舊支那の破壞に於て指導を全ふしたり。動亂の煽動者は日本ならざるかを猜疑する列强に顧眄する要なし。亞細亞の自覺史は日本の東天に曙して實に禹域四億の民が少くも其征服者より解放されたる感謝を特筆すべきなり。

實に斯くの如し。亡國的支那の要求が興國に在り支那の新理想が殆ど凡て日本の思想なるを見ば、孫君の米國的飜譯は革命の形而上的原因を探究するに多く注意を要せざる一主張に過ぎざるを發見すべし。佛蘭西に與へたる責任と榮譽を自覺せざりし英國の覆轍は再び東洋の英國が踏む能はざる所なり。單に繰り返へすを能とするものならば、歴史は六千年と雖も後世の治者に益なきに非ずや。

四　革命黨の覺醒時代

排滿の民族的革命を成功せる今日に於て而も何故に革命を要するか――排滿革命の元勳等が去就を誤れる所以――排滿革命は興漢革命の前提的運動なり――今後革命亂の免かれざる支那に對して日本は徹底的理解を要す――佛國日本と等しく革命は兵火の勝敗に非ず思想戰爭なり――暗殺によつて成れる維新革命――祕密結社時代の各思想系――章大炎と孫逸仙の爭――東京政府よりの迫害時代――故宋教仁等の國家主義的統一及び祕密聯絡時代――孫と袂別したる革命系統の軍隊運動――青年土耳古黨の實物教訓――支那浪人等の滑稽劇。

實に、此の滿清皇室と倶に天を戴く能はざる民族的覺醒を了解せば、康有爲等

保皇黨が龍袖より離るゝと共に國民的後援を缺きし所以は、不肖の絮說を要せずして察知するを得べし。是れ維新革命前に兩立すべからざる王覇を彌縫せんとする彼の皇武合體案が一の夢想に終はりしと同樣なり。而しながら以上の略說によりては、單に漢民族の民族的覺醒による革命のみの如くにして事情に通ぜざる諸公を益々迷路に導くに過ぎず。曰く、革命の目的が漢民族の復興に在り且つ米國的夢想の行ふべからざることとなりとせば、漢人たる袁世凱の治下に國家の統一を得ば目的の結局にあらずや。曰く、征服者を仰ぎたる康有爲は溫和漸進の途を取りしのみ。已に排滿の目的を達したる今日、漢人によりて統治せらるゝ漢人の爲めの政治たらば、第二革命と云ひ第三革命といふが如きは却つて割亡を促進せしむるに過ぎざる亂賊に非ずやと。是れ外人としては一見適中せる疑問なり。而して不肖が革命家共の人は革命を說明し得ずと言へる如く多くの支那革命黨自身に於ても亦明答し得ざる疑問なり。然り。これあるが故に康の門下生等は勝海舟の淚を呑みて不俱戴天の袁に結び、其の變法自强策を存亡の國家に施さんと夢みしなり。日人の輕侮する如く附權阿勢の動機のみにあらず。これあるが故に國粹的覺醒の警鐘たりし章大炎の大器にして袁の顧問たりしなり。日人の風說する如く彼の學究的非常識の故に非ず。これあるが故に同志の蜂起によりて終身の獄を出でし革命の元勳胡榮孫籲筠君等の身を以て籌安會を組織し累卵の危きを快からざる梟奸の力を借りて統一せんと迷へるなり。日人の指彈する如く一頭幾何の市價を以て政友會より同志會に賣買されたるにあらず。これあるが故に舊主に裏切りたる袁は勳功第一を以て大總統の尊きを得たるなり。日人の妄論する如く兵力又は政略によりて舊主と孫君とより窃めるにあらず。これあるが故に國民悉く彼の治下に三年の安寧を求めて『亂徒』の誘惑に應ぜず、日支交涉の事あるや國を傾けて彼と共に排日を敢行したるなり。日人の放言する如く强壓の服從にあらず、治者の何人なるを問はざる國民性なるにも非ず。實に輕薄驕慢なる輕侮論者の如く一見不可解なる現下の支那政局は然かく皮相觀によりて穿たるべき者に非ざるなり。然らば問はん、支那自らが已に然りとせば今後再三生ずべき支那の動亂は單なる政權爭奪にして革命ならざるべしと。皮相觀に從へば然

りと言はざるべからず。滔々たる論客、袁倒すべし、革命黨扶くべしとなす者と雖も多く此政權爭奪觀の範疇を出でざるが故に、苟もすべからざる責任を國家に有する朝野諸公の首肯に躊躇するは固より當然なりと言ふべし。特に甚しきは日本に畏怖戰慄して些の抗爭の慨なき恐日病者袁を排日主義となし、日本を專制國と侮る崇米患者孫逸仙を立てゝ親日を策せんとする說客の如き、假りに方便の致す所とするも一國の頭首を隣强の威によりて易置せんとする者。斯る援助は米國思想の論理的歸着なるべきも覺醒せる支那の奮て排擊せんとする所なるは亦明かに推想すべし。不肖愚と雖も新日本の一國民を以て誇とする者、如何んぞ後進隣人の權勢を爭ふ走狗となりて危を踏み險を冒す者ならんや。實に革命なればなり。『排滿革命』は『興漢革命』の前提的運動にして、袁世凱に對する革命黨の抗爭は亡國階級と興國階級との革命的決勝の繼續戰なればなり。袁の個人的人格に非ず、以夷制夷的外交策の故にあらず、又民國を蹂躙して皇帝たらんとする騎虎の冒險家なるが爲めにもあらず。支那が排滿の民族的革命を求めたるは同時に袁が代表する亡國階級の根本的一掃を求むるもの。眞の近代的組織有機的統一の國家を建設せんが爲めの興漢革命を要求する者なればなり。一掃さるべき階級と其代表者の覆沒とは、支那が積弱割亡の禍根を剗除して能く一國として存立し得るや否やを決せんが爲めの革命にして、――則ち排滿は興漢の豫備運動にして、微少なる袁孫の交迭を意味せず。

此の將來の觀測は袁が皇帝たることによりて動亂生ぜざるやの警告を發したる日本及び列强に對して、袁が能く忠實なる大總統たるも尙平和を維持し得べきやの反問となるものなり。是に對して然りと答ふるものあらば是れ袁世凱の人物を超人的に解するものにして敬遠爭はざるを可とす。而して多くの一般的皮相觀は支那に騷動は止むを得ずといふ程に笑過し去る。而も隣國の治亂に休戚の責任ある諸公は斯る無智を粉飾する放言に安ずる能はざるべし。實に今の皇帝計畫に支那の涙を呑むで服する所以は、國家存立の爲めに動亂を避けんとする眞率なる憂懼より出づるもの。袁を擁するの計畫者等が割亡を免かるべく永久の統一を要すとして袁を以て彌縫せんとするは動機の同情すべき妄動と解すべからざるか。固より憐むべき彌縫にして容すべからざる妄

動なるは論なし。而して要するに袁が皇帝たるにせよ、たらざるにせよ、今後支那に革命亂の免かるべからずとせば、是に對する朝野諸公の態度は豫じめ今の時に於て定むべきものなるに似たり。而も奈何せん第一革命當時に於ける朝野擧りての無理解が、日本自身の爲めにも隣國の爲めにも無數無限の遺憾を殘したる前例に鑒みて密かに僭越なる憂惧を抱かざるを得ざることを。依て不肖は諸公が將來を觀、將來に處するに一失なからんが爲めに、如何に過去の革命運動の觀察を謬まり處すべき所以の途に踏み迷ひたるかの反省を請はんとして玆に運動の經過せる跡を略說せんと欲す。これ前述の革命思想觀が不肖一個の見解に止まる如く、一外國人たる不肖自身の實見し得たる狹き範圍に於ける運動の見解に過ぎず。而しながら不肖の革命黨に於ける祕密結社時代の立場と、革命亂中は其一中樞人物たりし故宋敎仁君と相携へて長江を上下し親しく離合集散の勢を視、全く渦中の人として南京政府の成立し崩壞せるを眺めたることゝによりて、外國人としての過誤なき便宜を有するものなり。若し諸公の知る所にして玆に語る所と異なるものあらば、そは悉く支那通等の遊俠的誇榮より出でし虛僞か吏僚等の卓上觀察による誤謬なり。此の範圍に於ける不肖の叙述は多く正當なりとすべし。

不肖は玆に革命運動の跡を回顧するに當りて先づ支那輕侮觀者と着眼點を異にするを前置きせざる能はず。彼等は排滿革命が革命戰爭と名けらるゝに係らず一の記るすべき勝敗なきを見て罪を民族性に嫁し笑ふべき發火演習に過ぎずと嘲罵す。不肖は之に反して古今凡ての革命運動が實に思想の戰爭にして兵火の勝敗に非ざるを知る者なり。佛蘭西革命史に於て隣國の侵入軍と交へたる國際戰爭を除けば、革命其者の爲の戰記に幾頁を認むべきぞ。革命戰の死傷は大恐怖の虐殺數の百分の一にも過ぎざりしに非ずや。パスチールへ〳〵の叫びは大濤の寄する如くなりしに係らず救出せし囚徒只手形僞造犯七人のみなりき。然らば支那の革命に於て放釋されし國事犯人が汪兆銘、胡榮孫、籲筠君等數氏に過ぎざりしを笑ふべき理なし。板垣老伯嘗て不肖に語て曰く、維新の革命は戊辰戰爭に決せずして天下の大勢が頻々たる暗殺の爲めに決せられしに因ると。伏見街道の砲聲に驚愕して榎本等の海軍を置き去りに逃亡

せし德川將軍と、故張振武君等の煽起せし小兵の鯨波に膽を冷やして奔竄せし瑞徵總督と幾何の差等ある戰史ぞ。會津城の砲擊と南京城の共れとは共に砲彈の命中せしことなき點に於て比肩すべき交戰なり。革命とは戰爭と別物にして、日露の國際戰爭を滿洲の野に眺めたる軍人と浪士とが南下して考較すべからざる對照の下に妄論するは譽むべきことならんや。不肖は實に佛蘭西の共れを尊崇し日本の共れを誇示して獨り支那の革命に對してのみ驕慢なる無智を暴露する今の論客を敬重する能はざるものなり。革命史は戰記にあらず。從て玆に不肖の語らんとするところは革命思想家の運動にして、共運動により て起伏せる軍事的現象は多く留意せざらんと欲す。

回顧は大觀に止むべし。明治三十八年內田良平、宮崎滔天二君等の斡旋によりて所謂廣東派と湖南派の合同となりて『中國同盟會』なる祕密結社は東京に成立したり。十年前の微力少數にして半覺醒なりし當時に於いて二省は革命の先達として恰も維新前の薩摩と長州にも比すべし。薩長の反目が倒幕を挫折せしめ其の握手が維新の中堅たりしに視るも、孫黨と黃系との合同を策せる二君の功績は後の民國史を編すべき隣國史家の閑却すべからざる所なり。而しながら合せ物は終に離れざるべからず。孫逸仙君の米國的思想は勢ひ共の運動に於て餘りに多く世界主義的なるに過ぎ、黃興君の系統の寧ろ排外的なる國家思想と距離甚だし。則ち同一目的の下に或機會に際して聯合し得べきも一黨として融合すべきものなりしやは固より問題たりしなり。加ふるに『檄書』を著はして明の復興を唱へたる章大炎の出獄して、三百年不世出の文豪たる雷名と共熾烈なる國粹的覺醒を齎らして來り投ずるあり。大陸的豪雄譚人鳳の江畔一帶の哥老會匪を卒ひて負嵎虎睨するあり。當時共內訌が不肖の入黨數月後に起りしを以て諸友は不肖の行動に責を負はしめたり。而も不肖は彼等の思想的色彩の漸く鮮明ならんとするを悅び覺醒の各々向ふ所に徹底せんことを望みて敢へて自己一身の非難を顧慮せざりき。思想の異同に依る離合は氣運の計らひ以外に人工は多く效なし。孫君が革命の始を爲せりといふ廣東獨立策と、譚黃等が各々企てゝ各々破れたる明の復興運動とは、已に國家觀念の根本に於て越ゆべからざる溝壑あり。更に章大炎の鼓吹により日本的思想の

普及によつて彼等領袖等の覺醒が深刻を加ふるに從ひ、孫君の世界的民主々義と他の凡ての國粹的復古主義國家民族主義とは當然に手を別たざるを得ず。疎隔の事情は今日之を是非するの要なし。孫君の英米化せる超國家觀を以てせば其の追はるゝに當りて日本政府より出でたる數千金の餞は亡命客に對する國際的憫憐とも解せられたるべし。而も大炎の國粹的自尊心を以てすれば孫君か留學生を卒ひて去るの威を示さざるを憾み、何ぞ阿屠物を密かにして喪狗の如く追はるやとなして總理辭任を迫れる所以も解せらるべきなり。隔裂が如何なる動機を假りて來たりしにせよ、斯くの如き思想傾向の兩極的相異は凡ての行爲に悉く相異を生じ、革命運動に於て亦自ら選ぶ所を異にせざるを得ず。大同團結的氣勢を殺ぎし當時一時の遺憾は、今日之を顧みるに各自の思想に基く運動の自由となりて大局の幸慶たりしものゝ如し。

寛洪にして彌縫を事とする黄君は合せ物と考ふるよりも疎隔其事を憂惧したり。熱狂兒張繼君は當時已に一黨の輿望を負ひて立ち、革命の前に先づ革命黨を革命せざるべからずとして排孫の第一先聲を叫びたり。彼は黨首の恃むべからざるを視て自ら暗殺團を組織したり。大炎は其の炎々たる火筆を揮つて亡明の熱涙を留學生團の熱頭に注ぎたり。四十年夏黄君憂を抱いて南に去り故宋教仁は北の運動より歸り來れり。張君に導かれて來訪せる彼は交を重ぬるに從ひて、其組織的頭腦と蘇張的才幹の誠に歎賞すべきものを具備したりき。彼は冷頭不惑の國家主義者にして生れ乍らに有する立法的素質は其の團集を組織するの任に當りたりき。革命指導者等の最も能く覺醒したる當時の一二年間に於て、彼の完璧なる國家主義は大炎の國粹文學張繼の雷霆的情熱と相並んで如何に遺憾なく革命黨の理論と情熱と組織とを作り上げしぞ。而も不幸は革命に伴ふ影なり。黄君は鎭南關に再起する能はざるべく破れたり。汪兆銘君等は攝政王暗殺の成らずして終身の獄に捕はれたり。幹部に在りし一員の醜へりて彼等の釜中に毒を投じて世を驚かしたるあり。隣國政府の依囑によりて唯一の鼓吹機關たりし『民報』の日本官憲より永久に發行を禁止さるゝあり。不肖の幸德秋水氏に介せるが禍して張君の思想は意外にも無政府主義に奔逸し、僅かに捕吏の手を免かれて巴里に逃れたるあり。

斯くの如くにして孫去り、黄去り、張去れる後の中國同盟會は聲焔の外に顯はるゝものなく日本官憲の彈壓亦甚しくして、來り顧る一遊俠子だに無かりき。而も故宋君の卓越せる組織的天禀は、此間に於て著しく發揮せられ、深透廣汎して止まざる國家的覺醒民族的情熱は此間に於て殆ど一黨一理想の健確なる結束をなし、實戰の教鞭に打たれて愛國魂を鍛冶されたる軍事留學生は、亦此間に於て其征服者と戰ふべき叛軍の訓練の爲に陸續として歸鄉したり。而して實に革命勃發の二年前、故宋君は團匪的豪雄老譚を擁立して徐ろに密かに愛國的革命運動の參謀府を主宰しつゝあるを見たりき。斯くの如く不肖は少しく考ふる所を異にして孫去後の支那革命黨の暗默なる祕密運動に接近したるが故に、武漢爆發の運動につきて誤りなき眞相を叙述し得べし。

思想の相異は當然に運動の袂別なり。米國的思想より出づる運動方法は其の獨立の密謀と共に英本國の抗爭國たる佛人より多量の武器彈藥を給附されし便宜に習ひて、隣國の默諾の下に其等を密輸すべき『辰丸』を浮ぶることに在りき。而して覺醒せる愛國者は日本が清國政府と何の抗爭の利害なきのみならず其の保全が犯すべからざる外交方針たるを以て是れを一白盡夢となし、辰丸事件によりて蒙れる如き國家的侮辱は、彼等の愛國的情操より繰り返すを許さずとしたり。固より彼等は獨立戰爭と革命運動との學究的考察を經て茲に出でたるものに非ず。又米國の創設と支那の革命との比較的差別を發見して選ぶ所を取りしものに非ざるは論なし。只彼等が支那人にして運動が革命なりしが爲めに、米人の行きし所と方向を異にして斷岩絶壁の革命道を蹌踉として歩みたりき。則ち叛逆の劒を統治者共人の腰間より盗まんとする軍隊との聯絡これなり。――革命さるべき同一なる原因の存在は革命の過程に於て同一なる道を行く。實に腐敗頽亂して統制すべからざる軍隊は古今東西、革命指導者の以て乘ずべしとする所。彼等は全黨の心血を茲に傾注したり。佛蘭西革命に於てバスチールを陷れたるとき已に近衞兵二大隊の援助を得、國王をマルセーユより巴里の議會に引致するとき瑞西傭兵三百名の死守せし以外親兵護國兵の凡てが戈を倒まにしたる歴史を見よ。對岸の島國より一發の彈丸と雖も密輸せられたることなし。維新革命に於て薩長の革黨が其の藩内の幾政爭

に身命を賭して戰ひしは蝸牛角上の爭に非ず。其の藩侯の軍隊を把握せずんば倒幕の革命に着手する能はざりしを以てなり。攘夷せんとする外國の浪人より囂々たる助力を受けたることなし。支那が革命さるべきならば革命の途は古今一にして二なし。特に當時青年土耳古黨の軍隊を味方とせる革命の成效は如何ばかり彼等指導者等を啓發したるべきぞ。彼等は米國的夢想家が黄白二人種の二大聯邦共和國と比較して自ら樂しむとは正反對なりき。常に割亡さるべき悲慘なる對照として中亞の老大國を悲しめる東亞の青年黨は、實に愕然として土耳古革命の實物教訓に蹶起したり。土耳古と支那。青年土耳古黨と中國同盟會。天下また斯かる符節を合する如き同似あらんや。斯の如くにして半亡國の要求に沒交渉なる米國的夢想家と分離したる革命黨領袖の多くは更に、其の革命運動に於て外邦の武器を待たず外人の援助を仰がざる革命の鮮血道を踏歩したりき。四十三年夏、追はれたる孫君は突として來り、數日にして再び追はれたり。故宋君との會見は誠に冷かなるものなりき。不肖は當時親しく接近して此の數年間の思想的徹底より來れる革命運動の漸く正道に入りて躍進しつゝあるを視、分割の亡運或は彼等の頸血によりて既倒に廻らし得べきを待望したりしなり。而して他方、幾多日本の所謂支那浪人等が置酒高歌して、當時尙廢銃拂下運動を以て大に東亞の大策に參畫しつゝある殘酷なる滑稽を眺めたりき。この滑稽劇は頭山犬養二氏を座頭として翌四十四年革命地方を興行し廻はれる脚本の一齣なりとす。あゝ諸公。斯くの如くんば國士窮時の交によりて賓客たるべきも、革命運動の參與指導を以て誇負するは僭も極まれりと言ふべし。

五　革命運動の概觀

愛國革命は凡て其のはじめに於て排外黨なり――革命黨が日本思想系なりと云ふを以て親日主義なりと云ふは全く沒理なり――革命黨が或る場合に於て最も强烈なる排日運動の中堅なる所以――故宋は愛國革命の一指導者たるを以て孫系浪人に排斥さる――故宋に於ける不肖の立場――間島問題に於て日本を挫きし宋の苦衷――革黨の借款拒斥運動――新統治的心意を支配せる形なき中央政府『民立報』――廣東の失敗と趙聲の大器――『中部同盟會』の大運動と譚人鳳の人物評――軍隊運動の手段――黎元洪は元勳首唱に非ず、革黨に捕虜となりて强迫せられたる者――革黨の輿論運動と粵漢鐵道國有の導火線――チュレリー宮殿と等しき北京城内の賣國王――四川より武昌

長沙の烽火。

革命運動は日本が行き佛蘭西が行ける道を歩めり。運動が斯くの如くにして全黨を傾けて軍隊との聯絡に熱中すると共に彼等は自ら期せずして切迫焦眉の國家問題を提げて起てり。民主王權の爭にあらず、自由平等の談理にあらず、實に禹域四百州の存亡問題なり。始めより愛國心を無視して本國を見捨て移住せる米人の如き國家に對する反逆にあらず。將に亡びんとする故國を累卵の危きに支へんとする彼等愛國革命黨に於ては、運動の目標が自ら國家問題に集中するは要求の自然なる發現にあらずや。而して故國の積弱割亡を救はんとする愛國黨は積弱に乘じて凌辱し、割亡を迫促する列强に對して亦當然に排外黨たらざるを得ず。是れ封建政治を顚覆せし佛蘭西革命が轉進して奈翁の侵略戰爭となり、三百貴族を一掃せし維新革命黨が外國船を砲擊せる薩長の團匪なりし如し。武漢に發せし支那革命黨は北清事變の薩長的攘夷黨が日本思想によつて合理化せられしのみ。則ち一面娼樓醉舞の運動に於て軍隊と聯絡せる彼等は、輿論の廣野に立ちて對外硬の火を揭げ愛國の鐘を鳴らし、全國

に廣汎せる憂國的情操愛國的覺醒を大濤の如く煽りたりき。

この說明は換言すれば、日本が支那の恐怖たる時に於て所謂排日運動の中堅は則ち革命黨なりと言ふことなり。憐なる雞よ、爾が抱きし卵は終に爾の產める雞なりしことに安んぜよ。日本の興隆と思想とに抱かれて孵化せる支那の國家的覺醒は、三國干涉に對する臥薪嘗膽の大敎訓を服膺すべし。日本が已に向つて强露たる時、俯伏して國を賣るべしとは日本に學ばざる所なりと言はん。自由國たる英國に生れし北米の自由民は自由の保護の爲めに英國其者と戰へり。支那學によりて多くの啓發を得たる日本の忠孝道德は後年支那其者に加へたる征服となれり。日本的愛國魂が漸く支那に曙光を露はして彼等革命黨となれるに於ては、日本の或る場合の處置に對して排日運動を煽起するは寧ろ却て歎美すべき覺醒にあらずや。佛蘭西學者なるが故に日露戰爭を戰ふに日佛同盟の締結を夢みしものなし。獨逸學派の將校なるが故に靑島攻擊に勇敢ならざりしものなし。而も獨り支那革命黨の多くが日本留學生たり日本思想系の者なるを以て直ちに指して親日主義者となすは殆ど何の謂ぞ。日本が十年前の始めに於て隣國靑年の敎導を引受けしは固より革命の意味ならざりしにせよ、支那自らが自立獨行すべき一國家としての存立が日本の利益の爲めにも希望せられたるに基く。然らば彼等靑年が國家の榮辱に敏感となり國權の得喪に活眼を開き得たるは日本の希望の滿たされたるものにして、亦實に亞細亞の盟主たらんとする敎導者の誇に非ずや。同文同種と言ひ唇齒輔車と言ふが如き腐臭紛々たる親善論に傾聽すべく彼等は遙かに覺醒したり。亡國階級を凌迫し慣れたる日本の傳習的輕侮觀を以て親善ならんには彼等は餘りに愛國者なり。彼等は理解と希望とを以て兩國の將來が彼等自身の統治と日本の改まれる態度とによりて親善なるべきことを期す。而も奈何せん强者と弱者の親疎は弱者の心意によりて決せられずして、一に能動的なる强者の態度如何によることを。即ち革命黨の多くが日本的思想家なりといふことは誠實なる親日主義者たり又熱烈なる排日論者たり得と云ふだけの事なり。其の焉れかの一たるは强者たる日本の態度が決せしむべし。是れを排日の物質的一小部分たる彼の日貨排斥につきて見るも數年前の辰丸事件に施せし地方的其れと、

今春の日支交渉に對せし全國擧りての共れと、強烈の差等に較ぶべからざる國家的理解あり。袁の亡國階級の治下に於てすら已に然り。日本的精華に錬冶されたる革命黨の憂國者が統治すべき今後は豫じめ想像に堪ふべきにあらずや。之を要するに支那は十年前の支那にあらず。十年前の先入見より演繹を事とする吏僚と支那通との觸れ得る所は只支那の表皮にして、武漢の一拳に亡ぶべき程に腐爛頽廢せる亡國階級なり。其表皮を剝落して代はるべき新統治階級、則ち革命黨及び革命的青年は未だ彼等の視界より隱れたりしなり。爲めに稍々革命黨諸氏と交遊あるものすら革命黨は日本に依賴し、日本の呼吸の下に立國せんとする亡韓的親日黨なりと誤斷して顰蹙さるゝ援助を押賣りする者比々として然らざるなし。彼等は自ら認めて支那の通とすと雖も、今日支那上下の疑懼が『實に孫逸仙は李完用ならざるや』の一事に注集して、袁施策の妙諦、亦實に此疑懼を基本とするをだに解せざるは何ぞ。斯くの如くにして革命黨を語り革命運動に參はり、日支の親善を論ずるも憂國の士は終に與みせず。

不肖が思想の絲を辿りて武漢革命の運動系統を考察せんと欲するは玆に存す。孫君の民主的理想は天下之を知らざるなく、假令其理想が革命渦中の人の常として全然錯誤せるにせよ、他の經濟的政治的論據より漢民族の必ず到達せざるべからざる國體として中華民國史の開卷第一章に特筆さるべきは後章に說述すべし。而も其第二章に相竝んで亡國の支那が飢渴しつゝある現實的理想として故宋敎仁君等の國家的理想の大書さるべきを深く留意せざる可らず。前者の革命運動は國際的にして、外邦又は外人の援助を受くるは正當なりとの信念の下に行はれ來りしが故に自ら世界の了解を得易かりき。是に反して後者の共れは理想の國家的なるよりして愛國運動となり、從て外人の容吻を潔しとせず外國の援助の如きは萬不得止場合と雖も、國權を毀損せざる限りに於て受くべしとの熱情に基きて行はれたり。爲めに終に未だ隣國に於てすら行動の跡を窺知する機會なかりしは論なし。則ち前者の他力本願的政略が數十百の支那浪人を周圍に嘯集して聲援萬軍の如かりしに反し、後者の愛國的自尊心は終に彼等を結束せしめて排宋の一勢力たらしめしは止むを得ずとす。而も是れがために革命黨に對する知識延ひて對支政策の輿論が殆ど彼等の團集に

よりて作らるゝ今日、不肖は實に革命運動の眞相が未だ全く日本に理解されざるを痛歎せざるを得ず。革命中上海總領事有吉君が一般に親日論者なりといふ宋君に漁夫の號を用ひたる頃の排日論あるは支那人の反覆計るべからずと論じて、失笑を抑制せる不肖に向つて吏僚的輕侮觀を浴びせかけたる如きあり。頭山翁が一國の任命權によりて決せる宋教仁君の遺日全權代表に代ふるに、支那其者が存在を知らざる何天炯君を以てせんことを孫君に勸告せる如きあり。如何に革命が愛國運動なるかの根本義より無智なるかを暴露せる斯くの如し。動亂政局の中樞地に於て實見直聞せる代表的二氏にしてすら然りとせば、其等の報告に據るの外なき政府と彼等浪人團に依りて動きし輿論とが、困惑迷妄の限りを極めたるも宜なりと謂ふべし。實に故宋君の愛國的自尊心が彼等屬邦觀的援助者と兩立し得ざりし如く、革命の勃發は決して彼等の傳習的輕侮觀を以ては想像だもなし得ざる愛國運動によりて火蓋を切りし者なり。民主共和にあらず。又自由平等にあらず。而して又實に故宋君の革命史上に於ける價値は彼等の嘗て察知せざる此の方面に於ける一代表的指導者なることに在りき。

不幸なる生涯を彗星の如く消えし友よ。彼が北京に入りて國民黨を組織し正式大總統を決すべき總選擧に於て兩院に亘れる絶對過半數の全勝を占めて袁を威嚇し、武昌一夕の懽語黎を掌裏に圓ろめて長江を下り來るや彼等は始めて彼の光焰を仰ぎ視たり。革命家にふさはしき上海停車場の横死は前に讒誣垢罵せし彼等をして掌を翻へすが如く、全革命黨の運命を荷ひし偉人なりと激賞せしめたり。而も斯くの如く表面に統率的狀態の顯現せしならば、其以前に於てもまた等しく彼が革命黨の國民運動を號令したること斯くの如くなりしなるべしと察知すべし。然るを褒貶只雷同する彼等は之を支那の民族性と差等なき痴鈍なる團集と名けざるを得んや。不肖は彼等が評する如く宋派なる者にもあらず彼の顧問にも參謀にもあらず。只能く和し能く爭へる同齢の一益友として他年の交遊ありしが爲めに彼の眞價を他と異れる點に認むる者なり。即ち不肖が彼に相容すべしとしたる一事は世人の謂ふ如き、彼の多策にあらず學識にあらず辯論文章にあらず。一に只彼が一貫動かざる剛毅誠烈の愛

國者なりといふことのみ。

幽明を隔てたる今日に於て回想するに、實に彼の愛國心は存亡の危機に現はるゝ古人の共れの如きものありき。四十一年日清兩國に間島の爭はるゝや不幸なる愛國者は共熱誠の賜として、間島が朝鮮の領土にあらざることを明記せる朝鮮王室編纂の古書數種を帝國圖書館に於て發見したり。これ該繫爭地が日本の領土にあらざることを日本の材料を以て立證するものにあらずや。彼は共の寫を抱いて隣强の不法なる主張を挫くべく而も不倶戴天の清朝を扶けざるべからざるヂレマに立ち迷へり。然るに一日本人の共れを日本政府に賣りて革命の資を補ふべしと勸むるに逢ふや、彼は猛然として北京に郵送し終れり。十數日後よりの電報は日々清國の主張が彼の給付せし論證に基きて有力に日本の共れを拒斥しつゝあるを報じ、日本は他の事情と相待ちて間島の領有を放棄したり。これ革命黨の愛國黨なる所以が實際問題に觸れて現はれたる事例に過ぎず。而も嘗て犬養氏等憲政黨全盛時代に扶けしと云ふ、廣東の獨立のために臺灣を根據とするを得ば福建の鍵鑰は顧みるに足らずとせる明治三十三年頃の共れと雲泥の相異に非ざるか。後彼が此故を以て日本官憲より清國の密偵の如く迫害せられ、同志亦猜疑して清室に結ぶは黨を賣るものなりと讒誣するに會し、終に身の措處なきに至るや悲憤一夜胸を叩いて這裏の丹心君知るのみと痛歎せし樣の何ぞ慘ましかりしや。希くは諸公。斯の如き彼と血盟せしが故に不肖を賣國奴なりと誤認せざるべし。不肖は十年前『國體論及純正社會主義』の一著書を禁止されしことありと雖も、當時萬國社會黨大會が日露戰爭の反對決議をなせしに對し思想の自由は萬國の名を以てするも犯さるべからずと自序して自ら信ずる所を屈せざりし者。而して十年後の今日最も空想的なる佛國社會黨と雖も歐洲の大戰亂に非戰論を唱ふる者なきを見て時流に迎合せざる國士の分を全ふしたるを自ら足れりとする者。滔々たる贋造愛國者の間に處して不肖自身の愛國心の尊嚴の爲めにも、孤憤苦鬪せる彼の愛國魂を擁護せしは日本が產める賢子なりしが故のみ。要するに革命黨の愛國運動を指導したる故宋君は誤解されたる意味に於ける親日論者に非ざりしなり。

實に愛國運動は斯くの如き先覺者の血涙に滴りつゝ國家的覺醒が奔流の如

く全支那に漲るに從ひて漸く輿論の潮頭に起てり。支那の憂は北境よりする日露の武力的分割と、英米獨佛が清室と結托してする經濟的分割の二あるのみにして他無し。其一に對して對外硬を唱ふる彼及び革命黨は、當然に經濟的分割を策するストレートの四國借款に向つて頑强なる排外運動を試みざるべからず。四十三年彼が上海に潛みて故范鴻仙于右任の二君と共に『民立報』を刊して、滿洲の租稅徵收權を擔保とする該借款に死力抗爭せしは讃美すべき一貫の行動に非ずや。賣國階級に取りては日露の武力的侵略を防ぐに四國の資本を招致するは夷を以て夷を制する傳來的外交策と考へたるべし。將に興らんとする新統治階級は此四國の挑戰を以て二國の結束を促がすものとなし、二國對四國の勝敗が何れなるにせよ滿洲の終に割斷せらるべきを見たり。章大炎と雁行せる國粹的覺醒の先達于右任君と、不肖の常に生ける王陽明を見る如しと敬重措く能はざりし故范鴻仙君と、彼れ宋君との一體的奮鬪は、如何に輿論の嚮ふべきを導き一個斷々なる決意を全國の新知識階級に與へたりしぞ。偉人の價値は只國民に與ふる決意一に存す。これ薩長浪士の二三子が各地より集まれる浮浪武士の團集を京都に決意せしめ、終に各藩の革命軍を煽起せしめたると同樣に考ふべし。革命とは政府と輿論とが統治權を交迭することなり、而して上海は當時全支那輿論の神經中樞たりしこと尙維新前の京都の如し。實に革命生起前に於て已に彼等の所說は、悉く各地の各報に轉揭せられて隱れたる新統治階級の心意に號令したる形なき中央政府として統治したり。是れ『民立報館』が後革命起り、各省都督立ちて未だ新中央政府成らざりし期間、各省海外より雲集する電報の集中點たりし奇觀にも想察し得べし。從て四國借款に反對せる故宋君は誤解されたる意味に於ける排日論者に非ず。漁夫の名を以てしたるは日本に感謝されんが爲めにも恐怖したる故にも非ずして、敎仁を以ては捕斬さるべき身なりしのみ。あゝ是れをしも翻覆常なき民族性なりと嘲罵するや。

却說す。革命運動の軍隊聯結は洪水の如く長江一帶の各省に浸汎せり。革命家の本質たる年少血氣は其の辭書に『待』の一語を缺けり。時機の熟否は史家の後世に之を論ずべきも、是れ劇中の人の察すべきに非ずして知るものは天

のみ。四十四年三月黄興の招きに應ぜる革黨書生の一團は廣東の勃發に於て破れたり。此の一敗の如何に後の革命黨に禍せしかは殆ど量るべからざるものあり。花顏熱腸の幾多丈夫兒は武裝せる十萬の壯夫を以ても償ふ能はざる貴き犧牲なりき。『北に於て吳錄貞死せず南に於て趙聲歿せずんば今日孫愚袁奸を見ざるべし』と惜まるゝ程の趙聲は死せり。聞く彼は宋君が哭して我は覇才なり奉すべき王者なきを奈何と言へるほどの大器なりき。孫黄を掌上に翻弄する陳其美君の策士を以てするも、彼の一言に背かざりしといふほどの王德なりき。故范君が不肖に語りて、其始め從ふに不平なりし黄興が一會忽ち心服し悅んで命を仰がんと誓ひし如き天命を享けたる統御のヒーローなりき。此等の犧牲を拂ひて彼等は破れたり。軍隊の內應運動に任ぜる胡漢民の家兄君が責任あるや否やは言ふの要なし。此の悲痛なる事實は革命運動が軍隊運動ならざるべからざる活ける教訓なりき。幾多盟友の屍を棄てゝ僅かに逃れたる黄君の沮喪して再起の勇なかりしといふは人情察すべきに非ずや。彼の人物が大局を視るの明を缺くは不肖の知悉する所なれども、此時に一指を失ひしの故に死の怖るべきを感ずる如き怯者にあらざるは亦固く保證せんと欲す。

勘くの如くにして多涙多恨なる黄興は盟友流血の地に低徊して香港を去らず。後れて至れる故宋は漸く生き殘れる胡服辮髮の老譚を擁して愛國運動と軍隊運動の中樞、上海に歸り來れり。

斯くの如くにして、前年東京に於ける彼と孫君との冷かなる會見、一民主的夢想家と國家的思想系との事實上の分離が僅に黄興といふ一個の人によりて彌縫し來れるに係らず、孫君の故鄉たる廣東に於て孫系の人の軍隊內應を誤れるより生じたる幾多犧牲の出現は、彌縫者を香港に放置して長江一帶に一黨を結束せり。『中部同盟會』これなり。形式を中國同盟會內の一黨に假りて大合同の障害を避けたるものゝ如し。而しながら其盟主たりし譚人鳳は外國思想に聊かの影響だにせられざる純乎たる大陸產の豪雄なり。彼自身は愕くべき博覽强記の讀書家なるに係らず、彼の革命傳は青年讀書生の一團を以て崑崙山なるものを組織し、中淸南淸の大勢力たる哥老會の各山を統一し覺醒せしめ以て興漢を策せる一見甚だ古怪なる者なり。而も支那の氣運が一般書生に此の大陸

に磅礴せる其自身の國粋的覺醒を喚起せしを以て、僅少の年月中に日本の輸入思想を排滿革命に消化し得たるを解せよ。然らば此の氣運の權化たる彼の下に愛國革命黨の包容せられたる理由を想像し得べし。彼の人物は墮落せる支那人が持てる不德の凡てを正反對にして持てる支那人なり。卽ち東洋魂が大陸に腐敗して支那人となり島國に洗練されて日本人となれる如く、換言すれば彼は頑固なる日本古武士なり。而して亦腐敗墮落せる大陸より東洋魂が復活して革命黨となり躍動して革命運動となれる所以を解せよ。然らば鼎鑠甘きこと飴の如しとする彼の決死的實行の下に革命黨の實行分子が統一されたる理由も亦諒察し得べし。之を要するに宋君等國家主義者の團集が國粹的團匪的權化たる彼を黨主として結束したることは事情の偶發又は一時的聯合に非ず。實に犧牲心の共鳴と同類なる思想系の合理的融合なり。而して中部同盟會に入るものは彼を盟主とし彼に宛てゝ誓盟せること、恰も中國同盟會に入るに孫君に宛つる如くなりしに見よ。二系統の間は將來或る機會に於て提契し得べき條件附の分離なりしことは蔽ふ能はず。

彼等は其の軍隊との聯絡運動に於て大隊長以上に結托せざることを原則としたり。革命さるべき程に墮落せる國に於ては大隊長以上の榮位に在る者は悉く飽食暖衣の徒にして冒險の氣慨なきは固よりなり。特に已に斯る榮位を得たるは戰功學識にあらずして一に請托贈賄の賜なるが故に、其關係上直ちに反覆密告に出づべきは推想し得べし。彼等は又大隊長以下に聯絡するに於ても下級士官に働ける手と、兵士を招く手とを互に相聞知せざらしむることを規定したり。斯る複雜煩累なる手數を重ねずしては陰謀の漏洩を保つ能はざるほどに道念の頽廢し、國家組織の崩壞せる支那の現狀を察せよ。黎元洪が其の一隊を率ゐて『大義の首唱者』たりしかの如き顚倒事を信ずる日本人は秩序整然たる維新後に生れて、師團長より聯隊長に、聯隊長より大隊長に命令するかの如き類推を爲すが故なり。嘗て太陽が西より出でざる如く古今革命が上層階級より起れることなし。黎は彼等の運動が顚覆さるべく彼等の密告者たるべき飽暖階級の者にして、當時彼等の運動が聯絡を禁じたる旅團長の身なりしなり。咄嗟蹶起して彼を脅威迫擁したる故張振武蔣翊武君等は當時實に曹長の

下級士官にして孫武劉公揚玉如の諸君との聯絡に出でたる者なり。而して見えざる他の手より結ばれたる兵士等は下級士官の蹶起が他の手より煽られたる事を知らずして黎を主謀者と誤認して集まりしのみ。『辮髪を斷つか、首を切らるべきか』を威嚇せられ、左右より差向けらるゝ拳銃の監視の爲に兵士の發砲を制止する能はざりし彼と總督瑞徴との差は、一が卽夜城を捨てゝ奔竄せしに反し此は逃亡の隙を得ずして捕虜たりし相異のみ。革命史のレコードを破れる副大總統閣下よ。天の執筆せるコメデーの脚本は日本浪人團の登場により て申分なき名優を得たり。彼等は斯る噴飯すべき副大總統の輝ける武昌の空を眺め、孫君の南京に據り袁の北京に在るを顧盼し、以て妓を擁し盃を傾けて曰く、天下三分せり將に鼎立の計を策すべきなりと。謂ふ所の南北講和なるもの斯る通俗三國史に養成せられたる痴鈍なる孔明諸君によりて理解さるべからざること、恰も維新革命に於ける勝、西郷の共れが時代を隔絶せる元龜、天正の軍談を以ては說明されざるが如し。是を要するに革命黨領袖等の軍隊運動は廣州の戒を機として明白に孫系と分離し、武漢勃發の一例に察し得べき如く長江上下の各省に亘りて、軍隊の下層階級に堅確なる聯絡を擴げつゝありしなり。

再び却說す。革命黨の愛國運動は一面の軍隊聯絡が斯の如く各省の地下層を流れつゝありし間に於て天人倶に容るさゞる國家問題を捉へたり。老譚を『聯絡部長』とし『文事部長』なる名を以て、諸省同志の聲息相通に當りし宋范の二君は、已に『民立報』に據れり。――二君共に前後して凶刄に仆れ譚翁獨り老いて壽きを悲しむ。春廣東に敗れたる此年は秋武昌に發せる四十四年なり。革命は動き輿論は將に政府に代りて統治せんとするの時なり。而して民立報に陰れたる文事部長等の愛國論は『形なき中央政府』の號令として全國新統治階級の憂國心に共鳴し、政府も世界も其響だに聽かざる聲を天の耳に達せしめたり。天は終に許すべからずとして人の容るす能はざる國家問題を革命黨に授けたり。則ち四國借款の契約に基ける粤漢鐵道の國有これなり。希くは諸公、皮相觀に誤られて國有民有の學說に陷り給ふ勿れ。問題は可否の卓上にあらずして存亡の根本に存す。又利權回收の支那に有利なるや否やの打算論に傾聽せざるべし。愛國的覺醒は古今凡て攘夷的形式の胞衣に包まれて產るゝ者

なり。高輪の公使館を燒打ちせる井上、伊藤等の團匪的精神あるを以て彼等自身の歐化政策にも國を亡ぼさゞりしを解せよ。然らば盛宣懷の四國借款をキツカケに爆發したる排外黨の譚人鳳が、直に彼に亞ぎて粤漢鐵道督辯たりしを皮相觀に從ひて批判せざるべきを信ず。攘夷黨に取りては公使館の建築だに見るに忍びざりき。借款が我大陸國を割亡しつゝあるに奮起せる彼等愛國黨に於ては外債の利害は打算だも潔しとせざる所なり。關門海峽に黑船を打拂ひたる團匪は後世に感謝せらる。粤漢鐵道は攘夷論より遙に進みたる愛國的覺醒によりて國民自身の膏血を以て回收したる利權なる事を回想せよ。佛蘭西革命に於て王の賣國行爲は自家の安全の爲に亡命貴族を通じて國家分割に同盟せる列强侵入軍を招きたり。支那の革命に於て借款が國を賣る者なりとの實證を國民の耳目に提示する能はざりしは論なし。彼に於ては國民の耳國境を破れる敵蹄の響を聞き市民の眼首都を距る四十哩の間に迫れる劍戟の閃光を見たるものなり。北境に於ける日露の武力的分割軍を見て漸く日本に學ぶべきを悟りし以外、清朝の覆へすべきを其當時に發見せざりし程度の國民に非ずや。皇族大臣等の浪費に消ゆべきストレートの四國借款が終に滿洲を賣買するものなりと警告する先覺者の聲は裂帛杜鵑の血に叫ぶとも、國民の肉感に見聞するを得ざる將來の豫言に屬す。從つて、單に買方の將來を恐怖するに止まり、未だ賣方の北京城其者がチュレリー宮殿の如く破壞さるべしとの激怒を喚起するに至らざりき。而も四國借款は滿洲の北より更に中原に延びて粤川漢鐵道の上に蔽ひ來れり。盛宣懷は革命黨の豫言する國家賣買の將來が如何なる狀態なるかの實證を示さんとするものなるかの如く民有の株券を沒收し始めたり。其の國有とは人民の成せる國家が所有者たる意味に非ずして、征服者の財政破產の爲に四國に賣らんとして今人民より掠奪する者なることを目に視耳に聽かしめたり。國民は利權回收の故に血を絞りて持てるものを奪はれつゝ始めてチュレリー宮殿の賣國奴を發見したり。『市民よ國危ふし』、民立報は輿論の鐘樓に登りて存亡の急を亂打したり。遙か北の方を指せる愛國運動者の指揮刀は轉じて蜀の天に向へり。四川亂る。革黨の軍隊運動は武昌に突發したり。長沙應ずるに至て兩湖の中原火を噴く如く愛國運動は終に諮

政院の彈劾となり盛宣懷は北京を亡命せり。萬里長江の雲黑うして革黨の飛躍電の如し。

六　革命渦中の批評

革命爆發に於て孫黃譚宋等悉く計畫者に非ず——四川の動搖と長江各省の爆發すべき氣運動く——爆彈破裂より起れる武昌の擧兵——一日本人だに革命に關係なき論證——其の證明として上海奪取の實見談——日本人の倫理的共鳴を以て革命援助と誇る勿れ——東京公使館の占領に東京市民の無關係なりし如し——革命黨自ら號令者たるべき規定——武昌に於て老譚が自ら指揮者たらざりしよりの根本的失策——宋の軍政府組織に隨はざりし黃興の失策——黃の敗走は明の暗きに出づ——宋の南京占據方針——敵城出入中に於て實見せる彼等の興國的冒險的氣魄——支那悲觀論者は德川時代の日本觀を以て亡國を類推せる外人の如し。

不肖は玆に外人の身を以て彼等革命家の動等を審判する者にあらず、又要なきことなり。而しながら動かすべからざる一事は、斯くの如き思想系の分離と運動手段に於ける斯る截然たる袂別より推して、少くも孫逸仙君が一九一一年の革命に於ては全く局外者なりといふことなり。これ彼自身の承認する所にして後の史家も亦論證すべし。特に當時彼は米國の遠きに在りしが爲めに、支那浪人等の臣事的吹聽に聽く如く、遙かに四百餘州を指揮したりといふ超人的解釋は首肯し得べきものに非ず。革命とは國家の統一なく社會組織の崩壞せる國民に起る者。未だ新國家新社會を成さゞる前に斯る有機的統一と組織とを持てるものゝ存在して、西半球の果てより東半球の治亂を號令したりとは人類の頭腦を以ては思考すべからざることなり。又故宋君が事に會する毎に不肖に繰り返へしたる如く、武漢擧兵の一週日前より日々老譚が武昌に行くべしと迫りしに係らず遷延機を失せしを終生の恨とすといふとも、史家はこれによりて動等を憐むものにあらず。將又老譚は宋君の決せざりしに焦心して自ら南京の病院を出で藥瓶を携へて遡江しつゝありし間に、張蔣君等の蹶起せしを畫策の齟齬と感じたるべきも、是れ等しく天が夫の豪快なる老翁に戲れたるものにして動等とは交渉なきことなり。動功は天の認むるものあるべく等級は運命に決せらる。而しながら要するに彼等愛國黨の一團が全國の輿論を粤川漢諸省の賣國問題に指導し集中せしめて、全國民に國家存亡の危機を指示すると共に、湘蜀動搖の機を捉へて活躍したる經世的大局眼と興國的氣魄とは、不肖實に掌を鳴らして歎賞せざらんと欲するも能はざるなり。彼の劍に杖いて來れるの徒に至ては、固より此の微妙なる爆發期に交渉あるものにあらず。

四川の諸友は常に語りて曰く、革命は蜀人に始まり蜀人に終ると。是れ四川の騷擾を以て革命の始を爲し清朝の柱石良弼を北京に爆殺して皇帝退位の終をなせしもの亦實に四川省の出なりし誇を意味するものなり。不肖は身親しく革命の渦流に漂ふに及んで維新革命を說明せる板垣老伯の言が同時に支那の革命を解釋しつゝありしを切實に心解したり。革命は戰爭に非ず大勢の決定なり。誠に蜀人の誇りとする如く四川の亂を以て革命の幕は切り落され、長江の舞臺は將に俳優の登場を待てり。峽西に發すべきか、湖南に起つべきか、安

徽江蘇に亂るべきか、將た四川其地より兵を擧ぐるに至るべきかは只時日の問題にして固より敢て武漢を必せざりしなり。これ當時不肖の親しく各省諸友の語る所に聽き且つ前述の思想的覺醒と彼等の運動とに察して明かに推想したる所なり。而して事實は雄辯に立證して諸省の擧兵自立する前後通じて僅僅月餘の日子を要せざりしなり。如何ぞ輕侮を事とする皮相觀が見る如く單なる雷同によりて然るを得べく、又臣事的吹聽者の云ふ如く一夢想家の太平洋の彼岸より發したる命令によつて斯の如くなるを得べき理あらんや。是氣運の至れるのみ。而も機の熟否を知らざる劇中の人は、尙漢口露西亞租界の支部に於て爆彈の密造に熱中したりき。天は機の熟せるを示さんが爲に密造者の手より其れを奪ひて床上に投じたり。轟然たる爆聲。孫武劉公揚玉如の諸君は大事洩るとなして脫兎の如く逃れたり。逃れたる背後より捕縛の手は來り結社員の名簿を押收せられたり。斯る時簿冊を置き忘れたる彼等の狼狽を責むるに酷なるべからず。是れ亦天の意あつて奪へるなからんや。故宋君が武昌に赴かざりしを終生の恨事とすとも天意計るべからず。彼張人傑張斗樞三君の商賈を裝ひしといふ『寶慶公司』の隔壁より爆發せる此の變事に於て、彼が如き不運の星の下に產れたる兒は或は逃るゝの機を得ずして無名の首を梟木に曝したるも知るべからず。老譚地を蹶つて計策の齟齬を叱咤すること莫れ。天意爾を壽からしめて亡命の異域に憤死せしむるに在り。

斯る一瞬時實に興亡の轉機を視る。潑溂たる興國の氣は磅礴して已に革命的青年の心胸に在り。輕侮觀者が見聞する亡國階級の支那人なりしならば、押收されたる名簿中の人、故張振武蔣翊武君等は當時漢口に在りしが故に直ちに逃亡して身の全たきを選ぶべきにあらずや。一曹長に過ぎざりし彼等が氣運を察し大局を算して然かり、しかの如きは固より想像を入るべき動機にあらず。彼等は孫武等の急を告ぐるに會すると共に、如何にして名簿中の諸友を救ふべきかのみを協れり。興國の氣は青年の冒險のみ。彼等は孫揚劉諸君とともに即夜江を渡りて武昌の軍營に歸れり。簿冊が黎元洪の前に、運ばるゝより先きに、彼等は黎を逃る能はざるべく擁捕したり。逃れたる瑞總督のなき武昌城は冒險家の支配に落ちたり。彼等は黎の溫良厚順なる好々翁なると兵卒の親愛

を受くるとにより、彼を推挽して諮議局に赴き擁立して以て革命を宣せんとしたり。可憐なる『大義の首唱者』は服を易へて逃れ、寢床の下に潛匿したり。援援たる兵亂の城中斯くの如くにして陸軍中學生數十名に監視さるゝもの三日。翌老譚城に入り水軍の向背亦定まるを報ずる者あるに至りて、漸く辮髪を薙ぎ、張彪に戰を開きたる者なりとす。あゝ諸公。斯くの如き黎元洪と、三日を後れたる譚人鳳と、上海に沈思せし宋君と、香港に灰心せる黃興と、而して米國に在りてワシントン傳を耽讀しつゝありし孫逸仙君と。日人遊俠子は各其の親しむ所によつて功罪を妄論するも、武漢の發たるや實に天の爲せる所。從て不肖は只革命の思想的系統と革命的運動系の大綱を把握して支那政局の大勢を概觀し得ば足れりとする者なり。而して日本人に交遊ある以上の諸氏凡てが機に後れたりといふ此の正直なる事實は、不肖を始めとして、所謂支那浪人なるものの全部が微少なる援助だに無かりし事を證明するもの。日本政府が列强より隣國動亂の煽動者なりと猜推さるゝの寃罪を拂拭する者なり。而して又同時に支那の革命は東洋の佛蘭西が自ら成せる革命にして外援に惠與せられたる米國獨立軍に非ざることの論證たる者。彼の痴鈍なる團集が市井に誇らんが爲めに大に參畫せるかの如き虛構を流布するは、一個重大なる國際的罪惡に非ずして何ぞや。彼等は只亡命時代に於て、內田、宮崎諸君が日本官憲の暴壓より庇護せし、溫情俠義に對して忘恩民族ならざるのみ。

武昌の起義に支那浪人等の全部が何等の援助なかりしと同樣に、日本及日本人が其他各省凡ての革命に些少の援助だになかりし事實は上海の蹶起に於ける不肖自身が證明の材料たるべし。當時『中部同盟會』の評議員たり上海の支部長たりし陳其美君は、長軀に辮髪を垂搖して紫紺の胡服せる好個の縉紳の如くなりき。彼と不肖との話題は只數百挺の拳銃に在りき。而しながら日本人として些少の援助を與へんとして而も能はざりし所以は、上海の何處の兵器商館と雖も其地に武器彈藥を貯藏する事を許されずして各種の見本を持てるのみなりしことなり。彼等が突擊に用ひたる數發の爆彈は(日本浪人の密輸入せる者なりといふ如きは悉く虛言にして實に革命黨自身の軍隊運動によりて腐敗せる機器局の吏僚に賂して得たる火藥を以て製造したるものなりしなり。

來訪せる某少佐と語りつゝ時針の行くを眺め居たる不肖は、彼等が已に機器局に到着したる頃なるを見計ひて今上海が戰はるべきを告げ最善の援助を求めたりき。少佐は驚愕し、且つ快呼して歸へり、武官室の受話器を耳にしたり。大勢の已に決したるところ上海の夕は『排滿興漢』の白旆を翻へし江南停車場の護卒は革命の記號たる白布を左腕に卷けり。民立報館及び祕密機關部の諸友は家を空うして赴けるが爲めに事の成否を報ずるものなかりしと雖も、不肖は武官室の電話より祝賀を受けて目的の遂成に安んじたり。而して諸友の生死を氣づかへる不肖は、祝賀と反對に失敗を報ぜんとして逃れ來れる黃興の息一歐君の血に汚れたる手を握りて愕然たりき。――四邊に注意を配りつゝ帽子目深かに歷階して室に入れる彼は、一に武器なきを訴へ彈丸を購ふ能はざるが故に同志の持てる拳銃が始めより空砲なることを歎きたり。出發前其等の豐富を告げたる前言に照して訝かれる不肖は、機器局の敵中に內應あるべきを以て庫中に豐富なりといふ彼の答に驚きたり。何等かの援助を要めんとして武官室に走れる不肖は、少佐が更に該方面に照會せる勝利の確報によりて、彼が年少

なるの故に或は敵影に驚きて奔逃せしならずやとの一般的支那人觀に迷はされざるを得ざりき。深更の寂寞を驅れる不肖は、支部に眠れる彼を醒まして別隊に分れたる陳君の占領ならざるかを詰り乃父の名譽の爲めに杞憂したり。彼は今陳君等の捕はれて敵手に在るを語り、語りつゝ耳を聳てゝ馬蹄の戛々を聞けり。月白き街道を再び少佐の門に驅れる不肖は、非常識にも警備艦の拳銃を借らんことを訴へ、同情に溢れたる少佐は事の不可能を說き只拱手歎息したり。焦悶眠らず曉に至つて武官室の電話は前報の確實にして今松江の騎兵によつて守らるゝことを報じ、再び前夜の杞憂に迷へる不肖は譚人鳳の息盍材君の都督府に迎へんとして來れるに會し車中始めて一切を諒知したり。實に天長節の夜會、領事と道臺とが日淸の親交を交換せる間に於ける革命黨諸君の上海襲擊は一たび失敗して部長等は城中に捕縛せられ、松江の騎兵の來り援くるに及びて再擧して進み陳君等を救ひ出せる者。古今凡ての革命が軍隊運動による歷史的通則を眼前に立證せられたる者なりとす。而して同時に此の立證は、當時未だ浪人團の渡來なく彼等の間に唯一人の日本人なりし不肖と、日本政

府の一員たる某少佐とが、心如何に援助せんとするも能はざりし活ける事實を論據として、日本及日本人が支那の革命と沒交渉なりしを論斷せしむるものなり。不肖と某少佐とが支那浪人より價値なき人物なりと言はゞ共れまでなり。而も無き物品は如何なる同情を以てするも寒中に筍を掘るべからざるが如し。出先きの援助よりも輿論と伊集院公使との中間に迷ひて本國政府は只々當惑せるのみなりしにあらずや。徒に同情と援助とを混同して獨立獨行の隣邦國士を詬辱する勿れ。

而しながら、他の極端に走りて不肖は、全然日本人の革命に交渉せる價値を認めずといふにあらず。斯る或種の物質的助力は事變の突發せると、親交國政府に對する國内の反逆なりしとの故に能はざりしといふのみ。則ち日本人は民國より多大の報恩さるべき勳功ありしかの如く、自任して野蠻なる罵詈を民族性の上に加へて亡恩呼ばりを爲すことの實に國際的罪惡なりといふ反省を求むるのみ。日本人の誠心より出でたる同情と日本の全國擧りての聲援とが彼等革命黨に與へたる心的影響の量るべからざるものありしことを無視するにあらず。是れ邪を憎み正を悅ぶ正義的本能自身が懽喜する同情なると、勝敗が決勝點に入る刹那に起る觀客の本能的喝采なればなり。校庭に戯はむるゝ選手すら同情と聲援に影響せらるゝを見ば、鮮血を踏んで國家の存亡を爭ふ彼等が隣人の倫理的共鳴に鼓勵せられ、險を奪つて進む毎に起る隣國の喝采に奮躍したることの大なるべきは固より論なきことなり。而しながら是れ單に日本人が倫理的動物なりといふだけのことにして、他の在支列强國民が非倫理的野獸なりといふ意味にあらず。實に彼等英米獨佛人の悉くは滑稽にも彼等四國が壟斷せんとせし鐵道其者より起りたる革命なる事を打忘れて、其正義的本能より同情し本能的喝采を擧げて聲援したり。是れ不肖の親しく上海決勝の日に實見して、或は日本人の上に出でしやも知るべからずと考ふる者なり。則ち何等の援助なかりし點に於て日本人は諸外人に優るものに非ざると共に、等しく人間たる本能より發せる同情聲援に於て諸外人は決して日本人に劣りたるに非ざるなり。只彼等の其れは紅顏颯爽たる一歐君を圍みて婚約の媒酌を申込める等の愛嬌あるに反し、日本人は聲援の埒を躍り出して切齒し、扼腕し、怒罵

爭鬪し、終に彼等の優勝旗に泥土を塗らずんば止まず。日本人の傳習的論法に從ひて斯る無禮沒分曉を其國民性なりと斷ずる者あらば如何する。特に況んや獨力亡運を廻らさんとする踏屍浴血の國士を誣妄して、己等の庇護援助の下に然りしかの如き虛僞を流說するの唾棄すべき罪惡なるを。不肖は實に憂ふ日本將來の人道的國辱は南洋に密輸さるゝ賣春婦に非ずして對支貿易表にのみ見る斯る操守なき男性の輸出品ならざるかを。あゝ諸公。日本人の支那革命に對して受くべき光榮は當面の物質的助力又は妓樓に置酒して功を爭ふ者の個人的交遊に非ず。實に日本の興隆と思想とが與へたる國家民族主義に存するなり。而して不肖は、亦是を上海に於ける活ける實見を以て論證せんと欲す。則ち不肖が、其の祕密機關部に於て出入往來するものを見るに殆ど全部日本留學生にして、其の機器局襲擊の勢揃ひに集れる凡ての服が悉く詰襟金釦なりしことなり。武漢の突發を聞きて各自の各省に赴かんとして落ち合ひ先づ此處に通路の關門を打破したる彼等は、昨日まで神田の下宿屋に在り士官學校の寄宿生たりし無屆缺席の學生のみなりしことなり。留學生服が革命服と稱

呼せられたる事なり。否。上海に實見せる不肖の論證を待たずとも東京に於て日本人の悉くが目睹耳聞したる筈にあらずや。則ち陳猶龍君が出發前の留學生を率ゐて清國公使館を占領したること是れなり。公使は謂ふまでもなく大清皇帝の遣外代理なり。陳君は唐才常と共に叛して自ら鄭州王と稱せしほどの泰西的臭氣だになき時代後れの國粹黨なり。留學生の全部は民主共和の學校に入らずして國家民族主義のみを教育されし者なり。此の一團が大清皇帝の代表的官舍を占取せりといふ眼前の事實は、支那革命が日本的思想家の事業にして革命の根本要求が日本と同樣なる國家民族主義なることを、日本人の諒解を請はんとして日本の首都に於て演じたるに似たらずや。繰り返へして云ふ。武漢の擧兵に於て上海關門の占領に於て日本及日本人が些の援助なかりしことは、東京公使館の奪取に於て市民が何の力添へを爲さゞりし事實の證據の如く明白なりと。不肖は、何が故に日本人が佔らざるの恩を誣ひて忘恩民族呼ばりをなし、却て四億萬民に愛國的覺醒を導ける此の赫々たる教鞭を揮つて誇らざるかを怪しまずんばあらず。

上海の占領は覺えず不肖が、陳君の長頸を叩いて危うかりし首かなと哄笑せし程に實に危機一髪の勝敗なりき。從て革命と戰爭とを混同する者に取りては他力の推挽によりて都督たりしのみと解釋すべし。而しながら彼は江南新興の氣を代表して己が破りし軍隊も己を救ひし其れをも手足の如く統御し九鼎の威を以て彼の大都に號令したり。武昌に至ては然らず。一個の俘虜を都督として全國の耳目を欺ける第一歩の發足點の不幸は、呪の如く革命運動の展開に附き纏ひたりき。十日後に獨立せる湖南に於ける如き、則ち故蕉達峯君が三百の新軍を率ゐて巡防隊統領を斬り、諮議局の承認を經て長沙に都督たる間もなく譚延闓に屠られし如き都督の交迭は望ましからざりしは論なし。而も革命黨が常に準備規定せし所に從ひて一省の首長として權力の主體が黨員自身たるべき事、陳君の上海に都督たるが如くならざるべからざりき。何となれば何等の節度なく統一なき革命中に於て、恐惶し動搖し惑亂するのみなる群衆心理を統制すべき中樞として新精神の體現者を缺くことは則ち全軍全省に與ふる決意を缺く事なればなり。黎は一俘虜に非ずや。俘虜の恐怖と因循とを動亂の群衆に暴露して而も全省を新精神に節度し全軍を必勝的決意に統一せんと考へし革黨の愚や實に計るべからず。老譚が三日を後れしを遺憾なりとするは此故なるべきも、彼の入城せし時は黎の尙決意せざりし時なり。假令張蔣孫劉等が黎を推すの便を主張せしとも、彼にして斷乎規定の勵行を訓示せば黎は一個の降將として犬馬の勞役に服すべかりしなり。勿論兩湖の南北的感情の顧慮を要すべきこと維新前の藩的其れの無視すべからざる如き事情もありしなるべし。而も十數日後に湖南に擧げし故蕉達峯故揚任謝介僧曾傑の諸君が悉く彼の統制に屬したる如く、諸君と常に謀を共に與にして只死地に陷れるが爲に湖北に先んじたる孫劉揚の諸君、亦等しく彼の盟主の下に血盟せし者に非ずや。中部同盟會の頭首たりし當然の責任として、黎が軍を率ゐて彼を推戴するの形を踏んで親ら群衆心理の神經中樞として立ち、國民の前に新精神の體現となり全軍の上に必勝的決意を與へざるべからざりしなり。三日は後れたるにあらず。彼の禪讓的舊道德が彼に斯る大失策を爲さしめて革命の發足に禍せるに非ざるなきか。故宋君は他の語を以て此の批判を不肖に立證した

る事あり。彼が袁大總統の下に一農林總長を忍びて北上せんとし不肖の苦諫して、終に書生交遊の常たる怒罵の交換に至るや、彼は焦悶に堪へざる如く其の倚れる椅子を叩いて曰く、此椅子なり。老譚の迫れる武昌行を熟圖して斯くの如く此椅子に倚れる間に革命は起れり。余の北上はこれより革命を始めんが爲めにして今日までの革命は余に取りて始めより失敗の革命なり。彼の黎輩すら今は則ち副大總統たるに非ずやと。當時尙譚を擁し黄を藉らざるを得ざりしほどの年少なる彼に於てすら、武漢に在りしならば敢て大總統に當らんの慨を洩らす事斯くの如し。況んや白髯の盟主實に三日にして到れるをや。然るに何事ぞ俘虜を擧げて全軍を指揮せしむ。其の軍が因循の氣を受けて忽ち漢口を奪還せられ、死守健鬪せるもの金釭革命服の書生のみなりとは想見すべきにあらずや。其軍を借りて戰へる黄君は怯者にあらず、又略を誤れるにあらず。革黨團の先鋒が苦戰に陷るや全軍悉く先を爭ひ江を渡りて逃れたる者、漢陽の敗亦逆睹すべかりしにあらずや。否、其の敗るゝと共に黎が武昌を棄て蔡甸に走るや、直ちに城に入りて驚卒を鎭し、民心を撫し、『北面招討使』を兼ねて『武昌防禦使』たりしもの實に彼老譚其人なりしを見よ。逃亡俘虜の發見引致と共に再び禪讓的舊道德を頑守せる彼の愚や終に及ぶべからず。實に江を挾んで戰へる革命發祥地の一勝一敗は天下人心の向背を決せしむるもの。春秋の筆法を學ばずと雖も、漢口に敗れ漢陽を失へる敗責の第一人者は黎にあらず、黄にあらず、誠に譚人鳳其人なりと云ふべし。

老譚の愚の及ぶべからざる如く、黄君の癡も亦測る能はざるものありき。黄宋相携へて武昌に入るや宋君は直ちに臨時軍政府を組織するの必要を力說したりといふに係らず、黄君は一戰の功を建てゝ後にすべしとて首肯せざりき。彼は革命家其の人が革命を理解せざる古今の通則によりて、革命と戰爭とを混同せること彼の周圍に於ける浪人團と異ならざるものなり。軍政府の組織は已に、且つ常に、革命黨に明文として書かれたるものを有し、只人民の承認の形式を經て發表せば足るものなりき。政府を建てゝ軍民の依る所を示せば黎は其一軍官として革命を奉ずべきこと當然にして、新政府の名に於て革命黨の新精神と決意を以て全省全軍を統治し振起せしむるを得べきにあらずや。譚と等

しき因習的舊道德は黄をして此の見易き道に出でず、却つて反對に黎の一稗將として節刀を授けらるゝの古式を踏み、以て漢陽の戰線に立つの顚倒事を爲さしめたりき。革命黨は其祕密時代に於て黨員自身が都督たり軍師たるべきは確定せられたる規定にして、須らく故蕉君が長沙を奪ふと共に自ら都督となり陳君が己を救ひし騎兵の萬歲聲裡に指揮刀を擧げたる如くなるべし。堂々たる黄興の器を以て一俘虜の下に稗將たる如きは革命の本義に對する無理解者なり。革命が日本的思想の覺醒にして日本留學生が出洋の指導的新知識として中堅たりしことを一考せよ。其等全部の輿望を負ひし彼が自ら起ちて革命的理想の體現者となり、中央臨時軍政府の名に於て黎輩に號令するに何の憚る所ぞ。維新革命の時、大阪滯陣の德川將軍と京都の薩長聯合軍との對峙を危機なりと視て、坂本龍馬が太政大臣に親王を奉じ左右大臣に三條公と慶喜を以てすべしとの意見書を書けることあり。是れ彼が土佐の人にして伏見鳥羽の革命戰爭が明日なりし事を知らざるの故に辯護さるべし。黄は武漢の伏見戰爭が勝てる後に來れるものに非ずや。湖北人より見れば土佐の局外者たるべきも、湖北の都督たらんとするにあらずして全支那の中央政府に首腦たることにあらずや。特に彼に多く大局的見解を與へつゝ來りし宋君が、溯江の船中に於て、城中の會議に於て、祕密時代の革命遂行計畫を現實にすべきを固守力說したるにあらずや。然るを終に斯くの如くなりしこと譚の責と共に彼の革命に對する罪責の許すべからざるを覺えずんばあらず。事後の批評を爲す歷史家が獨り聰明なる如く、不肖は漢陽の敗走の事後に至るまで武昌に於ける宋君の何が故に憂懼し沈思しつゝあるかの所以を發見せざりき。乃公援助參畫の大功ありと誇示する日本人の一人たる不肖は呑氣千萬にも對岸の殷々たる砲聲を悅び、萱野君が浪人團の一隊を率ゐて戰列に加はれることを聞き、恰もガリバルヂーが銃を負ひて佛人の急に赴ける如しなどと恥づべき詩的感懷を恣にしたりき。斯くの如き無責任なる外人が尨大なる亡國を兩肩に負へる責任者の苦心に何程の援助を加へ得べきものぞ。不肖は幽明相通ぜざる今日、卓上に頭を抱いて黄の能く漢口を回復し得たる場合と、永く對峙して戰局の進展なき場合とを考較沈思しつゝありし故友の風格を想起する毎に、古今國士の痛心に涙な

き能はざる者なり。故宋君は自ら知れる如く覇才なりしと雖も其長所は巨眼一閃大局を打算することに在りき。黄君は熱情雅量に優りて而も此の一事を缺如せる者。彼が宋に聽かずして事を誤れること屈指に暇あらず。世人は黄興の漢陽に破れて上海にまで逃れたるを視て支那民族の怯斯くの如しと斷ず。而も彼の敗は常に勇の足らざるに非ずして一に明の暗きに出づ。其の上海に逃れたるに至りては亦實に不明の爲に日本浪人團の樽神輿となりて、歌舞弦琴の巷に擔がれ來りしに過ぎず。宋君は覇者として常に革命の遂行に力を考へたりき。彼は老譚の國粋的系統の上に有する力と、黄君の日本的思想系に有する共れとを以て覇才の發揚に努めたりき。譚の乾坤を一拋するの斗膽に聽かざりしことの屢々なりしは彼の爲めに不肖の惜む所。而も彼に聽かざりし黄君の幾多の失は彼の憤懣を洩らすを聞く毎に、不肖の黄君の爲めに遺憾とせし所なり。譚の人物が或は核下の一敗に自刎せし楚項の運命を逐ふべきや否やは不肖の保せざる所なり。而も黄君は生死假令前後するも趙聲の如く彼に哭せらるべき王器に非ざることは不肖の確信せんと欲する所なり。

冷頭なる宋君と雖も神ならぬ身の固より對岸の黄君が漢陽に破るべしとまでは考量中に加算せざりき。彼は武昌都督府の玻璃窓に震ふ彈丸の夜の抱寢に於て不肖に物語りて曰く。此處に來りしは例の如く黄興が余に聽かざりしが故なり。此處には已に老譚あり、重複して二人の來る要なし。我南京の新軍を率ゐて江南諸省を奪ひ以て天下に制令せんと策す。黄聽かずして此處に余を拉し終に黎の配下に我黨を措くに至る。昨南京代表者の來り迎ふる在り、余下江して彼處に據らんと欲す。黄の成敗に係らず南京を得ば漢口の恢復も亦容易なりと。彼は翌直ちに一書を認めて漢陽の陣に在る黄君に此旨を報じ、不肖亦好便に託して息一歔君の上海に於ける丈夫兒的行動の乃父を辱めざりしことを告げ、且つ江を渡りて相見ゆる能はざる遺憾を叙せり。驟雨大江に暗かりし日、兩軍の砲彈交々落下して擧ぐる水烟の中を漕ぎし彼の一行は辛うじて將に解纜せんとする大利丸の客となれり。而も一たび捉へざりし機會は再び掴む能はず。南京は黄と彼とが武昌に溯らざりし以前の南京に非ざりき。革黨の用ひんとせし新軍は携帶せし彈丸を奪はれて城外に逐はれ、鬪志滿々たる

張勳の城門を閉ぢて堅守せる南京なりき。願くは玆に當時の一實見談を挿ましめよ。實見者は微少なる不肖に過ぎずと雖も、諸公の活眼或は之によりて彼等の革命運動が如何に冒險的犧牲なるかを察し、彼等の意氣精神が實に國運を旋轉して國を興すに足るを解得せらるべきか。

實に行く〳〵聞けるに違はず埠頭に着きて眺めたる南京は全く黄龍旗の領域なりき。見渡す限りの山丘、蜿蜒たる城壁は遺憾なく戰鬪を準備し、城民の老幼を携へ家財を負荷して逃るゝ騷擾は世に比すべきものあらざりき。一行は船室に鳩首して一昨夜より昨夜に亙りて行はれたりといふ革黨嫌疑者大虐殺の結果如何を考へ、城に入りて事を成すの緒の絶えたるに當惑したり。聯絡せる新軍の城外に追はれたるを知りて、派遣されたる南京の代表者倪鐵僧君は已に機會の去れるに落膽したり。宋君亦固より策の立つべきなく、不肖は只一行の面色を注視したりき。武昌に於て然りし如く革命は只不可能の暗中に飛躍する冒險のみ。倪君は曰く生殘りたる者のあらば事を擧ぐるに足ると。微笑を含みつゝ不肖の手を握りて、いざ共に入らん、城に入りて見ば亦何等かの途を見出すべしと云へる故宋の斷乎たる一語は、史家之を後世に叙するに當りて千萬人と雖も我行かんの慨を以てせし維新革命黨諸氏の意氣に劣れりと見ざるべし。一行は遙かに騷亂の群衆を分けて我船に馳け來れる二臺の馬車を發見したり。宋君等二三氏及び一名の從卒を城外の日本旅館に陰くして、便乘を得たる倪君と不肖とは城門に向へり。日清戰爭の繪草紙に見し怪異なる山東兵は、前に避難の爲に去れる美人等に代はつて今城門を入らんとする車上の有髯子を怪しみ、青龍刀を鼻頭に擬して誰何しつゝ而も南京勃發の點火を見出さんとする驚くべき潛入者を捉へざりき。事の巧みに運ばるゝに得意なりし一實見者は軍中より出でて追ひ來れる一兵の車臺に昇れる靴音に驚悸したり。彼は一行の保護者たる責任感より生ずる恐怖に加へて更に船室に於て宋君が吾今日生死を計らず外人の君に安全を託すといへる各省同志の居所名簿及び暗號電報等を胴卷に潛めたる恐怖を持てり。而して漸く心臟の鼓動の鎭まると共に仰ぎ見るを得し怯懦なる彼は、車臺に立てる兵が黄旗を揭げ大虐殺後の街道を保護して日本領事館に送るものなるを知り再び微笑揚々たる前きの實見

者に豹變したり。而も失へる機會は終に握るべからず。南京同志の機關部は覆され散髪せる青年は只辮子を垂れざることによりて殺され、一千の學生を虐殺したる後の都城は外人と雖も暮夜一歩外出する能はざる腥風滿目の戒嚴なりき。領事館の樓上樓下は婦女老幼を上海に避難せしめて引上げたる强壯居留民を以て充滿し、殆ど義勇軍の軍營に等しかりき。領事館の一室は固より陰謀の巣窟として借さるべきに非ず。倪君は殆ど手の着くべき一端緒だに見出さずして已に得べかりし南京城の空しく敵手に委せらるゝに切齒したり。不肖は某大佐等に就きて我軍が已に此處を遠からざる地點に進擊し來れるを知り、翌直に城を出でて下江せんことを勸めたり。何たる悲壯なる眺めなりしぞ。樓上より見渡せる歴史多き金峻の山河は雨に烟ぶりて清朝三百年の亡び行くを咽ぶ者の如く、古今の興亡一夢の如しといへる古人の涙は今一實見者の双頰に滂沱として流れたり。昔者羅馬の將軍シピオ、カルセージ城に擧がる火を眺めて、誰か百年の後我羅馬の亦斯の如くならざるを知らんやと言へり。興の道を踏んで興あり亡の跡を追ひて亡あり。日本亦焉んぞカルセージの火に泣き金峻の雨に咽ばしむる日の來るなきを保するものぞ。不肖は此飛雨蕭々たる靜朝の感慨を認めて、諸友中最も熾烈なる大羅馬主義者内田君に送り以て憂國の情を訴へざるを得ざりしなり。あゝ諸公。日本何ぞ獨り史上永遠の覇ならむ。國運の盛なるに驕りて隣邦の存亡亦實に爾が五十年前の危機なりし事を忘却して、慢態驕姿戒むる所を知らず、殆ど亡清の跡を追ふが如くなるは何ぞや。彼等が外國の國旗に身を潜めたるが故に屠られざりしことは事實なり。而も南京には外國租界地なきが爲めに、不肖等が宋君等に會して旅館を去れる後より拔劍銃鎗の蠻兵が躍り込みしといふことも亦事實なり。領事館の馬車を再びして正門を開かしむる能はず、兢々たる不肖に伴はれて鐵道門の番卒に圍繞されたる時倪君の面色土の如くなりしことは、同行の一日本人と共に卑怯なりとすべし。而も二日に亙りて同志虐殺のありし其の翌日生殘者を尋ねて事を擧ぐべしとせる彼に興國の兆を見る能はずといふか。實に一日本語を知らざる日本官吏となり濟ませる倪君の風姿が注意されざりしよりも。不肖が宋の從卒の兵服に替へんが爲めに一居留民氏より惠まれたる古洋服の重ね衣した

る異裝が怪訝されざりしよりも。番卒等が不肖の分與せる仁丹に集りて面色を窺はざる滑稽なる幸運に失笑せしよりも。篠つく雨に變じたる中を走りて、生死を憂ひ合ひし故友を見るや同時に生きて居たかと相抱きし時の懽喜の忘るべからざるものよりも。漸く安全なる外國船の甲板に上りて一聲の汽笛と共に萬軍の都城を飜弄せしかの如き微笑の湧起を味ひしよりも。遠ざかり行く城樓を望みて遺憾多き面貌を河風に吹せつゝある一行の胸中に同情せしよりも。靜江の騎兵に警蹕せられて柏文蔚君の軍營に一泊せし安堵の思よりも。

――不肖は世に不可能事の存するを知らざるかの如き彼等革命的青年の猪勇を親しく實見して、一縷興國の希望を此の氣魄に繫ぎ得べき滿足を禁ぜざりしなり。これ土下座的土百姓と奴隷武士の幕末より大日本帝國を誕生せしめたる維新革命黨の共れと全く同一なる興國的氣魄に非ざるなきか。一米國的夢想家の外援政策より招ける輕侮は自立獨行せんとする革命支那の負ふべき責任に非ず。將た又肅親王の日本併合の招致は亡國階級の常套語にして佛蘭西の亡命貴族は已に之を實にしたり。革命後の明治日本を亡國的封建時代を以て解すべしとする外國人あらば笑ふべきにあらずや。一九一一年以後の支那は此の興國魂の或は顯現し或は潛伏する過渡期として察すべし。斷じて亡國的清期時代の先入見に基きて演繹すべきものにあらざるなり。日本と同じき種族が日本と同じき思想に覺醒せられたるならば後年の事亦日本と同じかるべきこと何の疑を容るべけんや。不肖は敢て此の南京に於ける一實見を提げて支那悲觀論者の面前に立たんと欲す。

448051

七　南京政府設立の眞相

封建的奴隷心を脱せざる現代日本人――支那浪人の神興となれる黄興の禍因――最後の南京占領も亦日本人に一の負ふ所なし――故宋の大局的眼光と一貫の行動――中央政府設立に於ける彼の苦心――章大炎の黄興否認の宣言――大元帥の暗示より生ぜる形勢の逆轉――孫の歸來と浪人團の擁立――張繼の孫宋調和――寸功なくて大總統を辭せざりし孫の心理は如何――孫の歴史的勳功は建國の際に於て共和政を宣布せる一事に在り――革命期に於いて一般國民が新政體を理解せざる日本佛蘭西の前例――ルソーの無理解――『中華民國臨時政府組織大綱』は全然歐米の飜譯より獨立したる東洋的共和政なり――孫と握手せる宋が憲法にがてまで讓歩せる大失策――中央政府設立者は其の設立と同時に排陷せらる。

劣弱者を侮蔑するの心は則ち優強者に拜跪する奴隷の心なり。米人に凌辱されて一拳を加へざる卑屈は支那の覺醒を侮慢し成敗によりて國士を笑罵する尊大なり。倫敦外務省のエゼントとなり東洋の印度巡査を拜命する盲從は一個獨立國の威信を無視して最後通牒に指導權の要請を加へんとしたる倨傲なり。日本の朝野が未だ此の封建奴隷心を脱却せざる今日、不肖は敢て獨り浪人團の言動を責むる者に非ず。彼等が北支那に於て、亡國階級との交渉に於て、賤民の驅使に於て、恣にし來れる尊大倨傲が、漢陽の敗將たる一黄興の前に卑屈盲從を極めたる臣事的拜跪に一變したるは奴隷心の表が裏を示したる尋常事なり。而も不肖の如き新日本の空氣に育成せられたる純正的日本人としては面を蔽ひて視るに忍びざる所のものなりき。臣從は佞偷を要し讒言を要し排陷を要す。不肖ならずと雖も多少の俠骨を有するもの、假令久濶を叙するの禮を缺くも此等の間を通過して敗將の兵を談ずるを聞くに堪へんや。彼が漢陽を失ひしは兵家の常たる勝敗にして假令局面を重大に逆轉せしめしにせよ、此故を以て彼を評價せんとする者に非ず。而しながら其敗報と共に上海に於け

る首腦等の連名を以て彼に武昌に止まるべきを電告したるに係らず、已に陳あり宋ありて敢て彼を要せざりし此地に來れるは何ぞ。誹る者は其怯を云ふ。斷じて然らず。辯ずる者は武昌の兵、城に入るを拒みしといふ。否。黄君の對岸に破るゝを見ると共に黎は已に蔡甸に走り城中只混亂を極めたる者。拒むべき命令者なかりしは固より、一將の入りて中心たるを待望したるべき筈。事實亦嚴に立證して、當時漢口の租界に在りし老譚は直に江を渡りて入城し、黎無き後の軍民に制令して『武昌防禦使』たりしに非ずや。只臣從的浪人團の神輿となれるが爲に玆に至れる彼の不明は重大なる敗軍の汚名と共に一敗千里を走る怯者の寃を天下に流布し、後の中央政府設立に於ける根本的禍因たりしとは何たる遺憾ぞや。漢陽の敗は黄に責なく上海の來走は多く日人に罪あり。斷じて怯者に非ざる彼は一敗挫折したるに非ず。軍資軍器公の欲するまゝなりといふ支那浪人等の甘語を聞き、其れなきが故に黎の軍を恃り黎の軍に誤られたる彼は、自らの渴望に欺かれて遠く求むる所ありて來りしに過ぎず。何ぞ千里を走る黄興の爲人ならんや。不肖は當時實に斯る甘言佞辭を一時に糊塗する援助者なるものに禍さるゝ黄君の不明に對して罵倒を傳語せざゝを得ざりき。あゝ政府は傲然として指導を强要し浪人なるものは懼然として臣從に甘んじ、而して朝野交々對支政策の可否に鬩ぐ。隣國の猜疑と侮蔑と奴隷心の自ら招く所ならざらんや。

軍事的素養も興味も有せざる不肖は南京が隣省聯合軍の如何なる戰略戰況の下に陷落したるかは當時より知らず又知るの價値なきことなり。只一事の記憶せることとあり。陷落後上海都督府の軍機科長として後方勤務の重大任務に當りし張群君が城門を破壞したる攻城砲につきて物語りて曰く。機器局に驚くべき古物ありき。左右に廻轉せず上下に動くのみの大砲とは貴國に學びし時嘗て見ざりしものなり。而も軍器なきが故に輸送せしに幸ひにも有效なりき。此古物の如きは革命の紀念として保存さるべきなりと。不肖は誠實大膽なる彼の將來に囑望せしが故に殊更に答へて曰く。是れ革命の紀念に非ずして亡國の殘片なり。攻守共に斯る武器を有する程に國綱腐朽したるが故に革命書生の一擊に亡國せるに非ずや。若し攻むる者の國外よりせば如何する

と、更に他の記憶せる一事あり。不肖の紹介によりて聯合軍の隊中に加はりし二三俠骨君は陷落の進捗せざるに焦慮して上海に來りて曰く。彼輩に放任して南京を拔き得べきに非ず、願くば爆彈を與へよ決死の一隊必ず城門を破るべしと。輕侮的援助者が斯の如く乃公在らずんば勝敗決せずとなして燕飲流連せし間に陷落の報告は來れり。不肖の一喝を喫して醉眼呆開せし滑稽は支那革命に赴ける日本浪人の價値を類推すべきものに非ずや。而して渡來囂々たりし日本人が殆ど全部斯る酒間の聲援者なりしといふ事實と、斯る古物により て城門の破壞されたりといふ事實とは――日本商館の暴利を貪りたる廢銃廢砲が未だ横濱の稅關をも通過せざりし頃なるが故に――實に武漢の起義に於て上海の關門に於て他の各省の凡てに於て然りし如く、最後の南京に於ても日本及日本人は革命に對して何等感謝さるべき恩を佔らざる立證たるものに非ずや。之を要するに戰爭としては斯る古物の砲擊によつて陷落せしほどに一顧の値なきものなり。而も革命と戰爭と判別して考ふる者に取りては、南京の占領は漢陽の敗によりて將に逆轉せんとせし天下の大勢を盛り返へし、以て革命黨の威信を繫ぎたる點に於て大局的意義を認むべし。前に黃君の漢陽に敗れ更に電告に從はずして下江するを聞くや、窓を隔てたる隣室に於て終夜默考椅坐せし宋君は一睡して欠伸しつゝ入れる不肖に向ひて曰く。足下碁を圍まず。一石の投下を誤れば全局面の勝敗地を替ふる者は其れなり。黃の敗走は誠に我黨を死地に陷れたる者。余萬考曉に至るも此局面を恢復するの途は只速に南京を得ることのみ。武昌の杞憂を終に玆に視ると。斯くの如く彼は漢陽の敗後天下の革黨に對する向背一に繫りて南京の成敗に在るを洞察せる者則ち徐固鄉朱瑞及び故林述慶君等聯軍諸將の交々都督を爭ふを調停して老廢程德全を推し、身親ら民政長の名を以て全權委任を執り、以て革黨の力を堅確に明の古都に樹立したり。不肖は死者を萬能神視する東洋的慣習を醜くしとするものなりと雖も、彼が武昌都督府を出でし決意と、南京を出入せし冒險と、都督の實權を把握せる民政長官との間に不惑不屈の方針を視其の堂々たる大局的眼光に兄事したる者なり。

實に彼は黃君と共に江を溯りつゝ謀り、獨り江を下りて企てたる中央臨時政

府設立の地を占領せられたる南京に得たり。彼は十數日前將に其首を城門に梟さるべかりし都城に今實權都督として聯合各軍の勢力を負ひて臨めり。而して彼は各省の日本的思想系の全部に普く認識さるゝ黃興を以て中央政府の首腦となさんとしたり。武漢の擧義と共に月餘ならずして各省競ひて呼應したる所以は各省の彼等に同樣なる國家的意識民族的情操の覺醒せられて存するが故なりとは前說の如し。從て其の共通的心意を組織し統一する意識中樞としての中央政府に首腦たる者は、同一なる意識情操に共鳴し共通的心意に普く認識されたる人物ならざるべからず。實に有形的組織立法的統一は此の心的共通の上に築かるべきもの。舊組織舊統一の除かれたる後を享けて新らしき中央政府を組織して各省を新らしく統一せんとするに當り、已に心的中心たる黃興を推さんと決意せるは亦正當なる計畫なりと言はざるべからず。彼は黃君が敗軍の逃將なることに苦心したり。而して急遽大總統の名を用ゆることの共和政の本義に於て各省の感想如何を考慮したり。不省は日本人の頭腦を以て革命戰爭中兵馬の大權を總攬せば可なるかの如く考へ『大元帥』の文字を勸め彼は交遊の好意に誤られて後の災禍を熟圖せざりしとは何事ぞ。敗將を大元帥となすの不合理は宋君の知らざりしに非ず。一に各省の統一の爲めに心的中心を要したると、黃君をして今一度び兵馬の功を立てゝ敗辱をすゝがしめ己れ自ら總理として經世的確信を亂麻の間に施さんとしたるに在りしが如し。彼は顯然たる此の不合理を遂行するに渾身の猪勇を揮ひたり。彼は戰勝の誇を負ひて御すべからざる聯軍諸將を說伏して敗將の推戴を承認せしめたり。諸將は不滿ながら歡迎の準備を整へて新頭領の入城を待てり。然るに又何事ぞ、迎へらるべき黃君は來らずして逡巡し始めたりとは。支那のルソー章大炎は東京より歸り來りて先づ反對の聲を擧げたり。動亂の群衆は此の愚なるが如き大賢を渴仰して一宣言の出づる毎に其の金玉の文章を拜跪したり。彼は先づ宋君の總理たるべきを天下に推薦したり。而して大總統は必ず黎元洪たるべく、黃輩の如きは一逃將須らく一戰の功を建てゝ罪を償ふべしと宣言したり。彼の文字は今日袁世凱が登極の上諭を求めて得ざるが爲に毒殺せしと傳へられし程に支那に有力なる者にして、何事も理解せざる群衆は此の堂々

たる宣言に隨喜したり。革命の淘濤に渦き流るゝ不可解不可測なる群衆心理は逡巡せる黄君を視るに却て功なくしく榮を窃む者となし、波動の及ぶ所總理たるべしと推宣せられたる宋君を以て專制を企て野望を抱く者なるかの猜疑に雷同したり。而も確信と猪勇に滿てる彼は逡巡せる黄君と大炎の宣言と南京諸將軍との間に立ちて天稟の組織的手腕を揮ひつゝ、大元帥黎元洪副元帥黄興の決定を斷行し、副を以て正の實權を行使せしめんとしたり。彼は此の正副元帥の決定を以て正副大總統の別名となし、當時の天下亦之を以て中央政府設立の根柱を樹てたる者と信じたるは論なし。而も神ならぬ身の俘虜と敗將を擧げて天下の耳目を欺くの終に破綻すべき彌縫なることに氣附かざりき。年少三十歳に過ぎざりし彼は頭首を堵して得たる南京を以て天命革黨に降るの確信に赤熱し、己れ大權を總攬せば手に唾して滿清を蹴倒すべしの血氣に逸りたり。是れ脚下の陷井を知らずして七卿の都落ちを演じたる桂小五郎の若さにも比すべし。革命の淘濤は渦き流れ、群衆心理は猫眼の如く變じて朝に夕を知らず。彌縫は忽ち破綻したり。破綻の口を外人の要らざる差出口に求めて群衆は已に大元帥のあらば其上に何人を奉ずべきかの問題を提起したり。——是れ等しく日本人が援助なきのみならず革命に禍せる例證ならずや。日本に於て大元帥の音響が絶對至上權の感想を暗示するとは反對に、支那に於ては此の同一文字が古來元帥在於域外不奉天子之命の如く其上に何等か或者の存在を暗示す。而して俘虜と敗將に不滿なる群衆心理は此の暗示と歐洲より歸來しつゝある孫逸仙とを結合せしめて考へたり。沸々洶々として渦きつゝありし大勢は茲に斷崖を見出して奔瀑の如く急轉直下したり。

數十日前楊子江の水軍が未だ黄龍旗を翻へせる頃なりき。不肖は武昌に溯らんとして萬里の平野と大江の上に照る滿月に會したり。靜寂其者の響なるかの如きスクールの音を聽き深更の甲板に落つる我影を踏みつゝ俯仰古今の感に堪へず、終に船窓一書を認て在京の一友に送れり。書に曰く。昔者革命兒奈翁巴里の危急を聞き其軍を埃及の沙漠に棄てゝ單身歸京したり。孫公今にして尚歸へらざるは何の愚ぞと。然しながら武漢の勃發と共に米國に在りし孫逸仙の體軀は五彩の光輝を放ちたり。全世界は全く祕密の鐵函に封ぜられ

たる革命黨の爆發を見て固より解すべき道理もなく、一に彼と共れとを同視したり。奈翁が敵艦の封鎖を破りて直行せし如くに、奈翁よりも多く偉大ならざる彼は直路故國に到るの斷を缺けり。然しながら光の尾を引きて歐洲の天に懸りし彼は兎に角英雄の如く上海の埠頭に立てり。彼の刎頸の友池亨吉君が語る如く廣東の同志等が彼の行を憂へて長江に入らば舊同志に殺さるべしと諫止したるや否やは保せず。又池君滔天君等が各々其の團集を代表して彼を香港に迎へたるを見て、ワシントンよりも更に善良なる彼は日本人によりて保護さるべしとの他力本願的米國宗に安堵したるや否やは亦詮議するの要なし。英雄は眼前に立てり。俘虜と敗將に不滿なる群衆心理は大元帥の上に立つべき或者の實に此の英雄なることを視たり。世界の誤認によりて後光を負へる彼は本國同志の決意より以前に、先づ日本浪人團數十百名の脚下に禮拜合掌する者を得たり。池君は太田海軍大佐中村法學博士等數十名の所謂振中義會を宰して彼の傍に侍從長の如く立てり。宮崎君は遊俠子數十百人の頭領として彼と黄興との間に昔年の聯合策を計り已に逡巡せる黄君をして愈々彌縫家の面目を發揮せしめたり。渡來せる浪人團と投機的商賈の狂熱的聲援に感激を極めたる革黨諸氏は日本の後援已に孫君に存すとせば益々此の英雄を擁立せざるべからずと速斷したり。革命の渦中は一切の事理性の判斷を許さず。革命の群衆心理は日比谷原頭に見る以上のものにして、經世家も學者も解し得べきものに非ず只精神病醫のみ其の心理狀態を診斷し得べし。革命の心理は佛蘭西に於て支那に於て婦人が街頭に革命を叫ぶ如く、全然ヒステリツクにして馬を鹿と信じ鹿ならずと言はゞ殺さる。群衆は俘虜と敗將を拜することを拒めり。彼等は然しながら偶像を要す。佛蘭西革命に於て僧侶を廢し寺院を毀ちたる後に禮拜すべき何等の偶像なきに至るや、女優を擔ぎ出し『正義の神』なりとして巴里の市中を騷ぎ廻はりき。同一なる群衆心理は倖ひにも嘗て己等の指導者たり黨首たりしものを擔荷すべき偶像として得たり。斯くの如くにして孫君は大勢の濤に乘じ以て大丈夫一世の榮位に立たんとす。

不肖は交友の情として此の潮流の旋廻せる勢を眺めて宋君の爲に憂へざるを得ざりき。彼の擁立によりて輿論の亂矢を蒙れる黄君は滔天の勸說により

し活路を發見したり。彼は直に偶像の勢力に吸込まれ其壇下に立てる一使徒となれり。憐むべし偉大なる故友は其擁立せんとするものゝ變心によりて一切の計畫を破壞せられ獨り南京諸將軍の手に殘されたりき。時に巴里に在りし張繼君は四年振りを以て舊友の間に歸來せり。彼は其の脫線せる無政府主義を益々熾烈ならしめしことは遺憾なりしと共に、其の私心なき超越的性格は斯る間に於ける調和者として恰當のものなりき。不肖は舊友懽會の情を淺酌に酌みつゝ排孫の第一先聲を擧げし彼自身の口より大總統の必ず孫逸仙ならざるべからざるを主張するを聞き、嘗つて革黨分裂の責任者の如く視られし不肖自身の反省を要すと考へたり。而して各省の心的中心を要むるの根本點に於て敗將を頑守するよりも未だ何等の傷損なき往年の黨首を以てするは正道なるべく、滔天の取る所は誠に大局を收拾する所以ならずやと省慮せざるを得ざりき。不肖は卽夜直に南京に向ひ宋君に說くに此事を以てしたり。何たる無情なる忠告なりしぞ。尊王革命の本體たる皇室との聯絡を絕たれ幕軍の討伐を蒙り聯合艦隊の砲擊を受けつゝ漸く伏見の一戰に勝てるばかりなる長州の革命黨等に向ひて、茫然として勤王の大義を唱へたる者は大日本史なるが故に天下を水戸藩に讓るべしと勸說する者のあらば如何。彼は滿面朱を注ぎて曰く。足下にして尙紛々たる日本浪人の云爲に學ぶか。已に足下の大元帥說に誤られ、黃の優柔不斷に誤られ、更に孫の空夢に誤らしめて此革命を如何する。黃言を食みて來らざるも亦可、余は兵力を有す。孫輩の足一歩此城門を入るを許さずと。斯くの如き彼を後を追ひて來れる張君が如何にして緩和せしやは固より察すべく、刎頸の舊友は一切を凡て友情によりて解決せしめ、相携へつゝ彼を上海に引出せし事情は不肖の親しく實見せる所なりとす。實に張繼は無政府主義の名が世俗に與ふる如き破壞黨に非ずして斯る危機に於ける天來の調停者なりき。不肖は此の危機を回想する氣に彼が天より降下せる如く此の一髮の際に來らずんば孫君と故宋との運命は共に豫見し得べからざりしを覺えずんばあらず。(而して只其調和性たるや時に人間の頭上を超越するが故に、後宋君等が武昌起義の眞個元勳張振武氏の銃殺事件を提げて趙內閣を彈劾し延ひて以て袁大總統の脚下に及ばんとするや、單身袁を訪ひて今の時公辭職せ

ば天下再び亂れんとて留任を力說せる如き脫線を憾むのみ。而して翌年宋君亦同じく趙秉筠を共犯としたる暗殺に仆れて張振武の跡を追ふ。繼君以て如何となす。

論ずる迄もなく、武漢の革命と沒交涉なりし孫逸仙君は米國の新聞紙を翻へして只驚愕したるに過ぎざりしなるべし。彼が米國より又其通過しつゝある歐洲の先きぐより打電して、大總統は黎元洪其他起義の元勳たるべしとの意志を表示したる再三なりしに見よ。彼が上海に來らざりし以前、少くも香港に於て日人諸君に迎へられざりし以前までは此の最高の榮位が己を待設けつゝあるが如き甘夢は午睡にも見ざりしなるべし。黎が張振武君等に擁立せられて諮議局に運ばるゝまで己の生死を知らざりし如く、彼は俘虜と敗將との故に空しくなれる椅子を見るまで身の安全を日本人の俠義と黃君の友情に託するを得んといふ程の希望より持たざりしなるべし。則ち彼は奈翁の如く巴里に歸らざりしなり。彼が大總統の黎元洪たるべきを電告せるは、同一なる宣言をなせる大炎と同じく二者共に言論の雄にして革命の運動より度外視せられ從て武昌蜂起の內情に盲目なりし明證にあらずや。然しながら彼は支那の文字を誤記する代はりに英語の練達せる如く、思想に於て支那人と云はんよりも英米人なり。英米人の如き權利思想を有する彼は『正義の女優』を渴望しつゝある群衆の前には中國同盟會總理たる權利によりて立てり。彼は陳腐なる禪讓的形式を蔑視して言下に大總統の推戴を受理せり。是れ中部同盟會の盟主たる譚人鳳が武昌城中に於て禪讓的舊道德を黑守せる純支那人なると兩極の反對なり。彼は譚人鳳の頑固なる團匪的愛國黨にして至純なる犧牲心の魂なるとは正反對に、國家觀念に於て許すべからざる缺陷あり決死的犧牲心の驚くべき程乏しき人物なり。而も彼の顯著なる長所は自由民權の宗教的信者なることゝ、己を信ずるの篤くして動かざる一事に在り。當時革黨有力者は斯る局外者の大總統たるを見て武昌に於ける黎元洪の擁立と大差なき木偶として擊蹙せるは論なし。而も彼の自信力と權利思想と當時の群衆心理とを考ふれば敢て必ずしも然らざるべきなり。特に彼の中華民國史に於ける百代不磨の功績として看過すべからざる事は、彼が此の新建國の始めに於て支那の將來は必ず

共和政ならざるべからずといふ大憲章の精神を宣布したることとなりとす。嚴格に言へば彼の來らざる以前十一月末武昌の十一省代表者會議に於て宋君の草案せる『中華民國臨時政府組織大綱』が決議せられ、戰時中明確に支那の共和政なるべきを宣布したることは事實なり。――後の史家は共和政の宣布者が何人なるかを嚴査すべし。固より孫君の共れは全く錯誤せる米國的思想の祖述に過ぎずして甚だ皮相淺薄なるは固よりなり。而もこれ維新革命に於て然り、佛蘭西革命に於て然りし如く、又宋君の國家主義の然らざるを得ざりし如し。是れ革命さるべき程に頽廢せる國民に深遠なる思想の生るべからざる古今の通則のみ。而し乍ら共和政は支那の國粹的革命黨に萠芽せず又日本の國家民族主義にも片影だに見られざる者なり。然らば彼が如き自由民權の宗教的信者が已に祕密結社時代に於て各省の先覺者に影響せる所を、更に大總統として此の建國の際に宣布したる支那將來の幸福や測るべからざる者あるべし。輕薄なる輕侮論者は英公使の輿夫が共和政とは大清皇帝に代はりて袁陛下を見ることなりと云ひしとかを盾として南京臨時政府の精神を輕視す。而も是れ一國の過渡期に於て賤民階級が常に新理想と沒交渉なる歴史的原則を忘却せる者なり。佛蘭西革命に於て自由とは神を拜せず淫蕩を恣にすること、平等とは富家を掠奪して財を等分する事なりと解して彼の戰慄すべき暴民の信條が作られたりといふに非ずや。是れ袁を皇帝と同視する輿夫を待たず、已に南京政府設立の祝電に孫逸仙陛下と稱せし外電の二三ありし彼等よりも罪惡多き誤解なり。日本の維新革命に於て革命の理想たる武力の階級的專有を打破する血稅の文字が却て子弟の血を絞りて電柱に塗布するものなりと直譯せられて幾多の暴動を起したりといふに非ずや。是れ南孫北袁戈を收めて共に和する之れを共和政といふと解せし彼等よりも本義に反せる同音同字の取扱なり。由來無文字階級は過去を語る者にして新理想を問ふ所に非ず。一國家一民族の思想的交替期を考察するには須らく學究的愼重と國士的同情とを以てすべし。賤民の一言に基きて侮蔑的感情を洩らさんとする如きは士君子の齒せざる所なり。英人輩の如きは常に人種的倨傲に陷り敢て今日支那の共和政を冷笑するを待たずとも已に嘗て日本の立憲政を指笑して沐猴の冠するとせる者。

斯る顰に倣ひて侮蔑を加ふるの憍慢は則ち歐人の言々を拜脆する卑屈にして、寧ろ其の奴隷心の暴露を恥づべしとせずや。歐人の誇とし近代政治の源泉とする佛蘭西革命に於てすら共和政の明確なる理想は何人も有せざりし所。彼のルソー其人すら明言して、共和政は瑞西亞米利加の如き小國(米國は當時新開の小國なりき)には行はるべきも佛蘭西の如き廣大なる王國には不可行なりと書き殘せるを見よ。聞く日本帝國憲法の精神たる五ケ條の誓文は由利公正が横井小楠より歐米政治の一端を聞知して起草せしものなりと。歐洲覺醒史の始を爲せる佛蘭西と、東洋覺醒史の始を爲しつゝある日本と、其覺醒の始めに於て共に其の新理想の混沌たること斯くの如しとせば、豈獨り支那に向つてのみ完きを求むべけんや。特に況んや其の共和政たる、革命黨の未覺醒時代に於ては孫君の其れを盲守したりしとは云へ、中華民國憲法に現はれたる理想は全然彼の米國的迷想を拂拭し除却して一個嚴然たる東洋的共和政體を樹立したる者なり。則ち大總統は米國の責任制と反し自ら政治を爲さず內閣をして責を負はしめ單に榮譽の國柱として立つ事と、米國的聯邦に非ずして統一的中央集權制なるべしと云ふ二大原則の下に編纂されたる寧ろ佛國の其れに近き支那自らの共和政體なり。則ち嚴密の意味に於て孫君は單に支那共和政に暗示を與へたる者。其の具體的理想の實現者は武漢起義の原動力たりし一團の人々なるは明なりとす。佛蘭西が幾多の變亂を經しにせよ、日本が萬機公論に決すべきを二十三年間口約に止めたりしにせよ、支那の將來を觀ずる者は假令時に反動の波浪に洗はるゝ事のありとも日本に東洋的立憲政ある如く支那に東洋的共和政の動かすべからざることを思念せざるべからず。孫君の洋學者としての米國的思想の飜譯は横井小楠の洋學が日本憲法に於ける功績と多くの差等なかるべし。而しながら他の國粹的復古主義者も日本的國家民族主義者も、異人種の統治を排除したる後にルキ十六世に代ふべきオルレアン公を有せず、德川に代ふべき天皇を持たず、爲めに玆に歐米の一政治的形式を取り入れて東洋的消化を經たる共和政體を樹立したる者。一孫の影響又は歐米の模倣と云はんよりも、實に漢民族の政治能力がラテン、チユートン等の其れに劣らざる有力明白なる實證として寧ろ吾人の光榮に非ずや。

兎に角孫逸仙君は共和政の犯すべからざる首唱者にして同時に權化なりき。張繼君の居中調停によりて彼と宋君との握手は上海に歸りし其の夜の談笑に成立したり。彼は不肖の眠りを覺ましベッドに腰かけつゝ釋然として曰く。今朝南京に於ける暴言は之を陳謝す。孫君は實に好人物にして東京に於て見たる如き不遜無禮を悔悛せり。反對多き黄君よりも輿望ある彼を立つることは人心の緝攬に於て如何ばかり革命を利すべきぞ。彼は大總統として革命の中心に立つべし、黎と黄とは武昌と南京とより各々軍旅に從ふべし、余は內務總長卽ち國務卿として實權を把握して全力を統一に注がば各々適處に其の適する所を用ふる者ならずや。今夜孫君と約せし所斯の如し。米佛の政體的形式は今日論ずるの時機に非ず、請ふ安んぜよと。不肖は晝車中の懽語に於て國家至上主義者と無政府主義者の溫情を視、夜又米國的夢想家と佛國的實際家の握手を聞き、實に舊友懽會の涙が一切を溶解する一に玆に至るに感じ戲れに揶揄して曰く。貴國古語あり吳越同舟これなりと。彼は色を正して討滿の大目的を說き勳功の有無に係はるべきに非ざるを辯じたり。不幸なる運命の兒よ。

彼は其手孫君と握れる間に於て其足が孫の輩下馬君武氏に攫はれつゝありし事を知らざりき。神も恐くは知らざりしなるべし。何となれば孫君の人格に於て最も稱す可き點は其の歐米化せるだけに支那獨特の陰謀の如きは聊も無かるべき一事にして、凡ての言動の公明正大なることは不肖保證せんと欲する所なればなり。而しながら大勢なり。大勢と名くる群衆心理は彼が敗將を擁立せんとしたる不合理の爲に已に彼の不利に渦けり。而して彼が孫君と握手せることは此の渦流の堰を徹するものにして彼自ら奔瀑に卷き込まれざるを得ず。孫君は誠實に其手を差し延べ彼は懽喜して其れを握れり。此の間に何の陰謀權略の存すべきなし。彼等の握れる手と手は舊友の溫き血と亡命せる頃の涙と、同天の大業に相携へんとする鼓動の通ぜるのみ。孫君の公明なる心胸には彼が聯軍總司令部轉交を以て彼に宛てたる電報の如く『文祖國を離るゝ十餘年、今日[illegible]を踐むを得たり、樂何ぞ言ふべけんや、此皆公等の賜なり』とする至純なる　に滿てり。宋君に於て『文の遲々として歸國せる所以は外交問題の解決を待てるを以てなり』といふ辯を悅びて、其の外交問題なるものゝ如何

に笑ふべき　なるかを問はず直路歸國せざりしを重大なる意義の如く諒承したり。斯の如く一が大總統として天下に臨み一が國務卿の實權を以て革軍諸省の中央政府を組織すべき約諾は誠心誠意兩者の間に成立したりしなり。而しながら宋君は自己の佛國的共和政を彼に承認せしめて彼を榮譽の中心たる意味に於ける大總統たらしめず。却て孫君の米國的理想にまで讓歩し總理を置きて責任を負はしめず大總統自ら權を握り責に當る所の者を許容したり。彼は此の讓歩を不肖に辯ずるに今の臨時政府は北伐を終るまでのものなりとして曰く。今日の時は只討滿と共和の大同團結のみ。米制佛制の可否は天下統一の後決すべき問題なりと。これ彼が蹉跌の原因なりしのみならず國家新建の際に於て建國の大典共者をも一夕の讓歩に抱括したることは彼の重大なる不注意なりと言はざるべからず。彼は革命前より居常自ら草せる寧ろ佛國制に近き支那自身の憲法草案を懷にせしに非ずや。而して又當時の實力に於て孫君は事實上單なる榮譽の中心に過ぎずして自ら權力を握り責任に當らんとする野望なかりし筈に非ずや。倥偬の際として彼は懷の草案を出して孫君に承諾せしめ、孫君を名實共に無責任なる大總統たらしむべき正直にして最善なる政略を忘却したりしなるべし。彼が世評と反對に單に頑固なる愛國者にして無策の士なりしは不肖の屢々實見せる所なり。實に彼の無策概ね斯くの如し

孫君の系統の執筆せる憲法に各總長は大總統の任命により參議院の承認を經べしといふ一項ありて衆議院を通過したり。孫君は提契の約諾に基きて宋君を內務總長として提出したり。或者は南京參議院を評して彼は參議院に非ずして顚狂院なり議論せずして騷擾し討究せずして怒罵し卓上に躍り上りて號叫すと云へり。革命中の議會は今の秩序和平なる各國に視るべからざる者にして佛蘭西革命中の其れを回顧して想像すべし。當時の參議院は道理を容さずして感情が凡てを支配したり。雄辯が議案を動かさずして大音響が裁決したり。卓上に拳銃を置ける議席すらありき。彼等は他の凡ての總長を承認して獨り宋內務に於てのみ飄風の如く擾亂したり。卓上の號叫と、議席の拳銃と、遺憾なく、革命議會のヒステリツク昂奮を爆發せしめたり。怒罵は曰く、宋の

家に鄭州王たりし陳猶龍の居たるを見たり、彼は專制家なりと。是革命黨の二大目的の一たる共和の反逆者にして、佛蘭西に於て人民の敵と誣ひらるゝか如し。大音聲は曰く宋の居は滿人の家なり彼は必ず漢奸なりと。これ亦其一たる倒滿の裏切を意味して、佛蘭西に於て貴族黨なりと疑はるゝが如し。此群衆心理の音頭を取りし馬君は勿論不正なる人物にあらず、只小器の熱血男子なるが爲に討究も調査も許さゞる革命議會には適役たりしのみ。斯くして佛蘭西の參議院が自由の名に於て自由の元勳等を斷頭臺に送りし如く、支那の革命議會は此の國家主義の代表者民族運動の指導者を漢奸の寃に於て否決したり。後、老癈程保德全を內務たらしめしは亦彼の實權的國務卿を代表せしむることと南京都督に於ける如くならしめんとせし者。而も大勢は如何ともすべからず。之を要するに故宋君は黃擁立の不合理と孫に讓步せる時の一步の不注意との爲めに、其の頭首を賭して企てたる中央政府設立と同時に身先づ其門外に驅逐せられたる者なりとす。何たる顚倒事ぞ。俘虜は大元帥となり、敗將は副元帥となり、正義の女優は中華民國大總統となり、而して中央政府建設の實働者は、終に斯くの如し。特に悲憤見るに忍びざりしことは長江各省の盟主たりし譚人鳳の獨り『北面招討使』として白髯を撫しつゝ一干の親兵を上海龍花廟に閱みして政權爭奪を知らざるものゝ如くなりしことなり。不肖は玆に於て前に閑却せし問題に答ふべし、卽ち孫逸仙は如何にして第一大總統たりしか。曰く黎元洪が副大總統たりし意味に於て大總統たりしのみと。

此の變事を報ぜる宋君の特使と共に南京に向ひつゝ、不肖は車中默想の胸裏に屢々憤情の逆り來るを感じたり。敢て私交の故ならんや。革命生起の由來と其の展開の眞相を熟知する者誰か此の顚倒事を憎まざる者ぞ。

八　南京政府崩壞の經過

統一的共和政の憲法編纂に當れる宋――日本元老等の妥協勸告の風說と、宋の遣日全權代表――孫黨日本人の宋排斥運動と孫自身の迷惑――盛宣懷を再びせる孫の漢冶萍借款交渉――革命生起の根本精神に反逆せる孫の四面楚歌――孫政府の動搖に對する張宋等の苦心――孫の始めより革命政府に首長たるべからざる說明――寰に投げ出せしは國唯一の活路なりき――日本人の或者は革命を援助せりと云ふ虛妄よりも甚しく妨害したり――佛國の北米獨立援助後兩國々交の阻隔を戒とせよ――南北妥協の大局的行動――日本朝野の相扞格せる妄動を反省せよ。

南北講和にあらず、斯くの如くにして成れる中央政府の一月餘にして土崩瓦壞したるは固より其處なりとすべし。

嚇怒せる外國人に反して宋君は冷靜なる微笑を以て迎へたり。彼は不肖の勸告に從ひて直に法制院總裁を選べり。假令革命中の暫行的憲法とは云へ大統領政治と聯邦制を原則とする米國的夢想を輸入することは支那の禍なるべしとは一外國人の警告し得べき所なりき。特に彼は佛國的統一制と大統領無責任制とが同樣なる政治的經過を辿りつゝある――則ち君主制より共和制に激變せんとする支那に於て、佛蘭西の如き反動と革命の反覆を避くべき結局的憲法なることを洞見せるを以てなり。彼は自己の草案を以て新國家を編むことは政治的活動に優りて重大深遠の責務なりと感じたり。而も常に政治的考量を忘れざる彼は、其の副總裁に武昌の民政長たりし湯化龍君を以てしたり。實に漢陽を敗走せる事は全く武昌を危險に暴露せるもの。從て武昌の同志及び他の凡ての黃君等に抱ける憤恨が漸く彼地と南京との疎隔たらんとしつゝありしことは彼の大局的眼光の看過せざりし所なり。彼は群衆心理が黎派との密通者ならずやと猜推しつゝある時、自己に對する排斥同盟が企てられつゝある時、正副元帥が意義を失へるを以て孫を大總統とせば黎元洪の副大總統推

擧は當然なりとして奔勞せる如く、湯君の推選も等しく彼が武昌と南京との聯鎖を憂惧せし一例と見るべし。――實に南京と武昌との斷絶は同時に袁と黎との握手を意味す。是れ所謂南北講和の時を待たずして當時に彼及び具眼者の凡てが孫系の盲進を憂惧せし所なりき。而して彼の憲法草案は佛人より見れば佛國的大總統なりと感ずべき如く、日本人より見れば日本的統一制なりと解すべき如く、又支那人自身が見て唐の郡縣的盛大の復活なりと自負し得べき如く、一個嚴然たる東洋的共和制なり。不肖は實に此國家大典の樹立せし際に於て支那の覺醒が深き根據を有するを見たり。則ち日本的思想により國粹文學によりて已に國家的覺醒統一的要求の眞精神なくんば、米國制の非國家的分立的飜譯は當時の孫君の光輝と群衆心理によりて新共和國に禍因を播きしやも知るべからざりしなり。不肖は日本的思想の勝利を悦ぶ日本人たる立場よりも廣く東洋民族の誇に立ちて、覺醒せる東洋精神が斯くの如く恣に歐米の長短を取捨しつゝありしを視て滿腔の欣快を感じたる者なり。一夜張君が自己の高遠なる社會革命的要求の或者、卽ち萬人は平等に土地を所有するを得との一ケ條を加へしめんとして彼と爭ひつゝ不肖を顧みて、宋君の如くんば日本憲法の飜譯なり民國と帝國と何の差ぞと痛語せし事あり。而も傍聽者は是れ反對語を以て支那の統一的覺醒を立證するものとして欣快愈々深からざるを得ざりしなり。而しながら故宋君は日本帝國憲法を編纂せし伊藤公の如く泰平の學究的研究に耽る能はざりき。彼は革命黨の祕密運動頃に於て常に革命の成否を決するもの實に日本の向背如何に存すとして憂慮せし如く、彈雨中の武昌都督府に於て日本國民の赤熱的同情に落涙感謝し日本政府の善意なる傍觀に胸撫下したる如く、彼は一たび日本に赴きて革命の目的と兩國の將來を其の朝野に訴へんと欲する切迫せる願望を抱けり。彼は法制院總裁として憲法草案の筆を執りつゝ再び不肖の勸めに從ひて自ら遣日全權代表の任に當れり。群衆心理は惡夢の醒めたる如く滿場一致の拍手を以て參議院を通過したり。彼は其手大典の章句に動きつゝ其耳は霞關の呼に聳ちたり。果然、內田君の長電によりて不肖は彼に戰慄すべき警報を傳へざるを得ざりき。卽ち長州元老等の發意なるべき滿淸皇室を存續せしめ、立憲君主政を樹てゝ妥協すべしとの勸

告是れなり。而して各方面の風説は隣國に共和政の出現することは日本の帝政に害ありとする元老等の眞意にして、恰も佛蘭西革命に對する列國の干渉を此意味に誤解する低級の歴史的觀察を以て裏書とせる者なり。不肖が宋君の名を以て内田君等の活動に期待せしは共の山縣桂諸公の長州系に有する地歩によりて當時の中心的權力なる彼等の默諾又は冥助を得る事に在りき。同君が朝鮮及び支那の祕密結社に通曉せりとの信用は、武漢勃發と同時に杉山茂丸氏等と共に桂を動かし山縣を動かし以て伊集院公使の殘虐なる提案――獨逸の爲せし如く武漢を鎭壓して滿洲の屑々たる諸懸案解決の好意を買ふべしとする打算的無道――を破碎して革命の萠芽を蹂躙せんとする過失を一髪の間に阻止したるものなり。これ實に他の囂々者流の企及すべからざる氏の勳功にして宋君等革黨一團の深く認めて感謝せし所なりき。然るに彼等を動かせし彼が、今却て彼等に動かされて共の妥協勸告の取次を爲す彼とならんとする に會す。不肖は宋君の面色見る〳〵土の如くなるを見たり。南京の埠頭に於て敵兵監視の間を聲色自若たりし彼は、不肖が彼の名を以て同君等及び各方面に打電せし寫を披見するに共手の打慄ふを知らざりき。彼は漸く冷靜に復し瞑目久うして曰く萬事を放拋して日本に行かんと。

當時を回顧する毎に、不肖は革命に何の理解を有せざる支那浪人團の言動に對して冷汗背を流るゝを覺えずんばあらず。彼等は單なる人間として有する倫理的本能と本能的喝采とを表はすに、卑しむべき奴隷心を外人環視の間に晒らすを恥とせざりき。彼等は御者の奴僕的誇榮を己が臣從する晏子の爲に競ひ、日人互に凌辱して以て快しとしたりき。彼等は後進國の覺醒を善導せんとする日本國士の適當なる責務を閑却し、却て革命渦中の群衆心理に隨伴して彼等自身の群衆を妄動せしめたりき。而して支那の群衆が孫君を拜するに足らざる偶像なりと感じ始めたるにも係らず、彼等の群衆は隨伴に後れて獨り共れを擔荷して喧々囂々たりしは實に市井の祭典に見るべからざる滑稽事なりき。擔荷せられて瞑眩せる孫君の難有迷惑は十分に同情せざるべからず。池君が革命の説明に渴望せる日本内地に歸りて、武漢は孫逸仙の命令を待たずして發せるものなりといふ主意の大阪に於ける演説の如きこの一例なり。瞑眩せる

孫君は此の功を窃むの流言を掲げたる新聞紙を差しつけて一喝せらるゝや、池君が己の莫逆の友なる事も己を香港に迎へて大總統の榮位を受くるに至らしめし保護者なりしことをも顧みずして蒼皇其の委任せし大總統祕書を取消さざるを得ざりき。池君は自ら信ずる篤き稀世の才子、求めて虚僞を揑造するが如き人物に非ざるは不肖の熟知する所なり。特に不肖は前に滬寧往來の車中に氏と邂逅せし時、孫君の親しく說明せる所なりとして革命生起の眞相を講義せられ孫則革命の三位一體的論法に會して噴飯を抑制するに頗る努力したる者。當時の談話と日本に於ける演說とが同旨意なりしに見て恐くは同君の揑造に非ざるべく、孫君が外國人の前に自己の價値を飾りし惡意なきものなり。而かも狼狽して外國の紙上に取消を廣告する如き巾幗的態度に出でざるを得ざりし者、所謂最辰の引倒にして瞑眩せる孫君の難有迷惑や察すべきなり。明敏なる池君にしてすら然り。支那革命の元老として兒女子も知らざるなき滔天の名譽を以てしてすら宋教仁排斥の文電を諸所に發せし如く然り。他の援援たる晏御的團集の孫君を拜跪する奴隷心の迸發する所、失脚せる宋君に對する理由なき垢罵に至ては殆ど聞くべからざる者ありしなり。而して三百年の鎖國政策の爲に外交的訓練の全く缺如せる日本人の常として內地の政爭に外交問題を利用する如く、遠く援助の爲に來れる頭山犬養氏等の一團は宋君の日本行を以て己が本國に於て政敵とする長閥に結托する者となし、彼が隣國に訴ふるに其の政權の中心を主眼として人の如何を問はざるべき正當の行動を非難したり。多く發言せざる頭山翁が宋君の遺日全次代表に代ふるに支那に於て存在を認知せられざる何天炯君を以てすべきことを、無力にして改易の力なき孫君に勸告して當惑せしめし如き實に當時の事なり。是れ不肖を始めとして日本全般の今後鑑戒すべき卑陋なる黨同異伐に非ずや。此の四面に起る楚歌を聞きて不肖は日本人としての反省を忘却し、民立報樓上に於て于右任張繼の二參議に怒を向けて曰く。遣日全權代表は孫君に排斥せられて日本に亡命せんとするものなるか。諸君の汚辱せし失敗者を導きて是れ革命政府を代表して交戰團體の承認を求めんが爲めに來れりとは不肖の故國に欺き言ふ能はざる所なり。孫君自身が已に宋に中心より全權を代表せしむる者に非ず。南

京を出づる時八分權代表たり上海を發する時五分權代表たり長崎に達して三分權代表たらば諸君は彼に何者を期待せんとするか。對日外交は孫の空想と浮浪漢の大陸經營論を以て當るべし。不肖は斷じて行く能はず。宋も亦然るべしと。借問す。あゝ斯くの如くにして日本人は革命に一滴水の援助だに敢てせりと言ふや。只天意は人の盛んなるを以て枉げず。日本々國の嚴然たる輿論によつて長州元老の干渉說を一流言に終らしめしを天に感謝す。

天は實に革命に倖ひせり。而しながら革命黨は自ら招ける禍を蒙りて窮地に陷れり。宋君の言へる如く勳功の有無を論ずべき時に非ざりしにせよ、現實の理想を異にし眼前の運動に沒交渉なりし外國人の如き孫逸仙君を大總統に擁立したる責罰は直に群衆の上に降れり。孫君が米國的共和國の出現に揚々たる間に於て、彼等は彼の國家觀念の許すべからざる缺陷を發見したり。囂々たる日本浪人團が局外者を拜跪合掌しつゝある間に於て、彼等は彼と日本とが愛國運動を根本より覆へさんとしつゝあるを見出せり。則ち斯る多くの者の中の一、彼と三井との間に進渉せる漢冶萍借款これなり。外國に生れて國家的

執着心を有せず且つ現下の革命運動に局外者なること等しく外國人の如き孫君は該借款を以て目的の爲めの手段と考へたるべし。而も是れ目的の爲めの手段に非ずして臨時政府の政費に過ぎざる一手段の爲めに革命勃發の大目的とせるところを蹂躙する者に非ずや。粵川漢鐵道借款に反對して四川より起れる革命は、南京に據れる革命黨の首領が漢冶萍借款を企つるを寛恕する能はず。滿洲に於て日露の武力的侵入を杆禦せんとして更に英米獨佛の經濟的侵略を誘引したる者は亡國階級の事なり。中原に於て四國が鐵道を奪取する事を坐視せざりし革命的新興階級は、他の一國が鐵山を占領することを拒斥せずして止む能はず。彼等は禹域割亡の因實に借款に存すとして萬死の間に四國の虎を前門に禦ぎたり。然るに數十百の日人に奉ぜられて威を振へる局外者は何爲れぞ最も恐るべき狼を後門より進めんとするか。支那は孫君が廣東の獨立を扶助せば福建に日本の勢力を樹立するを得べしとせる十數年前の支那に非ず。貧寒の亡命書生を以て猫額大の間島を爭ひし幾多の宋教仁に導かれて、鮮血を踏みつゝ將に興國の第一歩を踏み始めたる支那なることを想見すべ

し。彼等は日本浪人團の倫理的共鳴と本能的喝采を過信して、これ先進の愛國者が後進の憂國的奮鬪を援助するものなりとして感謝したり。彼等は彼等の偶像と日本とが內外相應じて國家賣買を計ること、盛宣懷と四國とが爲せる如くなるべしとは期待せざりき。彼等は革命の始めに於て四國に向けたる鋒先を今日本に轉ぜざるを得ざる恐怖に戰慄すると共に、彼等の奉戴せる偶像を仰ぎ視て實に賣國奴の相貌を持てることに驚愕したり。浪人團が大資本家の侵略と國權の擴張とを混同する盲目の如く、彼等は三井の利慾と頭山犬養氏の聲援とを判別する冷靜を有せざりき。日本と日本人とが隣國の覺醒を慶賀し一點の私心なき義俠を以て革命の進行を援助せんとしたることは俯仰天地に誓ひて詐らざる所なり。而も侵略的資本は此の國家と國民の眞意に反して興國の企圖に割亡の毒汁を注がんとしたり。後に回收されたる滬杭甬鐵道の一部を擔保せる三百萬兩の借款が宋君の不同意より行惱むと聞きて大倉組が彼の說得を依囑したる時、言下に拒斥したる不肖は非愛國者に非ず。日本の長計とすべき對支政策は列强の資本的侵略によりて亡びんとする大陸を保全するに在りとせば、借款亡國の警鐘に蹶起せる革命は日本帝國の將來取るべき根本政策と符合すべきものなり。然らば國家の大策と資本家の利權とを判別して考慮せる不肖の拒絕は世の所謂社會主義者なるが故に非ず。一外國人にしてすら支那の將來を憂ふる者の見る所斯くの如し。擁立の內情が如何なりしにせよ、堂々たる大總統の身を以て革命の本義を屠る如き非國家的妄動を敢てして如何ぞ大勢の憤怒を免かるべけんや。理由を北伐の軍費に求むる勿れ。隣强に國を賣りて討伐を進むるは文王の師に非ずして桀紂の交々相鬩ぐのみ。群衆は超國家的思想の孫君と賣國的腐腸の盛宣懷との差別すべき所以を視ざりき。一に英米化を能事とする孫君は支那の開放が斯る意味を以てすべからざることを解せず。只自己に逆行して波立ち始めたる群衆心理を呆然として眺めたりき。日人の群衆は此の心理的一變に隨伴する暇なくして尙孫君の讃美に熱狂し却て益々彼を非難の渦中に陷らしむることに氣附かざりき。彼の祕書長胡漢民君の實權總理としての感ずべき努力も却つて彼の家兄が昨春廣東に於ける犧牲の責任者なる回想を新たにせしめ、古來の連坐的刑罰觀に加へて、

梟首さるべきものを重用する孫文の横暴測るべからずとする激怒を煽ぐに過ぎざりき。在住英人等は自己が畫せる長江流域の勢力範圍内に亂入して日人の揚躍飛舞するを嫉視堪へずとし、十百年來練磨せし外交的舌頭を揮つて日本と孫政府との間に祕密なる恐怖の存するを流言し中傷したりき。――日本が今日漸く對支外交の範圍内に於て日英の兩立せざるを感ずるは遲きに過ぎたらずや。宋君等の彌縫何の效なくして益々隔絶を深めつゝありし武昌は、漢冶萍が湖北に在り且つ己の戰利品たる發言權の上より直に南京との斷絶を決意し、黎都督を代表せる三名は袂を連ねて參議院を辭去したり。實に法制院總裁の憲法草案が提議さるゝまで暫行せられたる孫君の各省聯邦的空夢は茲に遺憾なく害惡を暴露し、各省を統一せんとする中央政府が却て一省の一吹によりて飜倒すべき脆弱を示したるとを見よ。敗將の大元帥を許さゞりし如く局外者の大總統を承引せざりし章大炎は、終に統一の大勢に鞭つて立ち政府の所在地たる浙蘇の二大勢力張謇湯壽潛の二總長を從へて統一黨を組織し一擧孫君を驅逐するの威を示したり。ロベスピールの果斷なき黄興は、參議院を解散すべしと威嚇して却て其の激怒に萎縮したり。斷頭臺上より我首を人民に示せ我首こそ人民に示すべき價あらんと叫びしダントンの膽勇なき孫君は、殆ど策の出づべきなく日本浪人團の擔荷に益々瞑眩するのみにして只輿論の怒濤に襲心したり。俘虜を副總統としたるの故に漢口漢陽の敗戰を招きたる天理は、茲に局外者を大總統として天下を欺ける中央政府を責罰して假借せざらんとす。

外來の一賓客として起居を共にせる不肖は此際に於ける宋君の痛心を日夕目睹したり。彼は日本の干涉説が風説に止まりし安堵の思に撫でたる胸を再び政府共れ自身の動搖に痛めたり。同盟會系の二三氏を除きて有力なる總長は悉く南京を見捨てゝ上海に悠遊し、調停の爲に往來せる張繼君は連日の汽車に疲勞を極めたり。第一總統は孫逸仙ならざるべからずと主張せし張君も、米國制の暫行に迄讓歩せし宋君も、天理に背ける責罰なる事に考へ及ばずして一に倒滿の大事に當りて此危機を如何せんの憂懼に焦慮したりき。火の發する時人原因を論ぜずして消火に奔る如く、彼等は只如何にして此中央政府を維持すべきかに碎心したり。彼等は天の局外者を怒る者なるを反省せずして、日人

の崇孫に耳を蔽ひ大炎の排孫に眉を顰めたり。法制院總裁は其の起草しつゝある憲法によりてのみ斯る危機を免かれ、又斯る危機を生まざることの實物教訓に會したり。米國的大總統政治は大總統が責任を負ふものなるを以て、斯く議會と輿論に彈劾さるゝに當りては大總統共者の引責辭職に至るべく、即ち國柱の更迭を見ざるべからず。平時ならば或は以て忍ぶべし。漸く覺醒せる各省の心的共通を統一せんとして求めたる心的中心を、今の南北對立の際に突として更迭し得べくんば始めより孫君を上海の埠頭より逐ふに如かざるに非ずや。而しながら彼の心的傾向は全く別個のものにして已に共通的心意に背反する言動を廣居に立ちて天下に示したり。革命黨は憐れにもヂレマに立てり。不肖は此の危機の最中に於て〇〇〇君のクーデター敢行を宋君に力說しつゝあるを聽けり。不肖は彼が其指命者なるといふ譚人鳳の旨を矯ためる者なる事を知悉し、且つ宋君も固より其旨に出でしに非ざるを洞見し慰諭して退へり。而も批評の自由なる事後の今日、外國の感想を顧慮すべしとせる無用なる差出口よりも、宋君の大局的考慮よりも、斯る純乎たる支那自身の必要より發せる革命的行動は或は袁の天下たる局面を一變せしやも知るべからざるを回顧せざる能はず。〇君は固より內外の大勢を知る者に非ず。只彼の飾無き憤怒は孫愚我が革命を僭奪して更に袁奸に贈呈せんとするは許すべからずとするに在りしが如し。事後の批評は聰明なり。當時の天下に漲ぎれる統一的要求は南京に中心を得ずんば北京に要むべく、則ち孫政府の崩壞は同時に袁政府の設立を意味す。彼の冒險的計畫は成敗の今日より見れば革黨が陷れるヂレマより脫して一道を驀進せんとする同情すべき要求なりき。偶像を路傍に放棄して『十月十日』の空拳奮鬪に復へらんとせる興國的猪勇を暴擧と一嘘し去れる不肖の如きは終に外國人なりき。輿論の鼎沸を聞き事變の或は勃發すべき不平の醱酵を憂へたる宋君は終に默すべからずとして政府の更迭を要めたり。彼はク！デターに依る國柱の變改が彼の一貫せる各省の心的統一策に反し且つ南北對立の際鼎の輕重を問はるゝの不利を考へ、孫大總統の下に責任內閣の設立を要求したり。是れ革命黨の窮地を脫すると共に孫君個人の爲めにも凡ての非難を超越すべき唯一の途なりしなり。而しながら米國的大總統政治は孫

君の十數年來の固疾的信仰にして、佛國的大總統として單なる榮譽の中心たることは彼の手より權力を奪取するものなりと感じたるやも知るべからず。加ふるに此の革命に沒交渉にして僅かに擁立せられたる立場上より、內閣の更迭を要求せらるゝは恰も貸附せる物件の返還を督促さるゝかの如く感じたるやも亦知るべからず。遷延決せず、而して大勢は奔流の如く急轉し始めたり。北の方袁世凱あり。

願くは日本民族の誇たる任俠と多涙に於て不幸なる孫君に一掬の涙あるべし。滔々たる支那輕侮論者は所謂南北講和なる者の成立するや彼が數十萬金を賄を受けて袁に讓位せるかの流言を爲し憐むべき敗者を垢罵したり。誣妄何ぞ極まる。彼が革命の或方面の指導者たる尊敬すべき資格は實に金錢を土芥視する此美點にして、守錢奴的亡國階級を打破せんとする新興階級を人格的に代表する者實に此一事に存するは不肖の固く保證せんと欲する所なり。浪々二十年の亡命を以て得たる大丈夫一世の榮位を一月半にして拋たんには、黃金の塔を築くと雖も彼の遺恨を償ふ能はざるなり。又弱者を凌犯して自ら快とする奴隷心の滿足より、彼が電報談判を以て袁に讓りしかの如き外觀を見て薄志弱行なりと嘲笑する勿れ。彼の傳記の光輝ある部分は實に不屈なる意志と行動の終始一貫にして、交遊する者の時に處置に苦しむ剛愎の性格は利害の打算等によりて容易にかの榮位を退く人物に非ざるを知悉する者なり。理由は輕侮論者の言ふ如く彼の人格的缺陷に非ずして彼の局外者なりしことに在り。彼の利慾を超脱せる美性と、如何なる不利をも不利と感ぜざる樂天的剛愎とを以てして尙且つ袁の電告に萎縮せざりし所以は、彼の理想的錯誤が革命的群衆の逆鱗を招きたることに在り。約言すれば彼の人物問題に非ずして彼と討滿革命とが沒交渉なりし事なり。彼が革命的群衆に記憶せらるゝ點は東京に於て中國同盟會の總理たりし過去の名稱に過ぎず。奈翁を見よ。佛蘭西を分割侵入軍より救ひ更に同盟列國を馬蹄に蹂躙して十二分に報復せしめたる大恩を垂れし救國主なり。而も佛蘭西は彼がモスコーを走るとともにエルバ島に逐ひ、ウオートルローに破るゝと共に聖ヘレナに見殺にせしに非ずや。國家が己の利益に反すと感じたる時の無情冷酷は佛蘭西が救國の恩主に爲せる

所の如し。當時の支那に分割侵入軍なく、從て彼は救國主として迎へられたる者に非ず。武漢も南京も彼に係りなく革命せられ、民國は彼に微細なる少恩だに蒙らざりき。彼が大總統たりしは恰も南京占領後の聯軍諸將が功を爭ひしが故に、嘗て巡撫たりし老癈程德全を持出して都督としたる如し。則ち俘虜と敗將との故に、嘗て中國同盟會總理たりし者に求めたるのみ。救國の大恩ある曠世の英雄に對してすら一戰の過を許さゞる彼が如く無情なりしとせば、統一的必要の爲に埠頭より拾ひし偶像を統一の障害と考ふると共に路傍に投棄したる冷酷は國家至上主義より視て寧ろ恕すべき道德的選擇にあらざりしか。不倫なる對象を止めん。輕侮觀者の如く孫君が支那人なるが故の人格的薄弱にあらずして、一に只彼と革命政府との接合が薄弱なりし故に存す。否、薄弱なりと云はんよりも二者の接合の不合理なるは俘虜を大元帥となし敗將を副元帥となせるよりも優りて、殆ど惡魔の胴に天使の首を載せたる如し。天使の首はワシントンの樂園を夢み、惡魔の胴は佛蘭西革命の地獄に血を嘗めんと欲す。米國獨立後の樂園は財政も裕かに、隣强の窺ふ者もなく、自由も立ち、憲法も行はれ、反動の蛇も潛まざりき。佛蘭西革命の地獄を渡り始めたる革命黨等は斯る天國の歡樂を語らるゝだに憤怒すべき苦痛を抱ける鬼なり。其の根本的思想本能的感情より已に同席すべからず。各省分割的憲法と割亡的借款とは單に破裂を求めたる噴火口に過ぎずして、二者の同論的討究によりて分離したる者に非ず。地獄に王たる者はサタンなり。革命を支配する者はダントンなり、ロベスピールなり。天使とワシントンとは寧ろ敵國の人に非ずや。苦痛の鬼、戰の地獄の支那に將にサタンとして來るべかりし孫君は、天使の心を以つて三井との割亡的借款を企てたり。ダントンの如くロベスピールの如く大屠殺を以ても敢行すべき統一的要求の支那に歸りて、孫君はワシントンの十三州分立の飜譯より各省分割的憲法を强ひたり。革命運動が彼に何の恩惠を蒙らざりしのみならず、革命の理想に對して彼の思想は却て明白なる反逆者なりき。中國同盟會總理が放浪の間に染色して懷にしたる米國風の國旗は一顧だにされずして、別種の統一的理想を五族に及ぼさんとせる五彩の民國旗に見よ。——是れ國家的理想のシンボルに於て彼の理想が全部抹殺されたるを四億萬民に示せ

る明證にあらずや。則ち彼は始より其の旗陰に立つ大總統たるべからざるものなりき。斯くの如き天下の大勢より孤立したる孫君を擁して北方の袁世凱に對立すべきを期待したる日本人は、不肖如何にすとも革命の理解ある援助者なりと信ずる能はず。革命的群衆が其の推戴せる偶像の眞相を看破して怒り始めたる時、群衆心理の殘虐は之を粉碎せずんば止まざりし事例は史に見る所なり。孫君の活路は宋の提案せし當時に於てせば已れ非難の上に超越して一切の責任を內閣制に負はしむることに在りき。遷延決せずして玆に至りし後の其れは唯一あり。卽ち速かに袁に投げ出すことのみ。電報談判の妙境に入りて孫袁授受の決するまで援助團の代表頭山犬養氏等も與り聽かざりしといふは信用すべからざる民族性の故にあらず、活路を見出せしときの生物の本能なり。若し孫君にして頑然各省分割的憲法を維持せしとせよ。彼は米國の其れを主張せしラフアエットの運命に從ひて斷頭臺に登らざるべからず。若し又依然割亡的借款を遂行せしとせよ。彼は一月前諸政院に彈劾せられたる盛宣懷の後を追ひて參議院の問責の下に亡命せざるべからず。實に支那浪人團の聲援は大勢に取殘されたる轍鮒の如き一紳士に大奈翁も企つべからざる不可能事を强ひし者と云ふべし。聲援の反動として講和後彼に對する嘲笑漫罵の風潮に一變せしは、革命の理想と運動の眞相を理解せざるよりの過失にして深く責むべきにあらず。而も任俠を誇とする日本人としては彼の思想的缺陷を論ずるに嚴正なるべく、謂れなき誣妄を尊敬すべき人格に加ふるは恥辱に非ざるか。日本人としての多涙は彼が微功なくして萬死一生の實勳者等より奪ひし當時に惡むべく、王莽の威嚇に酬ゆるに一人の味方だに無かりし悲慘なる沒落に及んで指笑するは其誇とする所を傷けざるか。不肖は獨り怪しむ、常に傲然として支那の指導者を以て任ずる日本及日本人は、斯る革命に交涉なき別個の一思想家を選びて援助したる自己の無知無理解を反省せざる事を。力なき孫君は責を負ふべからず。革命の實體を把握せずして幻影に後援し俗諺の所謂暖簾に腕押しの錯誤を演じて却て暖簾の薄弱を罵り、實節を誣ひ、怒の移る所終に支那民族は革命の資格なしと獨斷するに至る。不肖は實に日本人の反省的良能の健在を憂ふると共に、無力なる孫君の不幸に同情を禁ぜざる者なり。